

# 鹿児島高専だより

## 第73号

平成31年3月

〈特集〉「志学寮」と学生生活



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

# 目 次

## 校長室から

人類の未来と自然との共存をデザインする技術者 … 1

## 特 集

『志学寮』と学生生活 …… 2

## 教務だより

1, 2年数学補習 …… 6  
一日体験入学 …… 6  
授業評価アンケート …… 8  
インターンシップ …… 9  
キャリア教育とFD研修会について … 9  
今年度の活動を振り返って …… 10

## 学生だより

ご挨拶 …… 11  
晴天の秋空の下で …… 11  
文化祭 …… 12  
自転車・バイク・自動車に通学する学生への指導について …… 12  
都城・鹿児島高専親善試合結果 …… 13  
大会等入賞一覧 …… 15  
学生表彰者リスト …… 17

## 志学寮だより

LED照明の導入 …… 21  
寮長より …… 22  
学寮チュートリアルの実施状況 …… 22  
学寮食堂の献立会議 …… 23  
新任の挨拶 …… 24

## 専攻科だより

専攻科の現状 …… 25  
ベトナムでの英語研修 …… 26

インターンシップ報告 …… 26  
インターンシップに参加して …… 27

## 地域共同テクノセンターだより

平成30年度の地域共同テクノセンタの活動について …… 28  
鹿児島高専テクノクラブ …… 29

## 学生何でも相談室だより

高専での1年間を振り返って …… 30

## 教職員研究活動

技術室の研究活動 …… 31  
リアクションホイールによる姿勢制御 … 31  
私の研究と人生 …… 32

## 卒 業

贈る言葉 …… 33  
卒業にあたって …… 34  
転 機 …… 34  
高専生活を振り返って …… 35  
卒業にあたって …… 35  
生きたい人生 …… 36  
専攻科で学んだこと …… 36  
専攻科を修了するにあたって …… 37  
専攻科で学んだこと …… 37  
好奇心という種 …… 38  
卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 …… 38

## 教職員の動向

私の定年退職 …… 41  
定年退職にあたって …… 41  
退職のご挨拶 …… 42

平成30年度 優秀教員表彰 …… 42

## 国際交流だより

国際交流室だより …… 43  
アカデミックインターンシップの報告 44  
海外企業インターンシップの報告 …… 45  
海外企業インターンシップの報告 …… 46  
夏期海外研修の報告 …… 47

## 同窓生だより

次世代を担う在学生へ …… 48  
在校生のみなさんへ …… 48  
高専生として …… 49  
社会を支える技術者に …… 50  
思えば遠くへ来たもんだ(海援隊) …… 50  
挑戦は大事! …… 51  
在校生のみなさまへ …… 52  
ご愛読の皆様へ …… 53

## 広報委員会だより

広報委員会の活動報告 …… 54  
ニューライフカレッジ『隼人学』 …… 55

## 後援会だより

5年間を終えて …… 56  
出会いに感謝 …… 56  
5年間ありがとう …… 57  
5年間を通して …… 57  
高専生の親1年生 …… 58  
のびのびと、心豊かに …… 58

## 行事予定

平成31年度 行事予定表 …… 59

## 【表紙の説明】

写真上左：第七志学寮

写真上右：志学寮食堂・食事風景

写真下左： //

写真下右：志学寮全景（空撮）





## 人類の未来と自然との共存を デザインする技術者

校長 丁子 哲治

これまで、本校の学習・教育到達目標を取り上げてきましたが、残るは「人類の未来と自然との共存をデザインする技術者」です。

技術が社会や自然環境にどのように影響を与えたかは、歴史をみればよくわかります。鹿児島高専の学生諸君には、150年程前に渡英した Satsuma Students の時代を話題にしてみましょう。当時の英国では、第1次産業革命の成熟期でありました。この産業革命の時代の技術が社会や自然環境に与えた功罪の例を考えてみましょう。

Satsuma Students が到着する直前まで英国ではコレラが大流行していました。コレラは、コレラ菌で汚染された水や食物から感染することから、その対策として下水道が整備されました。Satsuma Students はロンドンで下水道を見ているはずですが、下水道水の処理技術の開発はもっと後世になりますが、とにかく下水道の普及によってコレラの大流行はほとんど終息しました。これは技術による成功例と言えましょう。

一方で、英国の産業革命の初期にはエネルギー源として木炭に頼っていたのですが、そのため殆どの森林が伐採され、その結果として現在の英国では丘陵風景となつたとされています。木炭が無ければ産業革命は進みませんので、これまで使うことを嫌っていた石炭を使うことになります。石炭が嫌われたのは燃焼時に発生する悪臭ガスでしたが、大量に使うことによってさらに大規模な大気汚染がもたらされます。Satsuma Students がロンドンに滞在していた時代が、その時です。残念なことに、Satsuma Students は、英国の高度な技術に目を奪われるばかりで、技術の負のところには気付かなかったよう

です。このような英国での環境破壊や人々の健康被害については、産業革命以前から予測されていましたが、産業革命による経済効果が優先され、十分な対策が講じられてこなかった経緯があります。

日々、新しい技術が開発され実装化されて、私たちの生活が豊かになってきていますが、一方で日常的に技術によるリスクと隣り合わせの状況となっており、リスク回避の対策が不可欠となっています。リスク回避ができないと人々の生活や自然環境に大きな被害を及ぼすこととなります。このような、新しい技術による功罪はどのように予測できるのでしょうか。

これまで学んだことに基づいて、論理的に考えれば、かなりのことが予測できます。良く学習し論理的思考を働かせる必要があります。これを演繹法と言います。しかし、十分なデータがない現象に対しては演繹法に限界がある場合があります。そこで、現在の複雑な種々のシステムに対しては、IoT や AI を駆使したビックデータに基づいた解析が行われようとしています。このような方法は帰納法の一つです。しかし、膨大なデータに基づく解析によって相関性が確認できても、そのことによって因果関係を示すとは言えません。ここが帰納法の限界です。すなわち、演繹法と帰納法のバランスが必要と言えます。

第4次産業革命が始まっている今日、既存技術と情報技術の融合による高度化によって、さらに複雑なシステムが生み出されようとしています。同時に、技術者としてはそのことが人間社会にどのような影響を与えるのか、自然環境とどのように調和するのか、という未来予測ができなくてははいけません。学生諸君には、国連サミットで採択された、2030年までの国際目標であるSDGsを学び、データで検証可能な論理的思考の力を身につけ、人類の未来と自然との共存をデザインできる技術者として、未来を切り開いていって頂きたいと希望します。



## 『志学寮』と学生生活

寮務主事 野澤 宏大

かつて本校は全寮制を敷いていたため、ほとんどの学生が何らかの形で寮と関わっていました。平成28年度に1年生全寮制が廃止されて以降、学生寮のことをまったく知らない、という学生・保護者も少なくないと思います。まずは、学生寮の基本的なところから紹介しましょう。

「本校の寮は、志学寮と称する。」とは、鹿児島高専学寮規則の第3条に謳われている文言です。平成30年12月現在、志学寮では531名（男子477名、女子54名）の学生が共同生活をしています。志学寮は最大で600名程度の学生を収容することが可能であり、全国でも最大規模の高専寮の一つとなっています。居室棟は七つあり、それぞれ第一志学寮（一志）、第二志学寮（二志）、第四志学寮（四志）、第五志学寮（五志）、第六志学寮（六志）、第七志学寮（七志）、および女子志学寮（女志）という名前が付いています。通常は、括弧内に示した略称で呼ぶことが多いです。これらの棟のうち男子寮は一志、二志、四志、六志、七志の5棟、女子寮は五志、女志の2棟となっています。居室棟のほかに、敷地内には事務室（寮務係）、食堂、男子浴場、屋外洗濯場などの建物があります。なお、自宅通学生は寮の敷地に入ることはいけませんので、**図1**に志学寮全体の見取り図を示します。

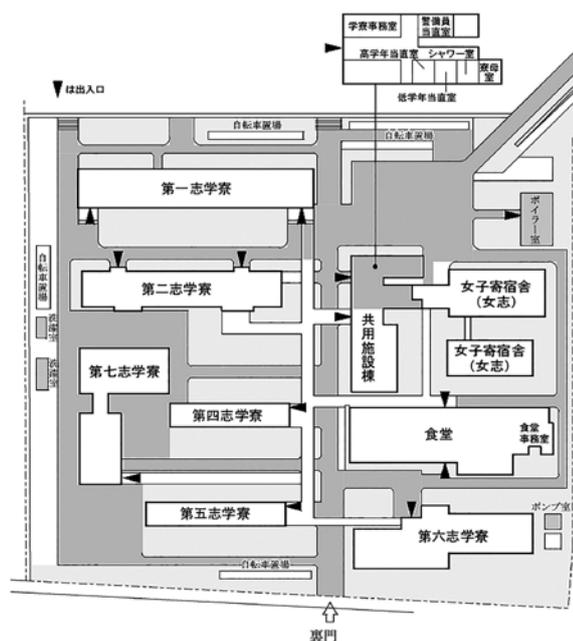


図1 志学寮の見取り図

ここまで読んですぐに気づくことは、

「どうして第三志学寮（三志）がないのですか？」

ではないかと思います。中学生及び保護者に志学寮の説明をした際に、そのような質問が出たこともありました。三志という名の棟は、平成19年3月までは確かに存在していましたが、耐震強度不足のため解体されてしまいました。**写真1**に在りし日の三志の姿を示します。現在、四志にだけは自習室・補食室はありません（外付けの洗濯室はあります）。その理由は、三志の解体と密接に関係しています。実は三志と四志は内部でつながった構造になっていたのですが、自習室・補食室・洗濯室といった共用スペースがすべて三志にあったのです。

その後、平成24年度に新しい棟が建設された際に、

「三志が復活するのでは？」

との期待もありましたが、結局三志は今も欠番のままです。新棟の名前は、六志の次ということで七志となったのです。ところで志学寮の居室棟の中で、一番古い建物はどれでしょう？今の話の流れからすると答えは一志のように思えますが違います。実は二志です。



写真1 解体直前の第三志学寮（平成19年3月撮影）

今でこそ収容人数にある程度の余裕がある志学寮ではありますが、1年生全寮制を敷いていた平成27年度までは、入寮希望者の数が収容可能人数を上回っていました。2月の入寮審査の段階では、新入生約210名分を開けておく必要があったため、寮に残ることを希望しても、寮を去らざるを得ない上級生も少なくありませんでした。現在は入寮する新入生は150名前後を推移しており、そのおかげで助かっている上級生も少なくないでしょう。

平成27年度には、女子寮生の収容人数不足問題に直面しました。当時は女志しかありませんでしたが、定員48名のところに女子留学生2名が加わったため、一般女子寮生の定員が46名となったのです。一方で本校の女子学生の数は増加傾向にあり、女子学生の収容人数を増やすことが喫緊の課題となりました。女子寮を新た

に増築するという案は、予算面から現実的なものとは言えません。どうしても、男子寮の一部を女子寮に転用する必要が生じました。そこで白羽の矢が立ったのが、平成25年度に女志の改修が行われた際、女子寮に転用された実績のある五志です。平成29年度から、五志を再び女子寮に転用することができ、女子学生の収容人数不足を解消することができました。参考のため、過去4年間の女子寮生数の推移を表1に、男子寮生数の推移を表2に示します。平成29年度以降の前期の男子寮生数が、平成27年度と比べてちょうど五志の定員分(34名)程度だけ減少しています。前年度に1年生全寮制を廃止したおかげで実現できたとも言えます。

表1 女子定員と女子寮生数の推移

	女子定員	前期入寮者	後期入寮者
平成27年度	48	48	47
平成28年度	48	48	48
平成29年度	82	59	59
平成30年度	82	59	54

表2 男子の推移。平成28年度に1年生全寮生廃止

	前期入寮者	後期入寮者
平成27年度	539	526
平成28年度	517	480
平成29年度	498	469
平成30年度	502	477

### 寮の日課時間

朝の起床時間は7時で、ここで最初の点呼があります。天気が良ければグラウンドでラジオ体操、天気が悪ければ廊下で整列点呼となります。寒い冬の時期は、晴天時も廊下で整列点呼となります。その後、朝食時間を経て各自登校していきます。参考までに、ある日(10月10日)の8時ちょうどから8時50分までの寮生の登校状況を図2に示します。細かくてわかりにくいですが、この日はこの50分間に500名の寮生が登校し、そのピークは8時25分ごろと、35分ごろにありました。残りの30名は、8時前に登校していることとなります。なお、授業時間中は各棟の入り口は施錠されており、中に入ることはできません。忘れ物をした際は、クラス担任または科目担当教員の許可があった場合のみ対応しています。

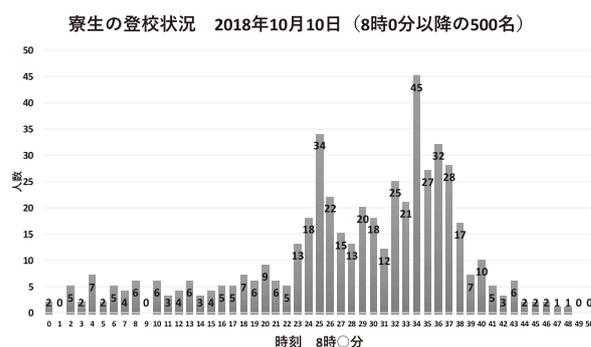


図2 10月10日の寮生の登校状況

3限目(14時30分まで)の授業が終わる前には、各棟の玄関は開錠されています。帰寮した寮生たちは、自由に過ごすことができます。部活に励む学生や外出する学生もいれば、ひたすら一番風呂を狙う学生もいます。ちなみに入浴時間は16時30分から19時50分まで、夕食は17時30分から19時までとなっています。

中間点呼(19時55分)終了後、20時から23時までには自習時間となっています。自習時には「完全自習時間」と「自己研修時間」というものがあります。前者は自室で自習しなければいけない時間帯で、他室訪問も厳禁です。後者は休憩時間のようなもので、寮内を自由に往来できる時間帯となっています。

23時の最終点呼後は、基本的には就寝するための準備をする時間となっていますが、使い方は自由です。24時消灯で、以降は翌朝まで居室のコンセントも使えなくなります(エアコンは除く)。一連の志学寮日課の流れを表3に示します

表3 志学寮の平日の日課時間

### 行事・イベント

日課	日課時間
起床	7:00
点呼(朝)	7:10~ 7:20
朝食	7:20~ 8:20
登校(授業開始)	
昼食	12:00~13:00
帰寮(授業終了)	
入浴	16:30~ 19:50
夕食	17:30~ 19:00
門限	19:50
点呼(中間)	19:55
完全自習時間	20:00~ 21:20
自己研修時間	21:20~ 22:00
完全自習時間	22:00~ 23:00
点呼(最終)	23:00
消灯	24:00

今年度の志学寮の主な行事・イベントを、以下に示します。

- 4月 5日 (木) 開寮・寮オリエンテーション
- 4月 8日 (日) 寮リーダー研修
- 4月14日 (土) 寮生マッチ
- 4月18日 (水) 学寮避難訓練
- 4月23日 (月) 寮生総会
- 5月16日 (水) 寮生講話
- 7月 2日 (月) 寮七夕飾りパーティ
- 8月11日 (土) 閉寮
- 9月30日 (日) 開寮
- 12月 6日 (木) 留学生パーティ
- 12月22日 (土) 閉寮
- 1月 6日 (日) 開寮
- 1月16日 (水) 志学寮パーティ  
寮長選挙
- 2月23日 (土) 閉寮

様々なイベントが開催されていますが、ここで寮生会の面々が大いに力を発揮します。寮生会は学生組織で、寮長、副寮長、統括、文化委員、生活委員、衛生委員、報道委員、および補佐からなり、今年度のメンバーは31名(男子25名、女子6名)です。寮に関する各種行事・イベントの他、1日3回の点呼も切り盛りしています。開寮・閉寮の際には、車の交通誘導を行っているので、寮生の保護者の方は、彼らの働く姿を見かけたことがあると思います。

改めて行事・イベントを眺めてみると、「パーティ」という文字が3つあります。ここではそれら「七夕飾りパーティ」、「留学生パーティ」、および「志学寮パーティ」の3つについて簡単に触れてみましょう。主な寮生会の担当部局は、文化委員となります。

七夕飾りパーティはその名の通り、七月の七夕の時期に実施します。普通の寮生は、より簡単に「七夕パーティ」と呼んでいます。寮生が七夕飾りを準備し、スイカなどの果物を食べて楽しんでいます。何故スイカなのか、ということについては、誰も知りません。七夕パーティの時期が近づいてくると、自己研修時間(21時20分から22時)を利用して、多目的ホールにて有志が黙々と七夕飾りを作る姿を見ることができます。また七夕飾り用の竹に関しては、舎監の中神さんがご自宅の竹林から手ごろなサイズのを毎年提供してくださっています。一同、非常に助かっています。

例年は屋外で開催している七夕パーティですが、今年度は台風が接近していたため、急遽屋内の多目的ホールに会場変更をしました。その様子を写真2に示します。屋内の七夕パーティも、なかなか楽しかったです。

写真2 多目的ホールに設置された七夕飾り



留学生パーティは、毎年後期の適当な時期に実施しています。今年度は、後期中間試験後の12月6日に実施しました。参加者は外国人留学生と寮生会メンバーだけで、お互いの親睦を深めるための催しとなっています。今年度の外国人留学生は全員男子で、マレーシア出身者2名、モンゴル出身者1名、カンボジア出身者2名の計5名となっています。各自に自己紹介をしてもらったあと、クイズやゲーム(写真3参照)を楽しみました。年度により、内容や会場に多少の違いがあり、留学生・寮生会の出身地紹介が行われたこともありました。

写真3 留学生と寮生会のジェンガ対決



志学寮パーティは、毎年1月中旬に寮長選挙とともに第一体育館で実施します。こちらも「寮生パーティ」と呼んだ方が、通りがいいと思います。イントロクイズ、モノマネ、豪華景品の当たる抽選会(写真4)など、毎年なかなかの盛り上がりを見せます。これら一連の余興の中で、毎年のように新たなスターが生まれており、改めて鹿児島高専生のポテンシャルの高さをうかがいすることができます。

開催時期が1月なので当たり前ですが、この時期は非常に寒いことが多いです。以前は若さで乗り切っても

らっていましたが、さすがに限界があります。期末試験を前に体調を崩しても困りますので、最近は石油ファンヒーターを導入して、皆が暖かく過ごせる寮生パーティになるようにしています。

写真4 抽選会でゲーム機が当たりました



対象に「学寮チュートリアル」を開催しています。自分でわからない箇所を、写真6の様に専攻科生チューターに質問することができます。教えることは新たな学びにつながります。これは、専攻科生にとってもいい経験になっています。

写真6 専攻科生チューターに質問中



## 学習

新入生が自学自習の習慣を身につけることを目的として、「1年生集合自習」を実施しています。5学科を順番に多目的ホールに集め、前期中間試験前に3回、前期末試験前に2回、後期中間試験前に2回実施しており、後期末試験前にも2回実施予定です。自室での自習とは異なり、友人同士で相談も可能なので、写真5の様に自分たちに合った学習方法を模索する学生たちもいます。

写真5 「島」を作って学習に取り組んでいます



日課時間の項でも触れたとおり、通常は24時に消灯となります。しかし、試験時間割発表日から試験最終日前日までの期間に関しては、消灯時間が午前2時まで延長されます。寮生用語で、これを「延灯」と呼んでいます。また各棟の自習室は、消灯時間と関係なく使用することができます。昨年度までに、すべての自習室へのエアコン設置も完了しています。消灯時間後であっても、時には夜遅くまで（早朝まで？）レポートを書かねばならない場合なども出てきます。そんな時、大いに役立つのが自習室ですので、大いに活用してほしいです。ただし、使用後の電灯とエアコンの切り忘れにだけは注意してほしいです。

## おわりに

以上、「志学寮と学生生活」というお題に関して、駆け足で書いてみました。「今年度から新たに寮内無線LANを導入」、「乾燥機を増強中」、「洋式トイレ増加中」など、まだまだ足りない点が多々あることは重々承知しておりますが、それらを全て書き出すと紙面がいくらあっても足りません。この特集以外にも、高専だよりの中には「志学寮だより」という項目もありますので、そちらも参照いただければ幸いです。

それでは、このあたりで締めとさせていただきます。

試験の時間割発表以降の時期は、3年生以下の学生を



## 1, 2年数学補習

教務主事補 白坂 繁

本校では、豊かな未来を創造できる開発型技術者を育成することが教育理念です。そのためには、理工系の最も基礎となる数学の修得が必要です。

ですが、現状では数学の修得が不振で、結果、他の理系科目・専門科目の修得も難しい学生が多くいます。

原因は、中学校と比べて、①内容の高度化、②授業の速さ、そして何よりも③自学自習、積極的な学習の不足にあると思われます。

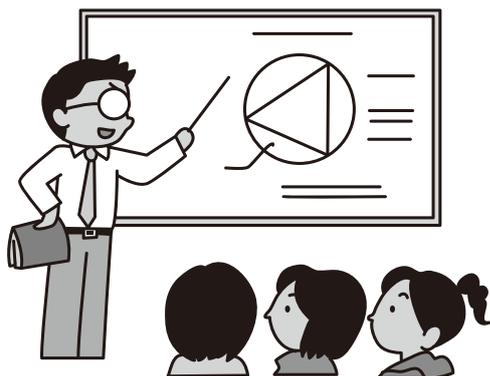
そこで、教務委員会では、2014年より以下のような数学補習を実施し、授業内容の補填、自学自習の習慣づけを試みています；

- ・方法：用意された基本的な問題を解き、分からない問題は、教科書等で調べるか、TA(専攻科生)に質問して解決する。
- ・対象：定期試験の成績をもとに、数学科で選んだ1, 2年の数学の成績不振者40名。
- ・日時：原則、1年生は木曜日の4限、2年生は月曜の5限に60分間行う。

今年も、前期中間試験・期末試験、後期中間試験後に補習を実施しました。無事、不振から立ち直った学生もおりますが、どうしてもスランプから抜け出さない学生もおります。

数学不振の学生の殆どは、分からないから解けないといえます。それは一面真実ですが、一面間違っています。「泳ぎ方」の本を読んで理解してからプールに入る人はいません。泳ぎながら理解するしかありません。数学も同じです。解きながら理解するしかありません。

学生諸君には、補習の趣旨を理解し、自ら学習をする習慣をつけてほしいと切に願う次第です。また、保護者の皆様にも、学生への励ましをお願いする次第です。



## 一日体験入学

教務主事補 屋地 康平

### はじめに

2018年度一日体験入学は、8月5日(日)に開催され、県内外の中学校から、448名(男子364名、女子84名)の参加者を得て、盛況のうちに幕を閉じました。当日の大まかなタイムスケジュールを表1に示します。当日は朝から日照りが厳しく<sup>\*1</sup>、14時頃にかけて気温が上昇し真夏日となりましたが、参加者の体調不良などはなく、全員が無事に、予定された日程を終えることができました。

### 体験実習

体験実習は、90分間で、高专での創造教育(実験・工作)の一端に触れることができる、ものづくり体験イベントです。毎年、一日体験入学の目玉イベントにもなっています。今年も、各学科の教員と技官、学生が、特色あるテーマを立ち上げ、実験・工作の魅力を、参加した中学生にアピールしました。参加者は、主催者の想いに応え、熱心の実習に取り組みました。各学科の実習テーマを表2に、実習状況の概要を図1に示します。

### 保護者向け学校説明会

保護者向け学校説明会は、中学生が体験実習に参加している時間帯を利用して行われました。

表1 主なイベントとタイムスケジュール

08:30	参加者集合・受付
08:50	教務主事挨拶・全体説明
09:00 <sup>*2</sup>	体験実習(90分)
11:00 <sup>*2</sup>	学校概要・学科説明 学科展示会場の見学 保護者向け学校説明会
12:30	昼食(希望者は寮食堂にて)
13:30 <sup>*3</sup>	女子中学生のための茶話会 部活動紹介 ロボギャルズ ワークショップ 進学相談 志学寮説明会 学寮や図書館等自由見学

<sup>1</sup>鹿兒島の AMeDAS によると、日中の最高気温はおおよそ 34℃ を記録しました。

<sup>2</sup>2部制を採りました。中学生は前半組と後半組に分かれ、入れ替わりで体験実習してもらいました。(①9:00～、②11:00～)

<sup>3</sup>午後は、参加者が自由に参加する形を採りました。自身の予定が終了し次第、流れ解散としました。

教務主事より、高専に入学してからの学修や卒業後の進路等の概要を紹介しました。保護者の中には、初めて高専の概要に触れる方も多くおられ、高専と高等学校とで異なる様々な事情や、関連する話題について、一様に熱心にご聴講いただけたのではないかと思います。説明会会場の状況を図2に示します。

表2 体験実習のテーマ

機	ペットボトルロケットを飛ばそう
	ガラスを削ってオリジナルコップを作ろう
械	ウインドカーを作って走らせよう
	コンピュータでハンドスピナーをデザインしよう
	撮った写真が形になる!?!スマホでパシャ→ロボット彫刻!
電 気 電 子	お宝発見!?!「金属探知機」の作製!
	運勢は電気が決める!「電子おみくじ」の作製
	プラズマで削る顕微鏡の世界の芸術!「超ミクロ加工」
	手の動きを感じて音程が変わる!?!「電子楽器」の作製
	人間の五感を超える電波をキャッチ!「電波感知器」の作製 無線探索機「ローバー」
電 子 制 御	レーザ光線を体験してみよう
	Arduino, LEDを使ってサイコロを表示させてみよう
	障害物回避ロボットをつくってみよう
	ミニロボコンに挑戦
	あなたも UFO キャッチャーの名手! ~UFO キャッチャーのコンピュータ制御~ 4足歩行ロボットづくりに挑戦
情 報	光で物体認識ロボットカー
	プログラミングを体験してみよう!
	「1+1=10」コンピュータの頭脳を体験してみよう
	コンピュータの中心となる加算器を作ってみよう プログラミング言語で2輪倒立ロボットを走らせよう!
都 市 環 境	強く美しい橋の模型を作ろう!
	「水質分析」を体験してみよう!
	まちの状況を解析!
	アイデア勝負!コンクリート強度アップコンテスト



図1 体験実習の様子

## 学科展示

学科展示は、実際に学生が授業で製作した展示物を間近で見ることができるイベントです。展示物のほとんどが、体験実習では触れることができなかった、より専門的な技術をつかったものです。そのため、参加した中学

生は、体験実習とは違った視点で楽しんでいただけたのではないかと思います。保護者も、製作物やポスターを眺め、学生らの説明に熱心に耳を傾けておられるようでした。展示会場の様子を図3に示します。

## 女子中学生のための茶話会

女子中学生のための茶話会は、その名のとおり女子中学生と本校女子学生の交流の場を設け、中学生の様々な疑問に応えるために企画されたイベントです。本校は、学校を挙げて、女子学生の入学者増加を願っています。その後押しに少しでもなるよう、この茶話会を開催しています。参加した中学生は、和やかな雰囲気です。本校の女子学生、参加した他校の女子中学生と話をしていたと思います。茶話会会場の様子を図4に示します。この中の一人でも多くの生徒が、工学の道を志し、鹿児島高専に入学してくれることを願います。

## ロボギャルズ ワークショップ

ロボギャルズ (Robogals) は、オーストラリア・メルボルン大学の学生によって創設された、国際的な学生団体です。鹿児島高専は、Robogals Kagoshimaとして、2017年からこの団体に参画し、学生自らが、エンジニアを目指す理系女子を増やす活動に力を入れています。体験入学当日は、ロボギャルズメンバーらによるロボットの実演展示を行い、参加した女子中学生に工学の魅力を伝えました。ワークショップ会場の様子を図5に示します。メンバー自身も、女性エンジニアの卵として、また一つ代えがたい経験を積んで成長してくれたのではないかと思います。

## おわりに

2018年度一日体験入学は、8月5日(日)に開催され、県内外の中学校から448名の参加者を得ました。ここで紹介しきれないイベントもありましたが、多くの教職員と学生らの協力をいただいたおかげで、活況のうちに閉幕しました。

次年度入学試験受験志願者増を願い、ここに記して御礼申し上げます。



図2 保護者向け学校説明会会場の様子



図3 学科展示会場の様子



図4 女子中学生のための茶話会会場の様子



図5 ロボギャルズ ワークショップ会場の様子

## 授業評価アンケート

教務主事補 前菌 正宜

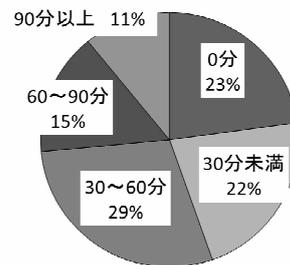
鹿児島高専ではFD活動（教員の授業力を向上させるための取り組み）の一環として授業評価アンケートを実施しています。授業を受けた学生の皆さんからの意見をもとに、授業の進め方（進むスピード、話し方、板書、わかりやすさ、興味を引き出す工夫など）や授業環境（居眠りや私語をする学生がいないかなど）を改善することを目的としています。

前期、後期の終わりにアンケート用webサイトが設置され、学生は所有のスマートフォン等を利用してアクセスし、各科目の質問に当てはまる選択項目を選ぶことでアンケートに回答します。

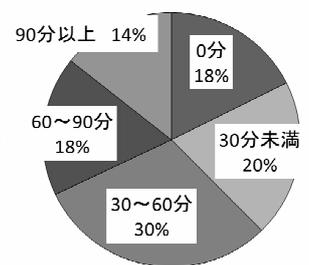


平成30年度前期に実施したアンケートから、学生の勉強時間に関する調査結果を下図に紹介します。

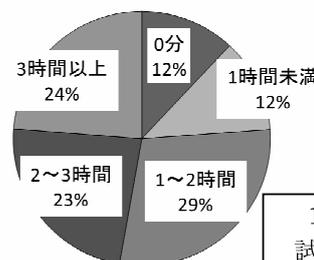
この結果から概ねの平均値を計算すると、平均的な鹿児島高専生は授業1回の予習・復習に39分、課題・レポートに45分、試験前には1科目あたり115分勉強していることとなります。中には勉強時間0分と答えている学生もいますが、単位を修得できなかった学生もまた0ではないため、勉強しなくて良いというわけではありません。高専生としてふさわしい能力を身につけるためにも、進級・卒業を向かえるためにも毎日の自学自習を心がけましょう。



授業1回あたりの予習・復習時間



授業1回あたりの課題・レポート時間



鹿児島高専生の勉強時間は？

1科目あたりの試験前の勉強時間

## インターンシップ

教務主事補 前園 正宜

インターンシップは「学生が在学中に自らの専攻・キャリアに関連した就業体験を行う制度」と位置づけられています。高専の本科4年生および専攻科1年生を対象としたインターンシップの受け入れが様々な企業・大学から提供されており、参加者は年々増加しています(表1)。今年度はべ177名の4年生(4年生全体の86%)の学生が夏期休業中にインターンシップに参加しました。

インターンシップでは、企業に赴くことで、実際の業務の体験や見学、社員の方々との交流、他の高専生との進路に関する情報交換など、学生が進路を考えていく上で大いに参考になる貴重な経験ができます。

学生にとっては大きなメリットとなるインターンシップですが、一方で高専の学生が学外の方から評価される機会でもあります。インターンシップが単位となる科目である工場実習でも、企業からの評価を受けて可否を決定します。この数年でも、企業から以下のような厳しい評価をいただく学生も少数ながらもいました。

- ・無断欠席、遅刻をする。
- ・設定された課題を提出しない。
- ・グループワークで人任せになり、自分は何もしない。

いずれの評価も、遊び半分、不誠実な姿勢でインターンシップに参加したことを指摘されています。学外でこのような評価を受けてしまうと、鹿児島高専の学生全体の評価、学生本人の学内での評価など、多くのマイナスの影響があります。一方で以下のような良い評価をいただいた学生もいます。

- ・相手の意図をよく理解し、能動的に行動した。
- ・グループワークでまとめ役となり、他のメンバーをフォローした。

進路を考える上で貴重な経験となるインターンシップですが、「ただ体験しただけ」で終わることのないように、積極的かつ真摯に取り組み、学生の皆さんにとってより大きな収穫を得る機会となることを期待します。

表1 本科4年生のインターンシップ参加割合

	H28年度	H29年度	H30年度 (参加人数)
M科	83%	81%	84% (36名)
E科	57%	47%	76% (28名)
S科	83%	78%	98% (40名)
I科	54%	75%	80% (33名)
C科	85%	88%	86% (37名)
全体	75%	77%	86% (177名)

## キャリア教育とFD研修会について

教務主事補 鎌田 清孝

本校は、平成19年に鹿児島県技術士会との連携協定を締結し、技術士会との連携による共同教育を実施しています。今年度の技術士会との連携教育の一貫である2年生対象のキャリア教育は以下のとおりである。

日時：11月7日(水)14時40分～15時30分

○機械工学科2年

講演者：(株)建設技術研究所九州支社鹿児島事務所  
宮園 譲二 氏

演題：「技術者の楽しみ」～例えば、まちをつくる、道をつくる～

○電気電子工学科2年

講演者：(株)建設技術コンサルタンツ  
中村 大輔 氏

演題：「技術者の楽しい未来」

○電子制御工学科2年

講演者：大福コンサルタント株式会社  
高畦 博 氏

演題：「技術者と技術士」

○情報工学科2年

講演者：鹿児島県始良伊佐地域振興局建設部  
宮内 新一 氏

演題：「技術士の社会的役割(公務員技術士として)」

○都市環境デザイン工学科2年

講演者：(株)アジア技術コンサルタンツ  
萩原 清道 氏

演題：「これからの技術者の人生設計について」

また、4年生対象の共同教育及び企業からの最新技術動向の講演は以下のとおりである。

○機械工学科4年

日時：12月6日(木)13時～14時30分

講演者：株式会社タナカサトル技術支援  
田中 覚 氏

内容：4年生に対して、プロダクトデザイン(製品の意匠)とエンジニアリングデザイン(モノの設計)の違いについて演習やグループワークを通して学ぶ

○電気電子工学科4年

日時：1月31日(木)13時～14時30分

講演者：株式会社西栄設備事務所  
樋木 信彦 氏

内容：電気機器関連の実験・実習

○電子制御工学科4年

日時：11月15日(木)14時40分～16時10分

講演者：平石電技コンサルタント

平石 育典 氏

内 容：外部講師：最新の技術事情について（講話）

○情報工学科 4年

日 時：12月10日（月）14時40分～16時10分

講演者：株式会社ラック

内 容：サイバーセキュリティの最新の技術動向やその業務内容および必要なスキル

○都市環境デザイン工学科 4年

日 時：1月17日（木）14時40分～16時10分

講演者：始良伊佐地域振興局建設部土木建築科

宮内 新一 氏

内 容：防災に関連する技術動向の講話とキャリア教育のための講話など

さらに、本校におきましてもFD研修会を開き、教育能力を高めるための実践的方法に取り組んでいます。FDとはFaculty Developmentの略で、「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法」のことであり、大学の授業改革のための組織的な取り組み方法を指します。今年度のFD研修会は以下のとおりである。

○第1回FD研修会

日 時：6月4日（金）15時～16時

講演者1：電気電子工学科 須田 隆夫先生

演 題 1：「分野横断的能力の説明について」

講演者2：一般科目物理 野澤 宏大先生

演 題 2：「専門的能力 分野別の工学実験・実習について」

講演者3：電気電子工学科 前菌 正宜先生

演 題 3：「授業力アップアクティビティ報告 学科横断の授業見学（H28年度、H29年度）」

○第2回FD研修会

日 時：11月30日（金）13時30分～14時30分

講演者1：電子制御工学科 岸田 一也先生

演 題 1：「Moodleの活用とアクティブラーニング」

講演者2：機械工学科 渡辺 創先生

演 題 2：「普段授業を行う上で考えていること・実践していることの紹介」



## 今年度の活動を振り返って

教務主事 須田 隆夫

### ＜今年度の教務委員会の活動について＞

教務委員会の様々な仕事のなかで、代表的なものや本校独自の取り組みの状況を、この「教務だより」で報告しました。志願者確保に直結したイベントである体験入学は、多くの教員のPR活動のおかげもあって、H28年度と比較しても参加者が増えました。また、4年のインターンシップ（工場実習）は着実に参加者が増えてきています。報告で掲載されている表はH28年度からの推移を示しましたが、H27年度は48%の参加率でしたので、3年間で1.8倍になっています。数学補習やFD研修会も本校の学修や教育の改善になくてはならないものです。

以上のような活動と違って、学生や保護者の方々には見えにくいのですが、全国の高専が取り組んでいる教育上の課題があります。それが「モデルコアカリキュラム（MCC）に基づいた教育の質保証」です。以前にも紹介しましたが、全国の国立高専の授業について、共通の達成目標を定めたMCCに各校のカリキュラムや授業内容を整合させ、それに沿った授業を展開するという活動を行っています。さらに学修状況をチェックするためのインターネット利用のWebテストであるCBT（Computer Based Testing）も今年度から本格実施しています。

このような教育活動は、将来（既に今でも）日本で必要とされている「グローバル×イノベーション」な人材（「材」ではなく「財」）を育てるためなのです。

### ＜今、高専への期待、応援がすごい！＞

以上のような高専全体の教育方針や、これまでの実績のおかげか、最近、産業界だけでなくいろいろな方面で高専への評価が高く、メディアにも取り上げられています。日経新聞に掲載されたAI研究者の松尾先生（NHK教育「人間ってナンだ？超AI入門」出演）の記事では「高専生は日本の宝」とまで言ってくれています。AIやIoTなどテクノロジーが社会を急速に変えていく状況の中で、実践的な（即ち社会とつながった）高専教育が注目されています。ここで頑張らないと、期待は失望に変わるということを我々は肝に銘じて置かねばなりません。

最後に、授業はもとより日々生じる様々な問題への対処など、不断の努力をされている先生方や職員の皆さん、そしてご理解、ご協力頂いている保護者の皆さんに、心より感謝しつつ、この稿を閉じたいと思います。



## ご挨拶

一般教育科 塚崎 香織

学生主事を二期四年務め、この度任期が終了いたしますので、ご挨拶申し上げます。学生主事という役職を引き受けるまでに、一般教育科の英語の担当として授業を受け持ち、担任を務めましたが、その際に学生の皆さんや保護者の方々と接する以上に、学生主事として皆様とお会いする機会が多く、ご親切にたくさんお声をかけていただきまして、心より感謝申し上げます。授業に行っていないクラスの学生の皆さんからも名前を覚えていただき、当たり前のように名前を呼んでもらうと、実はびっくりすると同時に感激しておりました。保護者の皆様とは、後援会三役会、理事会、支部会、学校行事等でお会いし、学校に対する貴重なご意見や感想を賜り、心より感謝申し上げます。

学生委員会の担当としてこの四年を振り返ると、高専祭が一番印象に残っております。学生主事として最初に担当した平成二十七年の高専祭では、秋晴れの下、開会式において、五色の学科オリジナルTシャツを着た皆さんが立派に行進した姿を見た時には、大変感激し思わず涙ぐみました。毎年、長い準備期間を経て迎える高専祭当日は感慨深い思いですが、実は今年度の高専祭においても、一番目の学科が応援団演武を始めた際に、大変感動し思わず涙ぐんでおりました。また、実行委員会の学生が、「先生は行かなくていいです。僕が行きます。」と率先して観客席の安全管理のための声かけに走ってくれたこと、暗い中グラウンドのゴミ拾いを最後までしてくれたことが印象に残っています。学生主事補の先生方や学生係を始め、教職員の皆様の協力の下で、学生会役員、文化祭実行委員会、体育祭実行委員会がリーダーとなり、学生の皆さん全員で文化祭、体育祭を成功させてくれました。学生時代に何かを成し遂げた経験は、今後の長い人生においても、きっと支えとなってくれることと思います。学生の皆さんと、このように貴重な時間を共有できたこと、大変嬉しく思っております。

今後は、英語の教員として、授業や学校行事等でお会いすることになります。お会いする機会が減ってしまうのが残念ですが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 晴天の秋空の下で

一般教育科 鞍掛 哲治

昨年「高専だより」の最後に、照る照る坊主を作って次年度の体育祭の晴天を祈っていたと書いたが、その甲斐あってか(?)、今年度の体育祭は3年ぶりの晴天の下での開催となりました。今回は、応援団の援舞ばかりでなく競技種目も実施され、久しぶりの本格的な体育祭となりました。

天気は体育祭当日だけでなく、後期が始まった10月も味方してくれました。昨年は猛暑の名残が長く続き、蒸し暑い中での応援団練習が実施されたため、熱中症で倒れ救急車で病院に搬送する学生も出て、練習中止・再開を何回も繰り返したことを覚えています。しかし、今年の10月は昨年と比にならないくらい秋のカラッとした天気が続き、また学生諸君の自己管理のお蔭もあり、病院のお世話になる学生が一人もいなかったことは、健康管理の面でもよかった点ではなかったのでしょうか。

また、体育祭当日の天気は前述の通り晴天となり、ここ2年間競技種目が実施できなかった鬱憤を晴らすように、“半端ない”女子学生の競技に始まり、男子学生の棒倒しや騎馬戦と、各種目大いに盛り上がりました。今回初めて学生のテントをフィールド内に移動し、出場している学生を間近に応援できるようにしたところ、出場・応援する両学生に一体感が生まれ、今までにない盛り上がりが見られたように思われます。今年の体育祭は、援舞だけではなく、競技種目の存在も再確認させてくれた体育祭でもあったように思われます。

最後に、体育祭実行委員会のメンバーに感謝の意を表したい。委員長の中谷君を中心に、昨年の体育祭終了後から約一年間メンバーで議論を重ね、用意周到に準備を行ってきました。その結果、いくつかの新しい試みも取り入れられ、非常に盛大な体育祭であったと同時に、様々な場面で柔軟に対応できる高専生の潜在能力の高さをも示すことができたものと思います。このような学生たちと共に体育祭の係を担当できたことは、教師冥利につきる感がある。



## 文化祭

一般教育科 篠原 学

学生主事補として今年度の文化祭を担当しました。これまでの文化祭でも、担当しているクラブの展示を手伝う形で準備期間から当日まで活動していましたが、文化祭全体を見渡すという機会はありませんでしたので、何をどう進めれば良いのか全く分からず、準備を進めるにあたって、以前の主事補の先生方が作成して下さった資料がたいへん参考になりました。

7月9日に、実行委員会による第1回話し合いが行われ、高専祭のテーマとして、「かける この2日間への青春」が提案されました。「かける」には、駆ける、賭ける、架ける、翔ける、の4つの意味が込められているとのことで、実行委員会の気持ちの詰まったスタートになったと思います。

事前の準備で最も気を使ったのは、露店に関する手続きでした。当日早朝の食堂の使用についての業者との相談、保健所や消防署との連絡、発電機の手配など、学外とのやり取りが多く、ひとつでも準備が滞れば露店の実施が困難になります。露店担当学生はたいへんだったと思いますが、しっかりと準備を進めてくれて、私が心配することは何もありませんでした。

その一方、学内の準備作業はなかなかスムーズには行かず、展示計画の詳細、パンフレットの原稿、実施計画書作成などが大きく遅れ、実行委員会から私へ詳しい情報が届かないという状態がぎりぎりまで続きました。そのため、様々な問題が準備終盤になって顕在化し、多くの方にご迷惑をおかけしてしまう事になりました。自分の指導力の不足を反省するとともに、ご協力いただいたみなさまに深く感謝を申し上げます。

文化祭当日は天候に恵まれ、3年ぶりにステージを屋外に設置することができました。保護者や地域の方など、多くの来場者をお迎えすることができ、展示会場や露店の賑わいは素晴らしいものでした。私も会場の各所を見て回り、このお祭りに「かける」学生たちの熱気を実感することができました。文化祭実行委員たちも、それぞれの担当部署で精一杯がんばっていました。彼らにとっても、それぞれの役割については手探りだったはずで、当日までの過程はたいへんだったと思います。それでも、この経験が本人たちを成長させていることは間違いありません。苦労しながらでも、今後もこの素晴らしい文化祭を学生自身の力で繋げていって欲しいと願います。

## 自転車・バイク・自動車 で通学する学生への指導について

学生委員会交通担当 機械工学科 小田原 悟

本校の学生のうち寮生以外は自宅から通学する。自転車・バイク・自動車  
で通学する学生に対して学生委員会では以下のように指導をしている。

先ず、4月及び10月の第1週目は本校正門に立って自転車やバイクが付近の中学生生徒や自動車に迷惑にならないように交通ルールを守って本校学生が運転しているかについて指導する。自転車通学の学生は本校正門に入る手前で後ろを確認せず斜め横断をして自動車と接触する危険を冒したりする。横断歩道を使って2段階右折するように指導を徹底している。また、自動車通学の学生には同乗を禁止している。車両登録をしている自動車に家が近いからといって乗せてもらって登校する学生が少なからずいる。そのような学生には正門に入って直ぐに厳重注意をする。過去において同乗者を伴った重大事故を起こして同乗者と共に大怪我をしたことがあった。安全管理の面や損害賠償で学生自身が不利益を被ることがないようにとの配慮から自動車通学生の同乗者は認めていない。

次に車両登録について本校のルールを説明する。本校学生便覧の12～13頁に車両別の許可条件を示している。

- 自動車：5年生と専攻科の学生が対象。5年生が自宅から本校迄の距離15km以上、専攻科生が自宅から本校迄の距離3km以上とする。他方、公共交通機関での通学が著しく困難である場合は事情を考慮して許可する場合がある。なお、任意保険に加入していること。
- バイク：2年生50cc未満の原付バイク、3年生以上250cc未満のバイクとする。ヘルメットはフルフェイス及びオープンフェイスタイプのみ。通学距離が3km以上とする。なお、任意保険に加入していること。また、国分隼人自動車学校でのバイク実技講習会に参加すること。前期は自動車学校の好意により無料で受講させてもらっているが、後期は少人数のため受講料を学生が支払っている。
- 自転車：全学年が対象。防犯登録がされている車両のみ許可する。なお、バイク自転車の2人乗りを固く禁止している。

学生委員会としては上記条件が揃った学生に対しては車両の登録を許可しステッカーを所定の位置に貼り付けるよう指導している。しかしながら、許可していないのにぬけぬけと通学してくる学生も少なからずいる。対象の車両に車両ナンバーを記載したビラを貼って警告を發したところ次の週から未許可車両は見かけなくなった。

# 都城・鹿児島高専親善試合結果

鹿児島高専会場

平成30年5月12日(土)

競技種目	試合	結果
サッカー	第1試合 都城 △	( 0 - 0 ) △ 鹿児島
	第2試合 都城	( 0 - 2 ) ○ 鹿児島
	第3試合 都城	( 0 - 13 ) ○ 鹿児島
	第4試合 都城	( 0 - 1 ) ○ 鹿児島
ハンドボール	第1試合 都城	( 24 - 38 ) ○ 鹿児島
	第2試合 都城	( 9 - 37 ) ○ 鹿児島
	第3試合 都城	( 19 - 41 ) ○ 鹿児島
男子バスケットボール	第1試合 都城	( 51 - 81 ) ○ 鹿児島
	第2試合 都城 ○	( 30 - 24 ) 鹿児島
	第3試合 都城 ○	( 20 - 15 ) 鹿児島
女子バスケットボール	第1試合 都城 ○	( 60 - 34 ) 鹿児島
	第2試合 都城 ○	( 28 - 14 ) 鹿児島
バドミントン(男子)	第1試合 都城	( 0 - 3 ) ○ 鹿児島
	第2試合 都城	( 0 - 3 ) ○ 鹿児島
	第3試合 都城	( 0 - 3 ) ○ 鹿児島
バドミントン(女子)	第1試合 都城	( 1 - 2 ) ○ 鹿児島
ソフトテニス(男子)	第1試合 都城	( 0 - 3 ) ○ 鹿児島
	第2試合 都城	( 0 - 3 ) ○ 鹿児島
	第3試合 都城	( 0 - 3 ) ○ 鹿児島
	第4試合 都城	( 0 - 3 ) ○ 鹿児島
ソフトテニス(女子)	個人戦	優勝 原口(歩)・永田組(鹿児島) 準優勝 川崎・山下組(鹿児島) 3位 坂元・立山組(都城) 3位 原口(俊)・山下組(鹿児島)
	個人戦	優勝 安永・小野組(鹿児島) 準優勝 丸野・上野組(鹿児島) 3位 櫻木・花岡組(都城)
剣道	第1試合 都城 ○	( 3(4) - 1(2) ) 鹿児島
	第2試合 都城 ○	( 1(2) - 0(0) ) 鹿児島
	第3試合 都城 ○	( 2(2) - 0(0) ) 鹿児島
	第4試合 都城	( 1(1) - 2(2) ) ○ 鹿児島
水泳	競泳部門 都城	( 332 - 385 ) ○ 鹿児島

## 都城・鹿児島高専親善試合結果

都城高専会場

平成30年5月12日(土)

競技種目	試合結果
陸上	総合点 都城 ○ ( 142.5 - 101.5 ) 鹿児島
硬式野球	第1試合 (4・5年) 都城 ( 2 - 7 ) ○ 鹿児島
	第2試合 (1～3年) 都城 ○ ( 22 - 11 ) 鹿児島
男子バレーボール	第1試合 都城 ○ ( 2 - 0 ) 鹿児島
女子バレーボール	第1試合 都城 ○ ( 2 - 0 ) 鹿児島
卓球	◆ 団体戦
	第1試合 A 都城 ( 1 - 3 ) ○ 鹿児島
	第2試合 B 都城 ( 1 - 3 ) ○ 鹿児島
	第3試合 C 都城 ( 2 - 3 ) ○ 鹿児島
	◆ 個人戦 1位 吉田 (鹿児島)    2位 吉田 (都城) 3位 尾堂 (鹿児島)    3位 小川 (鹿児島)
弓道	◆ 団体戦男子 都城 ( 6 - 11 ) ○ 鹿児島
	都城 ( 8 - 9 ) ○ 鹿児島
テニス	◆ 団体戦
	第1試合 都城 ( 4 - 6 ) ○ 鹿児島
	第2試合 都城 ( 5 - 6 ) ○ 鹿児島
	第3試合 都城 ( 1 - 6 ) ○ 鹿児島
	第4試合 都城 ( 3 - 6 ) ○ 鹿児島
第5試合 都城 ( 1 - 6 ) ○ 鹿児島	
柔道	◆ 団体戦
	第1試合 都城 ○ ( 3 - 2 ) 鹿児島
第2試合 都城 ○ ( 3 - 2 ) 鹿児島	

# 大会等入賞一覧

## ◎第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

開催日：平成30年7月5日～23日、11月10日～13日

### (1)陸上

男子100m・200m 1位 佐方優介

男子400m 1位 池田 悠馬

男子5000m 1位 大重 拓海

男子1500m 2位 大重 拓海

男子110mH 2位 永留健人

男子400mリレー 2位

池田・佐方・永留・山下

### (2)ソフトテニス

男子ダブルス

1位 原口歩己・永田哲平

3位 山口聖稀・藪山成羽

### (3)バドミントン

男子ダブルス 3位 牛込・内村

### (4)水泳

総合優勝

男子100m・200m平泳 1位 宮路健太郎

男子200mバタフライ 1位 山之口雅人

男子100m平泳 3位 広谷智之

男子200m平泳 3位 池田将磨

男子100mバタフライ 3位 山之口雅人

男子100m背泳 3位 西川哲史

男子400m自由 3位 上石坂駿

男子800m自由 3位 石原侑弥

男子400mメドレーリレー 1位 西川哲史・宮路健太郎

山之口雅人・内山尚紀

男子400mリレーリレー 1位 石原侑弥・西原琢斗

榮晃太郎・内山尚紀

女子200mリレーリレー 1位 松元水樹・釜崎寧々

池田英永・石原京依

### (5)バスケットボール

男子 2位

### (6)サッカー

優勝

### (7)柔道

男子60kg級 2位 川畑賢志郎

男子90kg級 3位 中園康太

### (8)バレーボール

男子 3位

### (9)テニス

男子団体 2位

## ◎第53回全国高等専門学校体育大会

### (1)陸上

開催日：平成30年8月18日（土）～19日（日）

予備日：8月20日（月）

会 場：えがお健康スタジアム

（熊本県民総合運動公園陸上競技場）

結 果：男子200m 2位 佐方 優介

### (2)バドミントン

開催日：平成30年8月25日（土）・26日（日）

会 場：牧園みやまの森運動公園総合体育館

「牧園アリーナ」

結 果：男子シングルス 3位 中馬祐輔

### (3)水泳

開催日：平成30年9月1日（土）・2日（日）

会 場：長崎市民総合プール

結 果：男子100m平泳 3位 宮路健太郎

### (4)サッカー

開催日：平成30年8月18日（土）～22日（水）

会 場：島原市営陸上競技場

結 果：優勝

## ◎第15回全国高等専門学校デザインコンペティション

開催日：平成30年11月10日～11日

会 場：釧路市観光国際交流センター

結 果：5位入賞及び審査員特別賞

「チェストオー橋」

## ◎第18回九州沖縄地区高専新人テニス大会

開催日：平成30年1月13日

会 場：熊本県熊本市パークドーム熊本

結 果：男子団体 3位

## ◎平成30年度九州・沖縄地区高等専門学校

### バドミントン新人戦

開催日：平成30年12月15日・16日

会 場：熊本県玉名市総合体育館

結 果：男子団体 準優勝

## ◎第12回全国高等専門学校英語プレゼンテーション

### コンテスト

開催日：平成31年1月26日～27日

会 場：神戸市民文化振興財団西区民センター

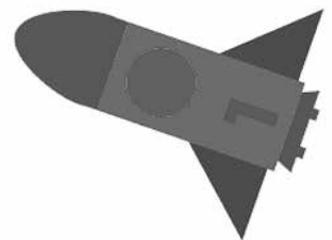
結 果：チーム部門 3位

◎第2回かぎん未来創造プランコンテスト

開催日：平成30年10月13日（土）

会 場：かぎん会館 with

結 果：優秀賞「とくなが研」、  
「桜島火山灰自動計測センサ研究チーム」



## 学生表彰者リスト

◎スポーツ賞

○団体の部

サッカー部	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	優勝
	第53回全国高等専門学校体育大会 (兼第51回全国高等専門学校サッカー選手権大会)	優勝
	第25回九州高等専門学校(U-19)サッカー大会	優勝
水泳部	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	総合優勝

○個人の部

陸上競技部			
電子制御工学科 4年 サカタ ムウスケ 佐方 優介	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子100m	第1位
	第53回全国高等専門学校体育大会	男子200m	第1位
電子制御工学科 4年 イケダ ユウマ 池田 悠馬	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子200m	第2位
	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子400m	第1位
機械工学科 3年 オオシゲ タクミ 大重 拓海	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子500m	第1位
	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子1500m	第2位
テニス部			
電子制御工学科 1年 カシハラ ヨウセイ 梶原 涼世	第36回高校サマージュニア大会	少年男子シングルス (1年生の部)	準優勝
ソフトテニス部			
電子制御工学科 2年 ナガタ テツペイ 永田 哲平	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子個人戦 (ダブルス)	優勝
都市環境デザイン工学科 2年 ハラグチ イフキ 原口 歩己	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子個人戦 (ダブルス)	優勝
水泳部			
機械工学科 4年 ミヤジ ケンタロウ 宮路 健太郎	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子100m平泳ぎ	優勝
		男子200m平泳ぎ	優勝
		男子400mトドレーラー	優勝
電子制御工学科 2年 ヤマノクチ マサト 山之口 雅人	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子200mハーフライ	優勝
		男子400mトドレーラー	優勝
電子制御工学科 3年 ニシカワ サシ 西川 哲史	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子400mトドレーラー	優勝
都市環境デザイン工学科 3年 ウチヤマ ナオキ 内山 尚紀	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子400mトドレーラー	優勝
		男子400mフリーレー	優勝
機械工学科 3年 イシハラ ユウヤ 石原 侑弥	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子400mフリーレー	優勝
都市環境デザイン工学科 5年 ニシハラ タクト 西原 琢斗	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子400mフリーレー	優勝
情報工学科 4年 サカエ コウタロウ 築 晃太郎	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	男子400mフリーレー	優勝
都市環境デザイン工学科 3年 マツモト ミズキ 松元 水樹	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	女子200mフリーレー	優勝
都市環境デザイン工学科 3年 カマサキ ネネ 釜崎 寧々	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	女子200mフリーレー	優勝
情報工学科 3年 イケダ ハナモト 池田 英永	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	女子200mフリーレー	優勝
都市環境デザイン工学科 2年 イシハラ ケイ 石原 京依	第55回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会	女子200mフリーレー	優勝

## 学生表彰者リスト

- ◎文化賞  
○団体の部

電子・情報・システム研究部	平成30年度情報セキュリティに関する懸賞論文	佳作
---------------	------------------------	----

○個人の部

英語部		
機械工学科 3年 ホリワキ ケンタ 堀脇 健志	第51回九州沖縄地区国立高等専門学校英語 プレゼンテーションコンテスト プレゼンテーション部門	第3位
機械工学科 5年 クマハラ ケンタ 隈原 健太	第2回かぎん未来創造プランコンテスト	優秀賞
機械工学科 5年 ノザキ カイト 野崎 魁人	第2回かぎん未来創造プランコンテスト	優秀賞
機械工学科 5年 ミナミハシ ヒロ 南橋 千裕	第2回かぎん未来創造プランコンテスト	優秀賞
電気電子工学科 5年 クサモト ケイ 草本 乃亜	第2回かぎん未来創造プランコンテスト	優秀賞
電気電子工学科 5年 ホンダ カナト 本田 奏人	第2回かぎん未来創造プランコンテスト	優秀賞
電気電子工学科 2年 テラタ マサ 寺田 優斗	平成30年度交通安全ファミリー作文コンクール	文部科学大臣賞
電子制御工学科 3年 ヤマシタ ナツホ 山下 夏穂	平成30年度鹿児島県高校生ビブリオバトル大会 Dブロック	優勝
都市環境デザイン工学科 4年 クキヤマ レン 久木山 蓮	屋久島町口永良部島未来会議	企画及び運営の中心となり、南日本新聞に記事が掲載。
電気情報システム工学専攻 2年 久原 ヨスケ 田原 孝輔	ETロボコン2018九州南地区大会	アドバンスト(中上級) クラス競技部門 優勝 九州経済産業局長賞
電気情報システム工学専攻 1年 イマムラ カズマ 今村 一磨	ETロボコン2018九州南地区大会	アドバンスト(中上級) クラス競技部門 優勝 九州経済産業局長賞
電気情報システム工学専攻 1年 ニシ アリサ 西 亜莉沙	ETロボコン2018九州南地区大会	アドバンスト(中上級) クラス競技部門 優勝 九州経済産業局長賞
電気情報システム工学専攻 2年 ハマダ レオ 浜田 怜旺	The 37th JSST Annual International Conference on Simulation Technology (第37回日本シミュレーション学会国際会議)	Student Poster Presentation Award
都市環境デザイン工学科 4年 ミヤハラ マサシ 宮原 将志	第53回全国高等専門学校体育大会ポスター公募	採用

## 学生表彰者リスト

◎文化賞

○個人の部 つづき

都市環境デザイン工学科 5年 ニシハラ 琢斗 西原 琢斗	第15回全国高等専門学校 デザインコンペティション	構造デザイン部門 審査員特別賞
都市環境デザイン工学科 5年 ニシハラ 涼平 西原 涼平	第15回全国高等専門学校 デザインコンペティション	構造デザイン部門 審査員特別賞
都市環境デザイン工学科 5年 ホカソノ ユウキ 外薗 侑樹	第15回全国高等専門学校 デザインコンペティション	構造デザイン部門 審査員特別賞
都市環境デザイン工学科 4年 エノキソノ ミ 榎園 麻実	第15回全国高等専門学校 デザインコンペティション	構造デザイン部門 審査員特別賞
都市環境デザイン工学科 4年 マツキ マナ 松木 万奈	第15回全国高等専門学校 デザインコンペティション	構造デザイン部門 審査員特別賞
都市環境デザイン工学科 4年 マツタ シズカ 松下 静香	第15回全国高等専門学校 デザインコンペティション	構造デザイン部門 審査員特別賞
英語部		
電子制御工学科 5年 シモハラ ケイスケ 下原 啓佑	8th International Joint Symposium on Engineering Education	Best Presentation Award
電子制御工学科 5年 トウナイ ヒロム 東内 裕武	8th International Joint Symposium on Engineering Education	Best Presentation Award
機械・電子システム工学専攻 1年 トクダ タクミ 徳田 拓海	8th International Joint Symposium on Engineering Education	Best Presentation Award
機械・電子システム工学専攻 1年 ハセガワ ケイ 長谷川 慶	8th International Joint Symposium on Engineering Education	Best Presentation Award
機械・電子システム工学専攻 2年 コウ コウシ 後藤 巧志	8th International Joint Symposium on Engineering Education	Best Presentation Award
情報工学科 5年 ミヤソノ タイガ 宮薗 大雅	第12回全国高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト	第3位
情報工学科 5年 クロイ アカ 黒石 愛華	第12回全国高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト	第3位
情報工学科 5年 タベ ユカヨ 田渕 友佳子	第12回全国高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト	第3位

## 学生表彰者リスト

### ◎特別賞

都市環境デザイン工学科 5年 オオヤマ レン 大山 蓮	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 5年 カナガ ユウ 川中 悠詩	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 5年 カハラ シウマ 川原 嵩麻	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 5年 ツチハシ アツマ 土橋 徹真	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 5年 ホカゾノ ユウキ 外園 侑樹	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 5年 マツダ タカヒサ 松田 尚久	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 5年 ミギタ アカリ 石田 朱里	技術士第一次試験合格 (上下水道部門)
都市環境デザイン工学科 5年 ヨシモト ヨウヘイ 吉本 浩平	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 ウエハライ リキ 上拂 力輝	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 エノキノ マミ 榎園 麻実	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 カンダ ユウキ 神田 祐樹	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 クベタ タカシ 久保田 拓海	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 ノダ ヒロト 園田 寛人	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 タケザキ トモキ 竹崎 智紀	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 タケノウチ ユウタ 竹ノ内 佑多	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 タナカ ユメ 田中 由愛	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 トクナガ カズヒロ 徳永 寿祐	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 ナカクボ ケイゴ 中久保 敬悟	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 ナガハマ キンセイ 長濱 銀正	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 ニシケルミズ シュンタロウ 西垂水 俊太郎	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 ヒガシ セイリュウ 東 青龍	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 マツキ マナ 松木 万奈	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 マツタ シズカ 松下 静香	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 ミヤハラ マサシ 宮原 将志	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 ヤノ コウセイ 矢野 晃誠	技術士第一次試験合格 (建設部門)
都市環境デザイン工学科 4年 ヨシムラ リウヤ 吉村 凌弥	技術士第一次試験合格 (建設部門)

## LED 照明の導入

寮務主事 野澤 宏大

ひと昔前、夏場になるとコンビニエンスストア等には殺虫灯が設置されていました。夜になると青白く輝き、虫が飛び込むたびにパチパチという音を立てていました。しかし最近、コンビニエンスストアから殺虫灯が姿を消しました。なぜでしょう？それはLED (Light Emitting Diode) 電灯の急速な普及と大いに関係しています。

もともとは「省電力」という意味合いで、蛍光灯に置き換わり導入されたであろうLEDですが、実はそのスペクトル中に紫外線を含まないそうです。「飛んで火にいる夏の虫」、という言葉に代表されるように、虫たちは光に集まる習性を持っています。これをもう少し詳しく調べると、どうやら虫たちは波長400nmより短い光に引き寄せられているようなのです。ということはLED導入を進めれば、志学寮でも虫対策ができるのではないのでしょうか？

第六志学寮（六志）の洗濯室の窓は、形状が特殊で網戸を設置するのが難しい構造となっています。夏場は暑いので、当然窓を開け放ちます。でも網戸がないので、虫は入り放題の状態でした。結果、昨年度の寮生アンケートでも「虫が入って来て困る」といった意見が散見されました。そんなアンケートを眺めていた平成30年3月、不意に冒頭の殺虫灯のことを思い出したわけです。そこで、試しに六志洗濯室の電灯をすべてLEDに交換してみました。これで夏場の夜間に洗濯室の窓を開放しても、建物内に虫は入って来ないはず。平成30年8月、前期末の寮生アンケートに六志の虫に関する苦情はありませんでした。その代わりに、第一志学寮（一志）の苦情が目立つようになりました。

一志は建物が古いこともあり窓の建付けが悪く、かつ網戸に隙間がある部屋もあります。わかっているなら改修すればいいのですが、改修のための足場を組むだけで予算が飛んでしまうという状況です。しかし、一志の場合は洗濯室ではなく居室の話ですから、どうかしないといけません。寮生アンケートを待つまでもなく、前期のうちに寮務委員会で検討し、一志の居室や自習室の電灯をLEDに入れ換えることを決定しました。果たしてその効果は…ですが、交換したのは夏休み期間中の9月です。交換後となる10月以降は虫の出なくなる時期ですので、よくわかりません。来年度の夏に期待しておきましょう。

と、書き放しで終わるのもどうかと思いますので、実際に可視分光器を用いて行った測定結果も報告しま

す。図1にLED（実線）と蛍光灯（破線）のスペクトル（縦軸が強度、横軸が波長のグラフ）を示します。これらは、グラフの面積が等しくなるように規格化されています

$$\left( \int_{380}^{780} f(\lambda) d\lambda = 1 \right)$$

（ $\int_{380}^{780} f(\lambda) d\lambda = 1$ ）。わかりやすく言うと、LEDと蛍光灯の明るさが等しくなるよう換算している、ということです。測定は六志と一志でそれぞれ行いましたが、両者に差はありませんでしたので、六志の結果だけを示しています。人間の目には一様に見える室内灯の明かりですが、LED、蛍光灯はそれぞれ特徴的なスペクトル形状をしています。LEDは波長450nm（ナノメートル）付近が明るく、全体的に二山のスペクトル分布となっています。これに対し蛍光灯は、連続光成分の中に細い山（線スペクトルと言います）が4本ほど見えています。参考までにこれら4本の山は、水銀に由来するものです。さて今回最も注目すべき点は、波長400nm以下の領域です。蛍光灯では弱いながらもある程度の強度がありますが、LEDにはそれがありません。このようにLEDはカタログ通りのスペクトルを有していますので、部屋の明かりに虫が引き寄せられることはないと思います。ただしアリやゴキブリに関しては、紫外線とは別の理由で寄って来ることが考えられます。これらへの対策には、各自の努力が必要であることは言うまでもありませんね。

参考までに、本校の総務課施設系の検証によると、10月以降の一志の電力使用量は前年度比で約40%減となっています。一方で前期（8月まで）は前年度比で微増であり、省エネ効果は確実に表れているようです。

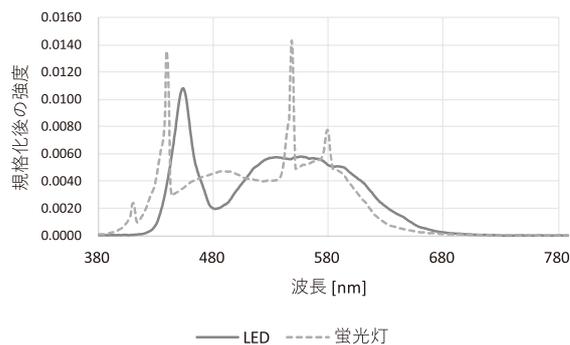


図1 六志で取得したLED（実線）と蛍光灯（破線）のスペクトル。

## 寮長より

機械工学科 4年 竹添 雄大

こんにちは、寮長の竹添です。僕は重富に住んでいます。通学できる距離ですが寮生です。そのくらい寮が好きです。4年間も寮に入らせてくれた親に感謝しています。

そんな僕の好きな寮の寮生が減っています。寮を見渡すと空き部屋がたくさんあります。僕はもったいない、、、寮は楽しいのに、、、とってしまいます。僕が1年生の頃は寮でたくさんの人と関わりいろんな人から刺激を受けました。そして他学科の人とも交流ができました。今の低学年の後輩たちには少しもったいないな、とってしまいます。入学時に全寮制だったら寮生は増えます。しかし数年前みたいに1年生を全寮制にするのはできないみたいです。僕は寮に1人でも多くの人に入ってほしいと思い、寮務主事の野澤先生に話をすると、夏にある体験入学でもしかしたら寮の紹介ができるかもしれない。ということで、なんとか時間を貰い4Eの教室で参加型ではありましたが寮の説明会を開くことができました。予想以上に参加してくれた人が多くて嬉しかったです。寮の良さも伝えられたのではないかと思います。体験入学で自由に高専生に質問できる場でもあったので、やってよかったと思っています。これで来年の寮生が増えれば嬉しいです。

僕は今年で寮を出ます。この4年間でたくさんの濃い思い出が出来ました。テスト前などは徹夜で友達と勉強しました。苦楽を共にしてきた最高の友達もできました。僕は寮に感謝しています。後輩・これから入学してくる学生たちにこの「高専志学寮」を経験してほしいです。そして今寮生の人は寮生活を楽しんでください。そして最後に寮の決まりは守るように、、、

## 学寮チュートリアルの実施状況

寮務主事補 今村 成明

学寮チュートリアルは、本科1～3年生を対象とした個別学習指導であり、主に専攻科生1年生がその指導を行ってくれています。この制度は、平成13年度後期中間試験から実施されており、17年継続しています。中間、期末試験の試験時間割発表から試験開始前日まで、6日程度、20:00～23:00まで寮の多目的ホールにて実施しています。参加した寮生は、分からない問題等がある場合、自由に専攻科生に質問できるようになっています。本年度の①前期中間試験前、②前期期末試験前、③後期中間試験前の実施期間、参加状況(延べ人数)は、以下のようになっています。

### ①前期中間試験前

5/27(日)～6/3(日)	6日間(休日前日を除く)
1年生の参加者数	: 169名(270名)
2年生の参加者数	: 87名(63名)
3年生の参加者数	: 48名(27名)
1～3年生の参加者数	: 304名(360名)
1日平均	: 50.7名(45.0名)

※()は、昨年度の参加者数。昨年度は8日間実施。

### ②前期期末試験前

7/22(日)～7/29(日)	6日間(休日前日を除く)
1年生の参加者数	: 143名(293名)
2年生の参加者数	: 72名(97名)
3年生の参加者数	: 53名(41名)
1～3年生の参加者数	: 268名(431名)
1日平均	: 44.7名(47.9名)

※()は、昨年度の参加者数。昨年度は9日間実施。

### ③後期中間試験前

11/18(日)～11/26(月)	6日間(休日前日を除く)
1年生の参加者数	: 65名(57名)
2年生の参加者数	: 47名(46名)
3年生の参加者数	: 26名(10名)
1～3年生の参加者数	: 138名(113名)
1日平均	: 23.0名(18.8名)

※()は、昨年度の参加者数。昨年度は6日間実施。

昨年度と比べると、若干、参加人数が減っているように感じますが、1日の平均参加者数で見ると、若干、増えていることが分かります。これから寒くなり、自室から外へ出るのが億劫になるかと思いますが、このまま常に向学心、向上心を持ち続け、社会で活躍してくれることを期待しています。

## 学寮食堂の献立会議

寮務主事補 福添 孝明

学寮食堂の業者と寮生会（寮生）、寮務委員会（教職員）の情報共有を目的として、献立会議というものを実施している。この会議は、数多くの会議に出席しなければならない寮務主事が参加しないという希有な会議であり、その内容について書き記すことにする。

会議は月に1回程度実施している。主たる報告事項は来月の献立についてである。11月は旬の食材が30回使われていたことに気づいただろうか？（例：11月5日小鉢の銀杏など）多くの食材が年中を通して手に入るようになったが、旬の物の方が栄養価は高いと言われている。寮食から季節の移り変わりを感じられると良い。

ご当地メニューも取扱っている。当月は13日の焼き豚玉子めし（愛媛県）、27日鶏の山賊焼きからあげ（山口県）であった。神田カレーフェアとして15日はボンディ監修欧風カレー、29日はマンダラ監修バターマサラカレーであった。百貨店の北海道物産市やB-1 グルメの会場へ行っても、地域は局所的である。学寮食堂で、県外の様々な食事が体験できるとは、大変に恵まれている。

この月はD-1 グランプリ予選も行なわれた。DはDonburiではなく、Dormitory の略であり、寮生が考えれば何の料理でもD-1になるところが無限の可能性を感じさせてくれる。今回は麺しばりであった。将来、自炊生活になると、お財布が寂しく、麺+αしか買えない日々もあるだろう。そんな時にはD-1 グランプリで出た料理を思い出して欲しい。

さて、会議の前半は上記の報告を楽しい気分で聞いているのみであるが、後半は各部署からの問題提起コーナーとなる。以前には大きさの違う食事トレーが積み重なっている事が問題視された様であるが、寮生会の放送指導によって改善された。

今年度の最初に出た話題は、箸とスプーンが返却口に投入され洗浄機が故障する事案であった。図1に示す通り掲示していたが、見逃す寮生が多かった。そこで図2に示す通り食器返上口近くに掲示した。これ以後は投入数が減少した様である。仮に減少しなかった場合には、図3の段階まで進んでいたかもしれない。

胡麻ドレッシング2本が食事時間前半で尽きることは日常茶飯事である。この件も食事開始時に1本、隙を見て1本こっそりと追加すると、最後まで残る様になったらしい。運用改善の見本だと思う。

寮生の事を考えてくれている人達が多くいる。学寮にて食事をする際には、その想いを感じて頂きたい。



図1 注意レベル1



図2 注意レベル2

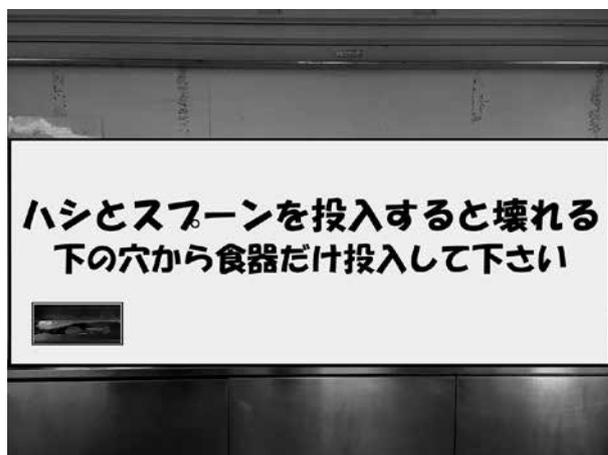


図3 注意レベル3

## 新任の挨拶

学生寮指導員 柳鶴 一美

平成30年4月から学生課学生指導員として採用されました柳鶴 一美（やなぎづる かずみ）と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。

平成22年郵便局を退職し、その間九州管内10局を勤務いたしました。

ほぼ単身赴任が多く、勤務先での地域との諸行事に参加させていただき、連携の重要性を痛感しました。

退職後、霧島市牧園町ある地域医療の要としても位置づけられている「鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンター」の事務当直の仕事で緊急患者さまの対応、見回り等、今までに経験したことのない重要なものを学びました。

平成30年3月で諸事情により閉院されることになり、4月から本校で勤務させていただいております。元気で働くことで人と接することができ、生き甲斐にもつながると思っています。

500名を超える寮生のみなさんが寝食を共にして、高い目標を持ち勉学に勤しんでいる姿を拝見し、敬服すると同時に15歳の春後、親元や住み慣れた故郷を離れ学ぶ力に今風の学生気質を感じます。

無事にご卒業されて、各地、各分野で活躍される時、鹿児島工業高等専門学校で培った絆をぜひ深めてほしいものです。

在寮生活の中で困った事など、私たちにご相談ください。

微力ながら心から応援をしていければと考えております。





## 専攻科の現状

専攻科長・研究担当 山内 正仁

専攻科では、本科で身につけた、技術者の基盤となる専門能力をさらに高めていく学習と、その知識を他分野の知識と融合させ、研究を通じて、多角的な問題解決能力を高めるための学習が行われております。

現在、機械・電子システム工学専攻に22名、電気情報システム工学専攻に23名、建設工学専攻に12名の計57名（1年生27名、2年生30名）が在籍しております。

専攻科生は最も大切な目的である、『学士』を取得するために「特別研究論文」を作成していきます。このため入学後6月までに、特別研究論文の研究テーマ、内容について指導教員と打合せ、2年間の研究スケジュールを作成します。時には外部専門家の指導も仰ぎながら、より精度の高い研究内容となるように実験や分析その他の必要な活動を行います。研究のテーマは基本的に本科5年次の卒業研究をさらに深化させたものが多いですが、持っている基礎知識を異分野へ応用するなど幅広い課題にチャレンジし、それらを研究テーマとして進めさせる場合もあります。また、科学研究費補助金（科研費）に採択された最先端の研究に専攻科生（卒業研究生も含む）を参画させ、問題解決能力を養い、次世代を担う技術者、研究者を育てる動機付けを行ったりしています。専攻科生の柔軟な発想と粘り強い研究活動が大きな成果を生み出すことも多々あります。

しかしながら本校の専攻科には大きな課題があります。平成26年度に大学改革支援・学位授与機構から本校では3専攻全てにおいて特例適用（専攻科学生の特別研究論文審査を大学改革支援・学位授与機構に替わって学内教員で行える措置）が認められましたが、これにより、大学改革支援・学位授与機構で教員審査（研究業績調査など）が厳密に行われるようになり、その資格審査に合格した教員のみが専攻科学生の特別研究を指導可能となりました。本審査は、専攻科のレベルを維持するために原則、5年ごとに行われることになっております。本校では今年度、半年間にわたり学位授与機構による大掛かりな審査が行われ、前回（H26年度）よりも厳しい結果となりました。表に平成30年12月末時点での次年度の研究分野（個票）を示します。本校の専攻科では、学生の希望するすべての研究分野を網羅できていない状況にあります。このことは学生に対する信頼を損なうようなものであり、高等教育機関の教員としてあってはならないことと思っております。この問題を解決するために、分野の近い教員で研究グループを構成したり、大学教員との連携による業績の積み増しをお願いしたりしているところであります。

九州・沖縄地区の高専では「専門系教員は査読付き論文を少なくとも直近5年間で2編、中堅・若手の教員は

第一著者として論文を執筆する」ことを共通目標として定めています。また、高専機構では「高専における研究は教育の基盤」と位置付けています。教員がより一層研究力向上に努めることが求められております。

専攻科生が行う研究発表（学会発表）は特別研究の単位取得要件の一つであるため在学中全員が、各学会で研究発表を行います。近年では、専門性の高い学会や国際会議などで発表して「優秀講演者賞」や「BEST POSTER AWARD」を受賞したり、審査付き論文に投稿し、論文誌に掲載されるなど大学院博士課程の学生と同等以上の研究活動を行う学生も出てきております。このような取り組みにより、大学院進学者の中には日本学術振興会特別研究員の資格を得て、国から給与（生活費）である研究奨励金をもらいながら研究を行う修士も現れております。

さらに専攻科では、来年度開講を目指して、長岡技術科学大学との連携教育プログラムを作成しているところです。本プログラムは、学生を高専・大学の両校に在籍させ、それぞれの機関が強みを持つ教育資源を有効に活用しつつ、教育内容の高度化を図ることを目的に実施されるものです。連携教育プログラム修了者（所定の専攻科課程・学士課程を修了した者）は大学から学位記が授与され、専攻科からは修了証が交付されます。

このように、専攻科では、上記課題を解決しつつ、高度な専門技術や問題解決能力を身に付けることができる新たな取り組みも進めているところです。

表 特別研究課題名一覧（H30年12月末現在）

課題名
対流伝熱機器に関する伝熱性能評価とその応用
ソフトウェア（ファジィ、ニューラルネットワーク、進化プログラミング）を用いたシステムの最適化に関する研究
切削加工における加工精度向上に関する研究
精密切削加工における仕上げ面性状に関する研究
電子デバイスとその応用に関する研究
流体関連振動による機械構造物の破損防止技術に関する研究
機能性材料の創成および特性評価に関する研究
軽金属材料の溶接・接合継手の微細組織と機械的特性に関する研究
磁気・生体計測および計測データ・磁気雑音の処理並びに磁場解析に関する研究

### 電気情報システム工学専攻

課題名
生体磁気刺激の性能向上と生体情報の活用
地球環境に適応可能な次世代エネルギーとその応用に関する研究
高電圧利用技術の高度化とその応用に関する研究
インバータ駆動モータ制御技術に関する研究
無線通信送受信機におけるアナログ電子回路の影響に対するデジタル信号処理による補償に関する研究
進化的計算アルゴリズムの性能向上とその応用に関する研究
分散並列計算と情報処理に関する研究
分散並列処理とその応用に関する研究
信号処理とデータ処理の応用に関する研究

### 建設工学専攻

課題名
大地震後の継続使用を可能にするRC建物の設計方法の開発
各種排水を対象とした水処理システムの開発とその応用に関する研究
地域の諸問題を解決する環境技術の開発
未利用資源の品質に着目したコンクリートの性能評価に関する研究

## ベトナムでの英語研修

機械・電子システム工学専攻 1年 長谷川 慶

夏休みの10日間、ベトナムへ英語研修に行きました。ハノイ大学という外国語大学で、英語の講義を受けたりハノイ大学の学生と交流したりしました。

九州・沖縄地区の10人の他高専の学生とベトナムへ渡りました。入国審査員の方が全員不愛想だったことをよく覚えています。「海外で英語を勉強するってどんなものなのだろう」と、ただただそれだけの理由で参加した英語研修ですが、初めての海外では驚くことと楽しさで溢れていました。

初めに感じた異文化は、バイクの多さと交通ルールでした。ベトナムではバイクに免許は必要ないらしく、ほとんどの学生がバイクで通学していました。また、車線が無い大きな車道ではバイクと自動車が進路の横取りが常に行われていました。クラクションが四六時中鳴り響いており、毎朝クラクションの音で目が覚める程でした。次に、食文化の違いを感じました。フォーやバインミーといった有名な料理を楽しみにしていましたが、ほとんどのベトナム料理にパクチーが入っており、渡航して三日間は酸味と苦みを我慢する食事となりました。

英語の講義ではプレゼンテーションと手紙の書き方を学びました。初めは日本語が話せない苦痛がありました。が少しずつ英語の講義に慣れていくのが分かりました。また学生交流も三回あり、週末はホアンキエム湖のお祭りに案内してもらいました。学内のバスケットコートで一緒に遊ぶこともあり。FacebookやInstagramを交換することもあり、日本に帰った今も、時々連絡を取っています。メッセージはもちろん英語です。

当たり前のように使っていた日本語を話せない環境下でしたが、今回の英語研修を通して英語の必要性和英語で話せる楽しさを実感しました。何より英語への恐怖心が無くなりました。また、他高専の学生やハノイ大学の学生と触れ合い、出会いの素晴らしさも感じました。英語に対する意識なども含め、ひと回り成長した気がします。最後になりましたが、このような経験ができたのも渡航費補助をしてくださった鹿児島高専後援会の皆様のおかげです。本記事の場を借りてお礼申し上げます。有難うございました。



## インターンシップ報告

電気情報システム工学専攻 1年 今村 一磨

私は今年度の夏季休暇を利用して、東京都千代田区にある株式会社イーウェルのインターンシップに参加させて頂きました。

イーウェルを志望した理由としては、私は情報工学を専攻しており日頃からWeb系の業務やチームでの開発に興味があった為です。

イーウェルは福利厚生サービスの提供や従業員健康管理支援サービスの提供、マーケティング等を提供しています。私が配属されたのはその中でも「マーケティングIT企画本部」という主にシステムの構築を実施している部署に配属されました。

インターンシップでは「WELLBOXスリープユーザをアクティブユーザにするための特設ページの開設」というテーマがまず提示され、この中で企画・要件定義・実装・テスト・評価を3人1組のチームで5日間行いました。「企画」ではWELLBOX(福利厚生を提供するためのシステム)に加入はしているが利用はしていないユーザに対し、どのような方法でアプローチすればより効果的かを検討しました。様々な意見が出る中、「自分だったら何に惹かれるか」を念頭に意見を出し合い「大幅割引」を軸に特設ページを開設することに決定しました。「要件定義」では企画で決定した軸を実際に形にするための機能を洗い出し、さらに制作するための順番付けを行いました。実装では洗い出した機能の中から優先度が高いものから順番に、実装しシステムを構成しました。この業務ではC#, HTML, SQL, CSSなどのプログラミング言語を用いて格子の方に助言を頂きながら実際に動くシステムを構築しました。「テスト」の工程では完成したシステムに不備がないかを確認し、不備や不具合があった場合は補填や修正を行いました。「評価」では社内会場で作成したシステムの紹介やデモンストレーションなどを社員の方に向けて実施し、完成したシステムに対しフィードバックを頂きました。

全行程終了後は今までの工程すべてに対し自己評価を行いました。

本インターンシップでは、システム開発の流れ全てを短い期間ではありましたが実習を通して経験することができました。扱ったことのないプログラミング言語や、初対面の方とのチーム開発などを経て働くイメージを掴むことやスキルの向上だけでなく、人としても成長できた有意義な5日間だったと思います。

# インターンシップに参加して

建設工学専攻1年 松元 健人

8月20日から2週間、私は東京にある東急建設株式会社のインターンシップに参加しました。インターンでは、鉄筋コンクリート（以下、RC）造マンションの建設現場で施工管理の仕事を体験しました。施工管理とは、現場のスケジュール・安全・品質を管理し、現場の監督をするいわゆる「現場監督」です。ここでは、2週間のインターンで体験したことと、インターン参加のメリットについて紹介します。

私がインターンに参加した理由は、現在学校でRC造に関する研究を行なっているため、RC造建物がどのように造られるかを実際に目で見てみたいと思ったため、施工管理という仕事を詳しく知るため、単位を修得するためです。

まず、初日はインターンに参加する他の大学・高専生と交流し、施工管理に関する講義を受けました。グループワークでは、効率的なコンクリートの打ち方について議論をしました。当然、コンクリートの知識が必要で普段からの勉強が必要だと感じました。

2日目以降は現場に配属され、実際に現場に出て作業を行いました。私は技術員さんのもとの、鉄筋が設計図通りに配筋されているかを確認して、写真を撮影するという作業をメインで行い、他にも会議への参加や、安全標識の設置など様々なことを体験しました。高専では本科3年次の「鉄筋コンクリート工学」でRCに関する知識を広く学んでいます。実験・講義で学んだことが定着していて、嬉しいことに技術員さんから褒められることもありました。一方で、知らないことや覚えていないことも多くあり、その都度技術員さんに質問して説明を受けることもありました。学んだことを覚えておらず悔しい思いをしました。

このように様々な経験をしたインターンシップですが、参加するメリットとして、①他の大学・高専生と交流ができる、②学校で学んだ知識が社会でどのように使われているかを知ることができる、③社会の厳しさを知ることができる、④専門科目の単位が習得できる、が挙げられます。長期休暇が2週間なくなるなどのデメリットはありますが、それ以上に参加するメリットは大きいと思います。皆さんも積極的にインターンシップに参加しては如何でしょうか。

最後になりますが、このインターンに参加するにあたり、ご指導いただきました東急建設株式会社の皆様、手続きなどご尽力いただきました学生課の皆様へ感謝致します。



## 平成30年度の地域共同 テクノセンターの活動について

地域共同テクノセンター長 豊平 隆之

今年度の地域共同テクノセンターは、センター長の豊平と、副センター長の吉満准教授、コーディネーターの大竹囑託教授、各学科等から選出されたテクノセンター運営委員会委員、そして企画係で活動しております。COC+事業とKTC（鹿児島高専テクノクラブ）関連事業が活動の中心となっています。

COC+事業は、平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択された“食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム”事業です。鹿児島大学を代表校として、県内8大学・高専及び地方公共団体・企業等が連携し、地域一体となって、雇用創出や地元就職率の向上を目指し、取り組んでいます。

鹿児島高専での取り組みとして、「COC+高専」地方創生推進会議を組織して、連携協定を締結している霧島市・日置市、両市の商工関連団体、地元企業の団体の代表者と連携を取り、企業研究会、地方創生特別講義、地域企業見学等の事業を推進しています。今年度も昨年度同様、「保護者向け校内合同企業セミナー」を5月に、霧島市主催の「大学生等向け合同企業研究会」を11月に、本校とKTC主催による「高専生のための地域企業研究会」を1月に開催しました。また、企業による特別講義を前学期と後学期に実施し、霧島市・日置市職員による地方創生特別講義を後学期に実施しました。市職員による講義の後に、OB・OGによる事例発表を組み込みました。後学期には、3年生の工場見学を行いました。

COC+事業全体での取り組みとして、“地元企業よかとこ発見バスツアー2018”4コースを夏期休暇の9月前半に設定し、ネットで学生の参加を募りました。実施時期が影響したのか、本校からは参加がなく、残念に思います。9月に“食と観光で鹿児島の魅力アップを考える”と題したCOC+公開講座2018を鹿児島大学で開催しました。本校からは、一般教育科の町泰樹講師が観光と伝統文化をテーマとする講義を行ないました。また、10月末、学生による“COC+推進フォーラム2018「私たちの就職本音トーク」”が鹿児島大学で開催されました。学生と県内企業の方々が参加して、県内就職か県外就職かで悩んでいる学生に本音を話してもらおうという企画でした。本校関連では、KTC会員企業の方に参加いただき、学生の生の声を聞いていただきました。本校学生は高専祭と日程が重なってしまった為、参加できませんでした。

本年度は、KTC関連事業、COC+関連事業に加えて、

2020年の国体開催にむけて霧島市から依頼のあったカウントダウンボードの作製を担当する学生のサポートを行いました。本校作製のカウントダウンボードは霧島市溝辺支所と鹿児島空港に設置予定です。

地域共同テクノセンターは、これからも、地域の技術力を高め、地域産業の活性化や地域の経済力向上に資するため、地域企業や行政機関との連携を通じて、地域産業の発展に寄与する人材育成に取り組んでまいります。

### 平成30年度の主な活動内容

- ①第1回地域共同テクノセンター会議開催 4月10日
- ②第3回COC+ワーキンググループ会議出席（鹿児島大学）4月27日
- ③第1回地域共同テクノセンター運営委員会開催 5月15日
- ④保護者向け校内合同企業セミナー開催 5月26日
- ⑤第1回「COC+高専」地方創生推進会議開催 5月30日
- ⑥第1回KTC役員会、総会開催 6月7日
- ⑦日置市異業種交流懇話会総会・企業訪問参加（日置市）6月20日
- ⑧日置市異業種交流懇話会「企業の魅力説明会」出席（日置市）6月27日
- ⑨第1回産業支援CD会議出席（鹿児島大学）6月29日
- ⑩情報関連産業育成支援検討委員会出席（鹿児島市）7月2日
- ⑪中小製造業者創業・新分野進出等支援事業審査会出席（鹿児島市）7月25日
- ⑫COC+3部会合同会議出席（鹿児島大学）8月3日
- ⑬第2回KTC役員会、創立20周年記念式典（第2回KTC技術研修会）開催（霧島市）9月7日
- ⑭第2回「COC+高専」地方創生推進会議開催 9月21日
- ⑮KTC会員企業向け就職支援セミナー開催 9月27日
- ⑯霧島市主催大学生等向け合同企業研究会開催 11月7日
- ⑰第2回産業支援CD会議出席（鹿児島大学）11月12日
- ⑱第3回「COC+高専」地方創生推進会議開催 12月14日
- ⑲COC+3部会合同会議出席（鹿児島大学）12月21日
- ⑳高専生のための企業研究会 1月23日
- 21COC+3部会合同会議出席（鹿児島大学）2月1日
- 22第3回KTC役員会、技術研修会開催 3月1日
- 23第2回産業支援CD会議出席（鹿児島大学）11月12日
- 24第4回「COC+高専」地方創生推進会議及び事業評価会議開催 3月25日

## 鹿児島高専テクノクラブ

地域共同テクノセンター長 豊平 隆之

平成10年3月に誕生した「錦江湾テクノパーククラブ」は、平成28年度に「鹿児島高専テクノクラブ」に改称して平成30年3月に創立20周年を迎えました。

錦江湾テクノパーククラブは、南九州地域の有志企業が集い、地域産業との連携強化を理念とする鹿児島高専と相図って、産学官連携組織として設立されました。創立当初は、高専のある隼人町（現霧島市隼人町）近隣の市町にある46社の一般会員と行政や公的機関からなる12の特別会員で発足しました。設立から2年後の平成12年4月に高専内の組織としての「創造教育センタ」を「地域共同テクノセンタ」に改称し、鹿児島高専の産学官連携に携わってきました。「地域共同テクノセンタ」は地域の企業や行政機関などと連携し、地域企業との共同研究や技術相談、地域企業の技術者の人材育成事業、本学学生に対する地域企業との共同教育・インターンシップ等を行なう拠点となっています。

平成30年3月に創立20周年を記念して、鹿児島高専テクノクラブの平成30年度の第2回技術研修会の場をかりて、“鹿児島高専テクノクラブ創立20周年記念式典”を開催しました。記念式典では、鹿児島県知事三反園訓様、霧島市長中重真一様、日置市長宮地高光様からご祝辞いただきました。また、鹿児島高専テクノクラブの前会長であられました（株）JGEの宮村健一様に“分断と壁を考える”という演題でご講演をいただきました。引き続き、本校学生の活動報告が行なわれ、「ロボギャルズ鹿児島」と「エコラン部」が報告を行ないました。式典会場の外ではエコラン部活動展示、専攻科1年生の研究パネル展示、「デザコン」パネル展示、メカトロニクス研究部活動展示、ロボギャルズ鹿児島実演・パネル展示、鹿児島高専COC+事業紹介パネル等が展示され、式典の休憩時間等に会員企業の皆様に紹介をすることができました。式典には会員企業に就職しているOBOGを含む100名余りの方々と、本校職員と専攻科1年生の70名が集い、講演を熱心に聴講していました。記念式典終了後に、祝賀会が開催され、教職員とOBOGとの昔話、異業種の会員企業の交流と盛大に開催することができ、会員企業の方からも良い会であったとお褒めの言葉をいただきました。

現在、会員企業数は90社近くになり、会員企業数を3桁にのせるよう会長、役員と本務でお忙しいなか、ご尽力いただいています。20周年を省みて、クラブの立上げ方向性を考えたホップの10年、会員企業数の増減がありましたが次の飛躍のための準備期間としてステッ

プの10年を終えて、次なる10年間は、大いなる飛躍（ジャンプ）の10年になるように「地域共同テクノセンタ」は「鹿児島高専テクノクラブ」に協力していきたいと思っています。鹿児島高専テクノクラブの会員企業様は、インターンシップや就職先として学生にももっと身近な存在になればと考えています。



## 高専での1年間を振り返って

カウンセラー 臨床心理士 畑田 惣一郎

スクールカウンセラーとして月1回お世話になっている畑田と申します。普段は精神科病院に勤務しており、もう一人の同僚と共に、今年度から縁あって高専に派遣されることとなりました。今回、『高専だより』の執筆依頼を頂き、「まだまだ日の浅い私がどんな内容を書こうか」と悩みました。しかし、折角頂いた貴重な機会ですので、読んでいる方のお力になれるかはわかりませんが、高専のこと、私のことについて感じたことを振り返ってみたいと思います。

この1年間の高専を振り返った感想は、「新鮮な気持ちにさせてくれる場所」でした。いつもは病院にいて、どちらかというと中年期や高齢者の方と関わるが多いため、月に1回訪れる高専の日は、“初めての勤務先” “外に出ることができる” “若い” という場所で、新鮮な気持ちにさせてもらいました。校門から相談室までの間は、談笑したり、話し合ったりする学生さんの声を聞きながら歩いて行きます。そこで見ていた高専というのはやはり特徴的で、熱心に体育大会を準備するような“青春”という言葉が似合う「高校」の雰囲気と、自分で自分の時間を作る“自由”という印象を与える「大学」のような雰囲気が入り混じっている様子でした。こんな光景を見ていると、私にも「臨床心理士になるぞ」と誓った青春時代に熱い気持ちがあったことや、それなのに「明日は講義がないからダラダラしよう」と思ったりした自由な時代があったことを思い出していました。私が現場に出てもうすぐ10年目を迎えようとしている今、高専はおそらく一旦私が初心に戻る機会にもなっているのだと思います。振り返れば、私の高校、大学時代は身近な友人関係から将来のことまで、大小色んなスケールで悩んでいました。それを乗り越えるために、今となれば恥ずかしいくらいの気持ちで「自分を試す」とボランティアに打ち込んでみたり、反対に無目的に研究室に入り浸ったりしていました。社会に出てからは、前職の総合病院にて生死に向き合うことが多く、自分の無力さを突きつけられながら、人の命について学ぶ機会をもらいました。現職では、心の病気や認知症に触れ、心と体の関係の凄さについて学んでいると感じています。これまで様々な波や壁がありましたが、先生や同僚、友人などの出会いがそれを支えてくれていたと思います。そんな中での、高専でのカウンセリング。若輩ながらも、老若男女いろいろな方と関わらせてもらっている仕事だなと思います。

今、カウンセリングで私が大切にしていることは、悩ん

で壁にぶつかることがあっても、自分の人生を全うしてもらうこと。目の前の相談者が（私にとってもですが）、「傷つくことがあっても、その傷は人生の勳章だ」と思える日がいつか来たらいいなと思ってカウンセリングをしています。人生の岐路にあるだろう高専時代を、学生さんが上手い下手など気にせずトライすることや、人との出会いの機会が訪れるようなお手伝いができたらと思っています。



## 技術室の研究活動

技術室 山下 俊一

本欄は、日本学術振興会が募集する科学研究費補助金獲得に向けた技術室の取り組みについて、ご紹介します。

高専機構には、教育研究活動を支援する多くの技術職員が在籍していますが、その多くが、科学研究費助成事業（科研費）の奨励研究に応募しています。本校技術室でも、この研究助成に対し、平成20年度から全員が応募し、近年は、全国平均を上回る採択率で複数件獲得する状況が続いています。特に一昨年度は採択率18%の中、本校は13名中6名（約46%）が採択されるという結果を得ました。この採択者増に対し、高専機構からの講演依頼があり、昨年8月に名古屋大学で開催された全国高専フォーラムにて本校技術職員の科研費獲得に対する取り組み状況を報告してきました。（下写真）

技術職員が応募する奨励研究は、実験実習内容の改善や地域貢献に対する活動等を目的とする教育研究を題材にした申請に適しており、採択された際は実験実習の改善及び小中学生を対象にした出前授業等、この研究費を活用して高専教育に寄与することができます。

高等教育機関である高専は研究を通じて学んでもらう場であるため、その教育現場に関わる技術職員も研究活動や学会等で発表する経験を積むことが自己研鑽の一手段になっています。採択者は、研究背景から生じた問題意識への解決とその方法、結果のまとめ及びその成果報告を行うこととなりますが、この実施過程は研究テーマに限らず、多くの事柄について通用する一連の流れであり、この経験がその後の教育研究支援活動の業務に対し有効に働き、技術職員の人材育成に繋がっています。

技術室では、この取り組みに限らず、技術的知識と経験を蓄積するための環境づくりや、自己研鑽する機会を広げ、業務に必要な研究活動、資格取得及び各種研修参加等のキャリア教育にて、技術力で高専教育に貢献できる技術室になるように努力しています。



平成30年度全国高専フォーラム（会場：名古屋大学）

## リアクションホイールによる姿勢制御

電子制御工学科 瀬戸山 康之

私は「リアクションホイールを用いた回転体の姿勢制御」というテーマで研究を行っています。さて、リアクションホイールと聞いて、どのようなものかを想像することができるでしょうか。リアクションホイールとは、一般的には人工衛星の姿勢制御などに使われる装置で、回転する円盤のようなものを想像してもらえればわかりやすいかと思います。人工衛星の内部にはリアクションホイールが取り付けられており、内部でぐるぐる回しながら人工衛星の姿勢を制御しています。気象衛星のひまわりや小惑星探査機のはやぶさなどにも使われています。では、なぜリアクションホイールが回転するだけで人工衛星の姿勢を制御することができるのかというと、物理学の基本法則である「作用反作用の存則」がリアクションホイールと人工衛星の間で成り立っているからです。回転する物の場合、「回転する力」に対して、「回転を止めようとする力」が回転する物に加わります。リアクションホイールはこの原理を利用して人工衛星の姿勢を制御しています。リアクションホイールの原理の説明としてよく使われるのが、回転椅子の上で腕を振るといったものがあります。静止している回転椅子の上で両手を広げ、勢いよく横方向に振ると、腕を振った方向とは逆方向に椅子が回転します。この現象は、腕を振る力に対して、それを止めようとする力が椅子に伝わるために起こっているのです。人工衛星の場合も同様で、リアクションホイールの回転によって発生する力に対して、その回転を止めようとする力が衛星本体に伝わり、衛星本体の姿勢を制御しています。

ここまで説明してきたように、リアクションホイールは一般的に人工衛星の姿勢制御装置として利用されていますが、私はリアクションホイールを人工衛星だけでなく、様々な機械を動かす駆動装置として利用できないか検討しています。現在は、回転しながら動くロボットの移動や回転関節を持つロボットアームの関節の制御などに利用できないか考えております。

私の専門は制御工学なので、リアクションホイールを用いた回転体の制御方法を考えていくのが研究の主なテーマになります。卒業研究の学生にもリアクションホイールを用いた姿勢制御のテーマで研究を行わせていますが、最初にリアクションホイールの原理を説明すると、自分たちの知っている法則を利用しているためか、「なるほど、面白いですね」と興味を持ってくれます。しかし、そこに制御理論が加わると理解が難しいらしく、数式を見て四苦八苦しながらシミュレーションなどを行っています。現在は理論が主で、実用化という点ではまだまだこれからとなりますが、これからも学生と一緒に精進していきたいと思っています。

# 私の研究と人生

一般教育科講師 松浦 將國

私の数学での専門分野は確率論と呼ばれる領域です。確率論というと皆さんは「サイコロを振って某の目が出る確率は・・・」等の話を想像するかと思います。しかし、現代で論じられる確率論はルベーグ積分論と呼ばれるもので成り立っています。これは高専数学の積分（リーマン積分）のように領域を千切りやさいの目切りにするのではなく、「測度」という面積や体積などの概念を超えたものにより成り立つ積分論です。これにより至る所不連続になるような珍妙な関数も積分できるようになったのです。

本校のように理数系教科に重みを付けて入試の点数を配分している学校はたくさんあります。私の研究対象にも正規化ファインマン・カツ汎関数といって、重み付けのための確率変数があります。熱方程式という微分方程式

$$\begin{cases} (\partial_t - \Delta + V)u(t, x) = 0 \\ u(0, x) = f(x) \end{cases}$$

の基本解  $u(t, x)$  は

$$u(t, x) = \mathbb{E}_x[e^{-\int_0^t V(B_s)ds} f(B_t)]$$

です。この  $B_t$  とはブラウン運動のことです。株価のニュースなどでクネクネしたカーブを見たことがあるでしょう。これはブラウン運動の一種で、上記の指数部分がファインマン・カツ汎関数と呼ばれるものです。そして、正規化ファインマン・カツ汎関数は

$$\Gamma_{t,x} = \frac{e^{-\int_0^t V(B_s)ds}}{\mathbb{E}_x[e^{-\int_0^t V(B_s)ds}]}$$

で与えられます。これについて処罰問題という次の問題が2002年頃からヨールらにより考えられてきました。

- (1)  $\Gamma_{\infty, x}$  は特定の時刻  $s$  の事象を確率として測ることができるか？
- (2) そうだとしたら、その分布は時刻  $s$  についてどのように表されるか？

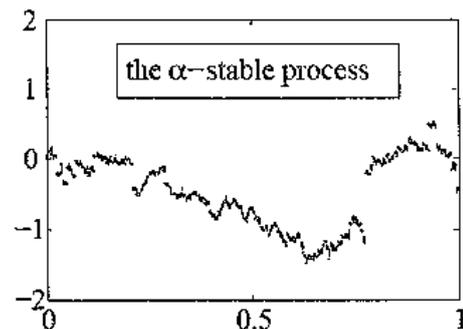
詳細は割愛しますが、私が考えている処罰問題の解決にはエルゴード定理と呼ばれる道具が必要です。さいころを何回か振ってみると 3, 6, 1, 3, 3, 3, 5, ... などとでたらめな目が出ます。最初の7回のうち4回も3の目が出ており、何か偏りのありそうな結果にも見えますが、各回までに目出の平均値を小数第三位を四捨五入して小数第二位まで求めると 3, 4.5, 3.33,

3.25, 3.2, 3.17, 3.43, ... となりだんだん 3.5 に近づきます。これは観測上（時間上）の平均値です。一方、理論上（空間上）もサイコロの出る目の平均値は  $(1+2+3+4+5+6)/6=3.5$  です。サイコロの目のように、各回で独立かつ同分布に与えられるランダムな実数値に対して、それらの算術平均の極限（時間上の平均値）と期待値（空間上の平均値）は確率 1 で一致することが分かっています。大数の強法則と呼ばれています。このように時間と空間の平均の一致を表すものは確率論ではエルゴード定理として述べられているのです。

日本は四方を海に囲まれており、江戸時代には鎖国もしましたが、今や日本の街中で外国の方を見かけない日は少なくなりました。一方、日本人がよその国や地域で活躍することも決して珍しくなくなりました。また、他の国や地域においても似たようなことがたくさん起こっています。この現象がエルゴード定理によるものかは定かではありませんが、世界はある意味「平均化」されつつあるように感じます。

先程、ブラウン運動の話をしました。私の研究ではブラウン運動に小さなジャンプが付いたマルコフ過程を主に扱っています（下図参照, K. Bogdan, et al., Potential Analysis of Stable Processes and its Extensions, Springer から引用）。マルコフ過程は「現在に至るまでの全情報で測った未来の確率と、現在だけの情報で測ったそれは同一である」という性質（マルコフ性）をもっています。

私の人生を振り返ってみると、生まれたのは福岡市ですが、1歳の頃に福岡市内で一度引っ越しています。その後、8歳で中間市に移り、9歳で千葉県に移住・・・（長いので中略）・・・約5年前に霧島市に移って現在に至ります。日本という島国の中を時々ジャンプしながら生きてきました。この過程にマルコフ性があるかは分かりませんが、確率論を学びながら、未来をより良く生きるために過去を振り返りかつ現在を充実させるよう努めてきました。これからもマルコフ過程論を専門として、細々と末永く研究しながら生きていきたいと思っています。





## 贈る言葉

情報工学科 原 崇

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。鹿児島高専を卒業する皆さんには、これから進学先や就職先など、新しい環境での新しい生活が待っています。いろいろな期待や不安が入り混じっているのではないのでしょうか。私も10数年前に新卒で就職するときに、同じ気持ちになりました。そしていま、鹿児島高専の教員としてこの場にいるのですが、その間の人生で様々な教訓を得ることができたので、それを卒業する皆さんにお伝えしたいと思います。

◇進学、就職することはゴールではなくスタートである  
5年生や専攻科2年生になって進学や就職のために様々な努力をしたと思います。それらを達成した人は、人生の目標を達成したような気持ちになっているかもしれません。「試験勉強や実験のレポートは大変だったけど、それももう終わり」と思っている人がいるかもしれませんが、そうではありません。特に会社に就職する人は、これからがまさに新たな勉強の始まりです。会社に入ると、高専での授業以上に自分の知らない世界が広がっており、毎日が勉強になります。そして、実験のレポートとは比べ物にならないぐらい高度で多量の文書（設計書や報告書など）を書くことになるでしょう。高専での勉強は、社会に入ってからやることの練習みたいなものです。勉強が終わったとは考えず、人生は常に勉強だと考えてください。

◇真面目に生きよ

「正直者が馬鹿を見る」という言葉がありますが、「正直者は馬鹿を見ない」というのが私の持論です。これまでの人生の中で、何度もそのことを痛感した経験があります。少しオカルトめいた話ですが、私は人生の様々な節目に「自分は何て運が良いのだろう」と思ったことが多々あります。それら全てが自分の普段の行動と結びついている証拠はありませんが、普段の行いが良かったために救われたと感じたことが何度もあります。私は2年程前に交通事故に遭いました。歩道を自転車で走行中に、車が歩道に突っ込んで来て、ぶつかりました。幸い大きな怪我はありませんでしたが、良かったことは、私が交通ルールを守っていたということです。しっかりと自転車通行可の歩道を走行していました。もし、私が自転車通行可ではない歩道を走行していたら。もし、傘さし運転だったら。きっと「交通ルールを守っていなかったあなたにも非がありますね」と言われていたでしょう。交通ルールを守っていたからこそ、自分には非が無いと言い切ることができました。誰も見ていないからいいや、

と考えがちですが、どこで誰が見ているか分からないものです。それは良い行いも悪い行いも。「真面目」というと、つまらないものと感じるかもしれません。そんな馬鹿正直に生きる必要はない、と思うかもしれません。別に聖人君子であれということではありません。自分にとって都合が良くなるためには、真面目に生きるのが近道なんだという利己的な考えで、真面目に生きるのが良い、というのが私の人生経験から言えることです。

◇「～しようと思います」は誰でも言える。「～しようと思ったので始めました」と言おう

研究をするとき、仕事をするとき、普段の生活の中で、「～しようと思います」と言うことがよくあります。この言葉は、何の説得力もありません。もちろん、しようと言ったことを、宣言通りにしたのならば、良いことですが、そうする保証はありません。むしろ、その場限りの言葉になって、実際には何もやらないということが多いと思います。従って、「思います」で止めないでください。思ったことを行動に移してください。「思った」と「行った」とでは雲泥の差があります。

月並みな3つの教訓を書きましたが、これは高専を卒業する皆さんに贈ることとともに、自分自身にも言い聞かせている言葉でもあったりします。ここに書いたことは、自分で大事だと思っていながらも、私自身が完璧に遂行できていないことです。つまり、この歳になっても、まだ立派な大人になれていないということですね。立派な大人になれるよう、私もこれから努力していこうと思いますので、皆さんもぜひ努力してください。皆さんが立派な大人になるために、この言葉が少しでも役に立てば幸いです。

さて、最後になりますが、卒業生の皆さんには、いつかまた高専に戻ってきて欲しいと思っています。卒業生が高専に戻ってきて、顔を見せてくれることが、我々教職員の何よりの励みになります。また、後輩にとっては先輩の話聞くことが何よりも貴重な経験になります。卒業したからといって、高専との関係を断つ必要はありません。いつか、皆さんの成長した姿を見られることを期待して、贈る言葉とさせていただきます。皆さん、卒業おめでとう。

## 卒業にあたって

機械工学科 5年 村山 航希

鹿児島高専に入学して5年が経った。月並みな言葉はあるが、5年という年月は長いようで短かった。しかし、短いと感じた5年間にもたくさんの出来事があった。

最初は、寮生活である。入学したばかりで右も左分からず、周りにまだあまり友達がいない中でいきなり1つ年上の先輩と同じ部屋で過ごすというのは思っていたよりも大変だった。また、今は無き「挨拶運動」も、やっている間はとても嫌なものであったが終わってみればある意味では良い経験である。二度とやりたくはないが。そんな寮生活も時が経てば友達が増えることで楽しいものへと変わっていった。5年生になってからは自宅通学をしていたが、時々名残り惜しくなる、そんな寮生活をくれたと思う。これから寮生活が始まる人もすでに寮生活を送っている人も、是非色々な人と触れ合って「楽しかった」と思える寮生活を送ってほしい。

2、3年生では授業や勉強が大変だったと感じる。というのも2、3年生から専門科目がどっと増えたためである。クラスメイトの中には留年してしまう者もいた。高専では気を抜くととても簡単に留年してしまうので注意してほしい。勉強は面倒臭いと感じることもあるだろうが、諦めずに頑張れば卒業後の進路選択の幅がとても広がるので、未来の自分への投資と思って耐え抜いてほしい。

4年生での一番の出来事といえば体育祭の応援団である。応援団は4年生が中心となって行すが、4年生同士で対立してしまうこともあり、中々上手くいかないこともあった。それでも、本番までのきつい練習についてくれたクラスメイトと2、3年生にとっても感謝している。応援団を4年間やってきて辛いこともあったがそれ以上にとっても楽しかった。興味のある人は是非やるべきである。

5年生ではまず初めに就職活動があった。勿論初めてのことなので、履歴書を書いたり、面接の練習をしたりと大変だった。特に自己PRを考えるのには普段中々意識していなこいなので苦労した。皆さんが就活し始めて、自己PRが中々思い浮かばないときは小恥ずかしいだろうが自分の良い所を聞いてみるとよいだろう。無事に卒業後の進路が決まると今度は卒業研究が待ち構えている。私は恥ずかしながら前期にあまりちゃんと活動しなかったために後期に痛い目を見た。皆さんには前期から精力的に活動することを強くおすすめする。

最後に、5年間ともに過ごした友人やお世話になった教職員の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。5年間本当にありがとうございました。

## 転機

電気電子工学科 5年 草本 乃亜

ついこの前高専生になったばかりな気もしますが、あっという間にもう卒業の時期となりました。と言うのも、中学生の頃から何となく理系科目が得意で、家も近所で通いやすかったためこの鹿児島高専に来ましたが、具体的な夢や目標などなかった私は、特別な何かをすることもなく、何となくテストやレポートをこなしながら進級してきたからです。私と同じような学生は他にも少なからずいるのではないのでしょうか。

そんなこんなで4年も終盤になり、いざ就職活動が始まりましたが、これとってやりたいこともなかったため正直、「適当な安定した企業に就職できればいいや」という気持ちで、学内で行われていた合同企業説明会などを聞いて回っていました。当時は生活も収入も安定しそうな県内就職にしようと考えていたので、ある程度どの企業に就職するかは定まってきました。そして春休みも近くなり、就職活動も本格化した2月に、学校で4年生全員に3月中旬に久留米高専（福岡）で行われる合同企業説明会のパンフレットが配られました。場所が遠かったのも、わざわざそんなところまで行くこともないだろうと思い、その時はパラパラと眺めているだけでした。すると、ある企業がぱっと目に付き、その企業を見つけた一瞬でやっとな自分がやりたいことを見つけた気がしました。そして、春休みにはその企業の説明会を聞きに行くためだけに福岡まで行き、説明を聞けば聞くほどそこで働きたい気持ちは強くなりました。ところが応募期限が4月に入ってすぐだったため、迷っている暇はありませんでした。春休み中にエントリーシートを書き上げなければなりません。急いで担任の先生に連絡し、諸々の書類を揃えて応募し、試験を受けて無事内定を頂くことができました。

今までこんなに自分から何か精力的に取り組むことはありませんでしたが、あの時の一瞬の行動力が私の人生を変えた気がします。また、過程はどうであれ、最終的には自分のやりたいことを見つけることができたので、これが最善の選択肢だったかどうかは分かりませんが、今は高専に入学して良かったと思います。5年間ありがとうございました。

## 高専生活を振り返って

電子制御工学科 米徳 綾乃

入学当時は5年なんてまだまだだと思っていた高専生活もあっという間に終わりを迎えます。5年間を振り返ると、言い尽くせないほど充実していて、とても恵まれた環境で過ごせたことに誇りをもっています。

1年生からマネージャーとしてサッカー部に入部することを決めてからは部活漬けの毎日でした。マネージャーという、選手とは違う立場でありながらも、部員の勝って喜ぶ顔の見たさ一心で、自分にできることをひたすら考えながら過ごしていました。約4年半の間、さまざまな大会、練習試合、合宿などを通して、嬉しいことも、悔しいことも、つらいこともたくさん経験しました。そんな部活動の集大成となる、5年生として迎えた最後の全国高専大会で優勝したときの感動は一生忘れません。最後まで感動を与えてくれた部員のみんなに本当に感謝しています。私はサッカー部で人間としてとても成長することができたと思っています。このような素敵な環境でこれからも活動していく後輩達のことでもずっと応援しています。

また、学校行事の一つとして、応援団での思い出は、部活の関係で1年しか参加することができなかったにも関わらず、自分にとって強くかけがえのない時間として残っています。きつい練習も、クラスメイトの熱い気持ちに自然と自分も引き込まれ、なんとか乗り越えることができました。結果は思い通りにはならなかったですが、一人一人が一つのことを全力で挑み、仲間と団結力することができた時間が大好きでした。応援団で他では味わえない感動を経験することができる、体育祭という鹿児島高専の素敵な伝統行事はこれからも続いてほしいと思います。

学業面では、このような部活や学校行事との両立がとても大変でした。部活が終わってからするレポートや、テスト前の勉強は体力的にも精神的にもつらかったですが、この努力が、志望する企業に内定をいただけたことにつながっていると思うと頑張ってたかったと心から思います。入学当初は自分の夢が明確になかったですが、今では自分のなりたい姿ややりたいことをみつけ、高専で学んだことを生かしていきたいと思っています。

最後に、クラスみんな、サッカー部みんな、5年の数少ない女子、先生方、先輩後輩、家族など、高専生活で関わってくださったすべての方に本当に感謝しています。学生生活が終わってしまうのは寂しいですが、たくさんの思い出をこれからも大切にしながら、今後社会人として自信をもって、明るく、何事にも前向きに頑張っていこうと思います。

## 卒業するにあたって

情報工学科5年 田代 悠馬

高専での5年間は正直、あっという間でした。

私が情報工学科の卒業生を代表してこの文章を執筆させていただくにあたって高専での生活を振り返ってみたのですが、特に部活動で何か実績を残したわけでもなく、体育祭や文化祭といった学校行事に積極的に参加したわけでもなくただ平凡な毎日を5年間過ごしていたので、何か特に頑張ったことを挙げようとしても悲しいことに挙げるのにとっても苦労してしまいました。

そんな私が卒業生を代表して書いていいのかと一瞬思いましたが、この5年間で頑張ったことを強いて挙げるとするならば大学編入に向けた勉強だと思うので、そのことについて少しだけ書いていきます。

私は2年生の頃に、高専を卒業した後は大学に編入したいと思うようになり、そこから大学編入へ向けて勉強を始めました。私は数学と物理が得意なので、受験直前までそれらを中心に勉強してきました。しかし、それまで苦手な英語は避けて勉強してきたので、受験直前は大変な思いをしました。

受験の数日前に英語の過去問を解いてみると全然解けなかったのがかなり焦ったのを覚えています。あまり理想的な勉強方法とは言えませんが、無事第1志望の大学から合格を頂きました。私から後輩の皆さんに言えることは、「早くから勉強を始めればどこでも合格できる」と、「苦手な科目に重きを置いて勉強すれば楽できる」とです。皆さん勉強頑張ってください。

冒頭に書いたように、私は高専での5年間で「平凡」に過ごしてきました。しかし、気の合うクラスメイトに出会えたことで学校では充実した時間が過ごすことができている。友人には私のしょうもない話や趣味の話にたくさん付き合ってもらって感謝しています。さらに、大きなケガや病気もしなかったし、第一志望の大学にも合格することができたので個人的には満足のいく5年間だったと思っています。

先生方には勉強のことや将来の進路についてなど、様々なことを教えていただき、時には相談に乗ってくださってとても感謝しています。また、2年生から4年生にかけての週1手書きレポートではレポートを書く力をつけることができたと思います。これは進学先の大学だけでなく、就職してからもきっと役に立つことだろうと思います。本当にありがとうございました。

進学先の大学では、自分を高めるために様々なことに積極的に取り組んでいきたいです。

5年間ありがとうございました！

## 生きたい人生

都市環境デザイン工学科 今村 菜々子

「理数系苦手なのにやっていけるの?」「女の子なのに工業系に進まなくてもいいんじゃない?」そんな言葉をかけられて早五年がたった。卒業を控えた今、あの時周りの言葉に流されず、夢を諦めなくてよかったと心から思っている。

私を育ててくれた自然豊かで、人情あふれるこの温かい街並みを守りたい、もっと人に優しい街づくりに携わりたいと思ったことが、鹿児島高専の都市環境デザイン工学科を目指した理由だ。この思いは、入学してからも変わることなく、専門的なことを学ぶにつれ、更に具体的なものになっていった。

五年間の授業で、特に興味を持った科目は、製図や模型作成、都市計画の授業だ。物づくりが元々好きだったこともあり、自分で考えたものが形になる喜びと、街の作り方などを学べる日々欣喜雀躍していた。元々、建築物を眺めるのが好きだった私は、自転車での行き帰り、沢山の道を通った。古いながらも趣のある家、手入れされた庭に心とまされる日々だった。ところが、年数が経つにつれ、忘れられる様も目にするようになった。少子高齢化の波を痛感した。このままでは寂しい。住人の思い出が詰まった家をリフォームやリノベーションで「生」を与えたい。それが、活気にあふれた温かい街をつくる一歩になると考えるようになった。そして、先生方の熱心な指導に励まされ、無事に第一希望の企業に就職が決まった。ほっとしたと同時に、苦手な分野へ踏み出した私を心配し、応援してくれた方々に感謝した。「自分に負けず努力する」と決めた以上、理解できるまでノートと向かい合い、鉛筆で黒くなった手を見て涙した日々が報われた気がする。

この五年間での経験は私の宝となった。一年間の寮生活で集団生活を、語学研修では環境に適した街づくりの重要性を学んだ。また、男女問わず夢を応援しあい、悩み苦しんだからこそ一生の友人にも恵まれたのだと思う。そして、夢をかなえる条件に、得意不得意も、性別も関係ないということ、自分の努力次第だということ、学んだ。多くの人の役に立てる技術者として成長していきたい。

## 専攻科で学んだこと

機械・電子システム工学専攻 高橋 直矢

専攻科は、本科で習った内容に比べて技術者になるための技能や心構えを学ぶことが出来た。

専攻科を卒業することで準学士から学士を取得することが出来るため、専攻科では大学生と同じような内容が行われると思われるだろう。しかし、実のところ本科の5年間で大学生において学ぶべき内容はすでに終えているため、専攻科では大学よりも一歩踏み込んだ内容を学修することになる。

専攻科で学んだ内容の中で、特に技術者として必要な技能を養うことが出来た授業は『環境創造工学プロジェクト』である。

この授業は複数の学科と班を組み、ある課題を克服するための案を構想・発明することが目的である。我々が企業に就職し、製品をつくり上げることに於いて、異なる技術を身に付けた人と共同で製作することがあるだろう。専攻科ではそれを授業の中で疑似的に行われる。課題は年によって変わり、我々の年では「地元(鹿児島)の問題を解消する物を提案する」が課題となった。

今回の課題を克服するために、まずは鹿児島の問題を集めるべく、KJ法やブレインストーミングを行うことで班の意見をまとめた。意見交換を行う中で特に農業に着目したものが多く、鹿児島南西部に位置する長島町に視察を行い、農業関係者から実際に抱えている問題について生の声を聞いた。

私が所属した班で解消しようとした課題は、『サツマイモ等の収穫時における運搬の負担軽減』である。この課題を実現するために、我々は自動運搬車を考案し、開発に着手した。ここで班の中にいる複数の科の人が、互いの強みを生かした技術で部分的な開発を行い、最終的に開発したものを融合されることで完成させる。

我々の班では、都市環境工学出身者は車体設計、機械工学科出身は車体本体製作、情報工学出身者は自動運転プログラム作成、電気工学、制御工学出身者は電気配線、回路作成を担当した。

3DCADで設計し、決められた予算内から材料を用意し、設計された図をもとに車体本体を作成した。そしてプログラムを組み込んだRaspberry Piや認識カメラ、回路を設置した。

期限の関係上、プログラムの完成が叶わなかったが、手動操作を行うコントローラを接続し、物を運ぶ際に段差をなくすための昇降装置を設置し、実際に動作するか確認した。

技術者としての技能を養うための専攻科では、このように通常の大学で体験できないことができるため、技術者になるためには非常に有意義なことができると思われる。

## 専攻科を修了するにあたって

電気情報システム工学専攻 神田 将吾

私が、鹿児島工業高等専門学校の正門を通り、情報工学科に入学してからはや7年が過ぎ、専攻科を修了するときとなりました。この7年間の鹿児島高専での学生生活は、私の今までの人生のなかで、かけがえのない時間であったと胸を張って断言でき、私の誇りです。

本科の学生生活では、文武両道を掲げ、勉学と部活動のサッカーに励む日々を送り、この上なく、充実した学生生活を過ごすことができました。勉学における工学的知識の習得はもちろんですが、部活動において“高い目標に向かって日々挑戦すること”を日々の練習や指導者の先生から学んだと思っています。サッカー部では、夏に開催される全国高専大会での優勝を掲げ、トレーニングをしてきたことや、部活終わりの何気ない会話、栄養会、各種大会など、多くの思い出が、今でも心に染み付いており、私の青春です。

また、学生生活や部活動、寮生活、応援団などの鹿児島高専の環境を通じて、夢を語りあうことができる仲間ができ、一生付き合っていくことができる友を作ることができました。これから、社会へと出て、与えられた環境の中において、時には壁にぶつかり、悩むことがあるでしょう。そのようなときに、腹を割って相談できる友がいると思うと、心強く、今後の人生の宝となっていくだろうと思います。

7年前の入学式に、当時の学校長から“学生は自ら学ばなければならない”という言葉をお聞きしました。当時の私は、その言葉の意味に、あまりピンときませんでした。ただ、この7年間の学生生活の中で、自分にとって必要となることを“自ら学ぶ”とともに、研究活動を通じて、ものごとを探究していく力を習得したと思います。今であれば、学校長の言葉の真意が、身を持って理解できたと思います。

専攻科の2年次では、北海道にて開催された国際学会で発表をさせていただき機会をいただき、おこなってきた研究内容の発表をしました。その学会にて、他大学の学生はもちろんですが、海外からの留学生も参加しており、会話はもちろん英語となりました。簡単な英語ではありますが、コミュニケーションを積極的にとり、会話を進めることが出来たと思います。この経験によって、将来、グローバルに活躍する人材になりたいという目標をたてる事が出来ました。

いよいよ、今まで慣れ親しんだ、この地を離れていきますが、この鹿児島高専の環境において学び、培った経験や思い出、多くの友情を胸に、自分が進むべき、目標に向かって日々挑戦していきたいと思っています。

最後に、今まで、この鹿児島高専でお世話になった人々すべてに感謝申し上げます。鹿児島高専ありがとう。

## 好奇心という種

建設工学専攻2年 徳田 裕二郎

さて、この記事の執筆依頼をお願いされた前日の10月11日、ロシアから二人の宇宙飛行士を乗せ国際宇宙ステーション（ISS）へ向かうロケットの打ち上げが失敗に終わってしまい、私も失敗覚悟で文章を書いている次第であります。記事に失敗があるのかは定かではありませんが。

皆さんは高専に入るときの志望動機を覚えているでしょうか。しっかりとした理由を持った人もいれば、実はなんとなくという人もいないのでしょうか。中学時代、大して何も考えずよく抜けてると言われていた私も（今もですが）、学校説明会で環境分野ってなんとなく楽しそうじゃん！という好奇心から入学を志願したことを覚えています。そんなこんなで入学を決め、気の置けない友達もでき、応援団や寮生活、部活動などを通して本当にありがたいことに楽しい高専生活を送らせていただきました。5年間で過ぎようとしていた時、ここで私は進学か就職かという人生を決める分岐点に立たされました。この記事を読んでいる方の中でも少なからずこのことで迷っている方もいるのではないのでしょうか。ここで、そもそもなぜ高専に入ったかを振り返ってみます。私の場合は環境分野を学びたいという好奇心で入学を決意しました。しかし、その時の好奇心という種は社会に通用する花に育っているのだろうか。何かの歌ではありませんが、ナンバーワンではなくても何か特別なオンリーワンを持っているだろうか。そう考えた私は迷わず進学という道を選んでいました。

しかし、勉強していてもこれは何の役に立つんだろうと考えたりするものです。そんなことは気にしなくていいんです。何の役に立つかわからないけど楽しそうだからやってみる。こういうものを基礎研究と言います。この基礎研究こそが10年後、20年後に花を咲かせるための種になります。例えば、みなさんがよく使っているコンピュータも量子力学という研究を応用して作られたものです。この量子力学が盛んに研究されたのは1990年代初頭。1世紀以上も前に撒かれた種が今、こうして大輪の花を咲かせているのです。

私は現在、下水処理場から排出されるバイオマスである下水汚泥を用いたキノコ栽培の研究を行っております。簡単に言えば、何にも使えない廃棄物から食べ物をつくっちゃおうという研究です。誰もやったことのない研究であり、失敗も多いですが、楽しく研究しています。この経験が将来どうなるかはわかりませんが、一度きりの人生です。好奇心というものを人生の指針にしてみるのも楽しいかと思っています。

さて、記事を書き終え、記事に失敗はないようですが、こんなものでいいのかという心配はあるようです。

## 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

### 《機械工学科》

ANAベースメンテナンステクニクス(2名)
IHIプラント建設株式会社
旭化成株式会社
エクセン株式会社(2名)
キヤノン株式会社
京セラ株式会社鹿児島国分工場
株式会社クレオ
株式会社コスモテック
サントリー
株式会社SUBARU
株式会社ディスコ
株式会社東研サーモテック
ファスフォードテクノロジー株式会社
富士電機株式会社
株式会社富士通ゼネラル
ヤンマー建機株式会社
京セラ鹿児島川内工場
三菱電機エンジニアリング株式会社
西日本高速道路ファンリティアーズ株式会社
大分キヤノン株式会社
中国電力株式会社
東海旅客鉄道
(進学) 鹿児島高専専攻科 (3名)
(進学) 九州工業大学情報工学部(2名)
(進学) 鹿児島大学工学部(7名)

### 《電気電子工学科》

株式会社MHPSコントロールシステムズ
株式会社Mテック
株式会社九州タブチ
株式会社日立ビルシステム
株式会社ユピテル鹿児島
JXTGエネルギー株式会社
九州電力株式会社
京セラ株式会社国分工場(2名)
中部電力株式会社
富士電機株式会社
三菱電機ビルテクノサービス株式会社(2名)
株式会社ワールドインテック
(進学) 大阪大学工学部
(進学) 鹿児島高専専攻科 (7名)
(進学) 九州工業大学工学部(3名)
(進学) 熊本大学 工学部
(進学) 東京工科大学 工学部
(進学) 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学課程
(進学) 琉球大学 工学部 工学科

## 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

### 《電子制御工学科》

ANA (2名)
株式会社A・R・P
DMG森精機株式会社
JFEプラントエンジニアリング株式会社
株式会社アドバンステスト
株式会社オーケー社
カマルク 特定技術研究所株式会社
九州電力株式会社
サントリープロダクツ株式会社
三豊機工株式会社
ソフトマックス株式会社
ダイキン工業株式会社
日本特殊陶業株式会社
株式会社ネオテック
パナソニック オートモーティブ & イングストリアルシステムズ 社
本田技研工業株式会社
南日本新聞社
村田機械株式会社
メタウォーター株式会社
(進学) 岡山大学工学部
(進学) 鹿児島高専専攻科(7名)
(進学) 鹿児島大学工学部(3名)
(進学) 九州工業大学情報工学部(6名)
(進学) 熊本大学工学部(2名)
(進学) 豊橋技術科学大学機械工学課程(2名)
(進学) 豊橋技術科学大学情報・知能工学課程

### 《情報工学科》

OEC株式会社
いちき串木野市
パステムソリューションズ株式会社
パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社
浜松ホトニクス株式会社
ファナック株式会社
富士ソフト株式会社(5名)
富士電機株式会社
メタウォーター株式会社
一般社団法人 日本血液製剤機構
株式会社FIXER(2名)
株式会社NHKメディアテクノロジー
株式会社NTTぷらら
株式会社イーウェル
株式会社ニコン
京セラコミュニケーションシステム株式会社
(進学) 大阪大学 基礎工学部 (2名)
(進学) 鹿児島高専専攻科(5名)
(進学) 千葉大学 工学部
(進学) 九州工業大学 情報工学部(2名)
(進学) 九州大学 工学部
(進学) 九州大学 理学部
(進学) 大阪大学 基礎工学部
(進学) 豊橋科学技術大学 情報知能工学課程 (2名)

## 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

### 《都市環境デザイン工学科》

株式会社ピーエス三菱
JFEシビル株式会社
NTTインフラネット株式会社
株式会社奥村組
株式会社佐多コンサルタンツ
川田工業株式会社
九州電力株式会社
三機工業株式会社
ショーボンド建設
住友不動産株式会社(2名)
東海旅客鉄道株式会社(2名)
東急建設株式会社
パソコン技術管理株式会社(2名)
馬場デザイン工房
南生建設株式会社
株式会社CTIランドプランニング
株式会社NIPPO
株式会社大気社(2名)
株式会社横河ブリッジホールディングス(2名)
(進学)鹿児島高専専攻科(5名)
(進学)鹿児島大学工学部海洋土木工学科
(進学)鹿児島大学工学部建築学科(3名)
(進学)熊本大学工学部社会環境工学科(2名)
(進学)佐賀大学理工学部都市工学科
(進学)長岡技術科学大学環境社会基盤工学課程
(進学)北海道大学工学部環境社会工学科
(進学)宮崎大学工学部社会環境システム工学科

### 《機械・電子システム工学専攻》

アイシン・コムクルーズ株式会社
株式会社 ソラシドエア
セイコーエプソン株式会社
旭化成株式会社(3名)
株式会社 ディスコ
株式会社 日産オートモーティブテクノロジー
株式会社 日立産業制御ソリューションズ
川崎重工業株式会社
(進学)九州大学大学院総合理学府
(進学)長岡技術科学大学大学院電気電子情報工学専攻
(進学)東京大学大学院 新領域創成科学研究科

### 《電気・情報システム工学専攻》

西日本高速道路エンジニアリング九州
I H I プラント建設株式会社
サントリープロダクツ株式会社
全農サイロ株式会社
デンソーテクノ株式会社
花王株式会社
株式会社ニコン
京セラ株式会社
三菱電機ビルテクノサービス株式会社
(進学)航空大学校
(進学)鹿児島大学大学院理工学研究科

### 《建設工学専攻》

JFEシビル株式会社
株式会社大気社
パシフィックコンサルタンツ株式会社
新日本空調株式会社
西日本高速道路株式会社
(進学)長岡技術科学大学環境社会基盤工学専攻

## 私の定年退職

情報工学科 幸田 晃

「やっと来たか」というのが本音です。

元々、研究職の自衛官から民間の会社、例えば HONDA か TOYOTA の研究所へいくつもりでした。ところが、今は退官された和田先生から「高専どう？」とお声が掛り、初めは高校生に教えるのは・・・と思いつつも、「どうやら自分で好きな研究ができるらしい」と分かり、転職しました。給料は半分ぐらいになりましたが、家内の「あなたが楽しそうに出勤するのが第一！」の一言が決定打でした。

東京にいるときは日曜に近くの公園で、人がいない早朝にカセットテープでメトロノームの音を取り、帰宅後パソコンで音響信号処理をするのが通常でした。これが仕事でできるとなると、楽しくないはずはありません。

長年高専にいる、自分の行動が高専ではいささか窮屈になり、「はやく退職こないかな～」と思うようになりました。私の退職はゆっくりしたいではなく、頭の中にある次のアイデアを早く実行できる、一つのゲートです。(偉そうに書いてますが、何もしなかったりして)

ところで、高専を振り返るお話をさせて頂くと、子供が就職・結婚するまでの間、何とか家族を食べさせてただいて感謝しております。仕事面では当然ながらスキル UP は図れました。しかし頭が白くなり、スマートに仕事がこなせなかったのが難点です。

退官後は・・・・・・、という話を書くべきなのでしょうが、正直、今、あまり考えておりません。多分「幸田先生なら・・・」のご想像通りになるのではないのでしょうか。

人生に大切なことは「したいことをする」です。大人は違いますが学生はこの言葉を勘違いすることが多いので、必ずこの言葉の前に「将来の自分も含め人に迷惑をかけない範囲で」が補足されます。「したいことをする」、この言葉を実現することを考えれば、定年というゲートの存在は有意義でもあり無意味でもあると感じております。

## 定年退職にあたって

技術室 山下 俊一

来年は、いよいよ2回目となる東京オリンピックが開催されます。それから5年後の大阪万博開催へと、前回同様、工業技術の進歩もさらに加速し、空想の世界が数多く現実化していくことと思われます。

今ではよく耳にする I o T も数年前までは、その言葉に馴染まなかったところですが、最近では様々な分野で I o T 技術が活用されています。併せてビッグデータを有する A I は、人間よりは劣るだろうと言われていた分野でも、時々ミスを犯す人間よりも的確な判断で信頼性が増しています。これからは人と人の繋がりに加えて、人と A I が協力していく繋がりも必要になる時代が訪れようとしています。

私の着任当時は、本校に初めて大型コンピュータが導入された頃で、当時、まだ少ない空調完備された新しい建屋の部屋中央に鎮座し、プログラム1行に該当する数個の穴が開いたカードを何百枚と凄まじい勢いで読み取っていく状況と計算の速さに感動したものでした。今では、この存在感のあったコンピュータよりも遥かに優秀で、処理能力の速い、数段安価なパソコンが机上にあります。必要とするソフトウェアをインストールすれば万能マシンです。パソコンの無い当時であれば、この原稿も、消しゴムで消しては書き直してと乱筆で書かなければならないところでした。その頃の卒業研究は、大きな紙に手書きで文章や図、グラフを書いて、それをめくりながら発表する等、学生もアナログな作業に多くの時間を費やしていました。その後、1枚のボードに半導体素子を配置したワンボードマイコンという小型コンピュータが現れたときは、学生と共に16進数の機械語プログラムに悪戦苦闘したことを懐かしく思い出します。このコンピュータも今は遥かに高い性能を持つ小さなチップになって I o T 技術を支えています。

振り返れば、アナログからデジタルへとコンピュータの進化と共に多くの技術が進歩した時代でした。今後は、あらゆるモノの自動化が進み、生活環境が向上していくことと思われます。これらの製品を創る技術者を育成する鹿児島高専の役割も今後益々大きくなります。本校が輩出する創造性豊かな人材が新たな工業製品を生み出し、更に豊かな社会にしていくことに期待しています。鹿児島高専へ採用され、今日に至り、国を形成する中で一番大事な若者を育成する教育現場に微力ながら携われたことは大変光栄なことだったと改めて深く思うところです。定年退職の年を迎え、今の心情は鹿児島高専に関係する全てに対し、「感謝」の一言に尽きます。心より御礼申し上げます。

## 退職のご挨拶

学生課 満富 昭二

昭和52年4月本校に採用され、平成30年度末をもって定年退職を迎えることとなりました。鹿児島大学への出向した4年間を含めた42年間という長きにわたり勤務させていただきました。この42年を振り返ってみると、長かったような短かったような感じであり、また、楽しいこと辛かったこと等いろいろなことがあったように思われます。

その中でも、総務課総務係に所属していた際に、本校の創立50周年記念事業の記念式典、記念祝賀会及び記念講演会に関する事前準備から終了までの業務に関わったことが、節目の記念事業でもあり、感慨深い思い出となっています。若い頃、二十歳前半だったと思われませんが、ある大先輩から「人より朝早く来て、掃除をなささい。」と言われ、当時言われたことをすぐに理解し、行動に移すことができるはずもなく、その後、そのことを理解し行動に移せたのは、相当な時間どころではなく、相当な年数を要することとなりました。定年退職まで残りあと2年間というところで、総務課から学生課の入学試験担当に異動となり、専攻科入学試験、編入学試験及び本科入学試験と不安を抱えながら、受検生以上に緊張して入学試験の当日を迎えたものでした。たぶん入学試験に対する不安と緊張からかもしれませんが、寝られないことというのはありませんでしたが、良い夢を見ることはなく、数回程度寝汗をかくこともありました。

このように長い年月の間に業務を行いながら、良い経験をさせていただきと感じており、今後の人生に活かせるものであると考えております。教職員の皆様のお陰で、なんとか定年退職まで業務を行えることができましたことを心から感謝申し上げます。

定年退職後は、多少でも時間的な余裕もあるのではないかと思いますので、車の掃除をしながら、のんびりとドライブや旅行でもしたいと思っております。

最後になりましたが、鹿児島高専のさらなる発展と皆様のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。長い間お世話になりました。誠にありがとうございました。

## 平成30年度優秀教員表彰

優秀教員表彰は、教育活動、学生生活指導、教育・研究を通じた社会への貢献、管理運営の取り組みに関して、顕著な功績を挙げた方を表彰するものです。

平成31年1月9日（水）に優秀教員表彰選考委員会を開催し、選考の結果、一般部門は電子制御工学科の吉満真一准教授、若手部門は一般教育科の池田昭大講師に決定しました。

平成30年度優秀教員表彰の表彰式が、平成31年2月19日（火）に行われ、表彰状及び記念品がそれぞれ授与されました。



## 国際交流室だより

副校長（国際交流・地域連携担当） 塚本 公秀

近年の大学のグローバル化に伴って高専にもその影響が及んできました。学生の就職や進学にグローバルな活動経験とコミュニケーション能力が問われています。そこで本校学生（本科・専攻科）が卒業までにどのような企画を実施しているか国際交流室の活動について紹介します。

### 国際シンポジウム・コンペティションへの参加状況

高専教育では本科生には卒業研究、専攻科生には特別研究として工学における研究と研究発表が必修となります。国内の学会で研究講演を経験する5年生（専攻科では必須）はいました。担当の先生と研究発表を海外の国際会議やシンポジウムで講演する学生もいました。しかし、最近では国内学会でも英語で発表する部門を増やしたり、国際会議で学生の発表部門を設けたり、さらには高専機構の主催する国際シンポジウム等も増えています。

本校がグローバル事業に指定されてから、学生がグローバルな活動を経験する多様な機会とそれに参加するための準備の支援を行っています。その一つが国際的な発表の支援です。本校の専攻科生（5年生も含みます）が国際会議での講演準備に役立つようにと、昨年からは「英語による研究論文の書き方セミナー」（受講生数 H29 年度 44 名 H30 年度 26 名）を開講しております。本年度はこれに加えて「英語によるプレゼンテーションセミナー」（受講生数 13 名）を開講しました。大学や企業で英語論文の書き方やプレゼンテーションの講座を担当されている講師を招いて土日を使っての授業です。受講した学生全員が国際会議に参加したわけではありませんが、将来の進学先や就職先でのことを考えて受講した学生がいました。希望する学生は全員受講できますので、多くの学生の参加を募っております。

この講座での学習もあってか、英語での国際的な活動に平成 30 年度は 12 月時点で国際会議へ 4 人、学生シンポジウムに 17 人参加しています。アイデアソンやハッカソンなどのコンペ形式の活動には 7 人と急増しました。（のべ人数）

### 専攻科生のアカデミック・インターンシップ

実際に海外の大学で研究するプログラムも新設しました。国内企業のインターンシップには就職を考えてほとんどの学生が参加しています。海外の企業へのインターンシップのプログラムを 3 年前から提供するようになり機械工学系、電気電子系を専門とする学生に限っては企業からの奨学金を得てシンガポールの企業で毎年 2 名が

インターンシップを経験しています。

今年度から大学の研究室に滞在するアカデミック・インターンシップを新設しました。フランスやドイツ、タイやマレーシア、韓国の大学の研究室に 2 週間から 4 週間派遣するプログラムです。英語で生活するだけでなく、研究仲間と実験や解析をしながら過ごします。参加した学生からは英語力アップだけでなく特別研究と異なるテーマの研究を経験できて、研究の幅が広がったとの評価を得ています。

### 学生の 10%以上が海外渡航経験者

現在、在校生の 10%以上が海外渡航の経験者になりました。機械工学科では毎年 4 年修了後に一年間休校してオーストラリアやドイツに語学留学する学生がいます。また国際会議に参加する学生がいます。部活動として海外渡航したり、個人や学外の団体が海外渡航したりしている学生もいます。これらの学生を除いても学生の 10%以上が海外での滞在経験者となりました。

本校は国立高専の中から選ばれたグローバル高専事業の指定を受けて多くのプログラムを実施しています。そのため多くの海外研修プログラムや授業外の英語でのコミュニケーションを学ぶ授業を実施してきました。1,2 年生対象の English Camp（1 年生の参加 43 人、2 年生以上 26 人：本年度は霧島市の中学生も 10 人参加しました）、就職に備えた TOEIC の受験のための講座（本科生 56 人、専攻科生 1 人）、毎年の海外研修プログラムも 12 コースあります。さらに部活等の事情で海外研修に参加できない学生も、海外からの学生を招聘して授業と一緒に受けたり、海外からの学生をホストファミリーとして自宅でホームステイさせる機会など、様々な海外の学生とのコミュニケーションの機会を作っています。

これまで本校の国際交流基金のみだった学生への補助も本年度から後援会の補助を得て、夏期の海外研修への参加数も前年度の 1.5 倍に増加するなど、プログラムの増加に加えて参加学生数も急増しました。海外への渡航経験を得た本科生が就職活動、専攻科や大学での研究活動に有益な結果を得られるよう国際交流室は支援しています。

本校は平成 24 年度に 9 高専連携事業の主幹校に指定され、平成 28 年度からグローバル高専事業の主幹校の指定も受けています。この事業はグローバル化する日本社会に対応する技術者教育の育成が目標です。これらの活動は本校ホームページの「グローバル高専事業」のバナーからご覧いただけます。



## アカデミックインターンシップの報告

研修先：ポールサバティエ大学 研究所 LAPLACE  
機械・電子システム工学専攻 2年 二渡 一昇

私は専攻科での2年間に海外渡航の機会が数回ありました。簡単に振り返ると、H29年9月に研究発表のため人生初の飛行機に乗ってタイを訪れ、H30年3月にはインターンシップで約1か月間フランスに滞在。11月には国際学会でのポスター発表のため再びフランスへ、12月には国内の国際学会でも発表しました。H31年3月にはマレーシアでの国際シンポジウムにも参加予定です。また、他にもいくつかの国際交流行事に参加する機会があり、縁あって多くの国際的な経験をえました。ここでは、海外インターンシップに興味がある学生向けに私のフランス滞在時の経験を紹介したいと思います。

### 【研修内容】

私は春季休業中に、南西フランスの都市・トゥールーズにある、IUT・Toulouse III - ポールサバティエ大学の研究 LAPLACE にて、約1ヶ月間のアカデミックインターンシップに参加しました。研修では、「パルス静電応力法 (PEA 法) によるポリエチレンフィルムの空間電荷分布計測」というテーマで研究を行い、試料作製から測定、解析といった一連の実験を行いました。主に電気分野の研究だったため機械工学科出身の私にとって慣れない内容である上に、担当の Griseri 先生とは英語でのやりとりで、実際にはかなり大変でした。ですが、とりあえず目の前のことに取り組んでいくと研修期間が過ぎるのはあっという間で、研究所の方々の丁寧なサポートもあり、充実した研修を送れました。

また、研究とは別に、IUT で機械工学を学ぶ学生の卒業研究に相当するグループワークにも参加させて頂き、現地の学生とも交流を深めることが出来ました。

### 【研修中の生活】

研修中は大学構内にある学生寮で過ごしました。フランスでは、公的機関が大学の学生寮を管理していて、留学生の家賃は1ヶ月 267 ユーロ (約3万5千円) 程度です。部屋はとても綺麗で、キッチン、シャワー、トイレが備わっており、普段は自炊をしていました。大学の近くにスーパーマーケットは無いですが、メトロとバスで市街地や大きな駅に行けば大体なんでも揃います。街を探検すると、生活上のルールや働くことへの考え方など、日本との違いが多く見られて面白いです。

### 【トゥールーズ観光】

街を形作る煉瓦の色から、「バラ色の街」と呼ばれているトゥールーズ。美術館や教会はもちろんのこと、航空・宇宙開発の街で、航空機の博物館やエアバス社の見学など沢山の見所がありました。休日には、現地でご

り合った日本人留学生や、フランス人の友人たちに市街地を案内してもらったり、先生と古城に登ったりと、観光もしっかり楽しめました。

### 【海外渡航について】

インターンシップには「本当に行って良かった」と感じています。実際のところ、現地では初めて経験することばかりで、英語に関しても最初はいまよくコミュニケーションが取れず大変でした。ですが、慣れてくるとあまり抵抗なく英語を使えるようになりました。また、定番の海外トラブルも多発しました。行きも帰りもロストバゲージに遭い、出国予定日にはストライキが重なったことで急遽夜行バスで9時間かけてパリまで行くことに。お蔭でパリー人旅ができたので良しとしますが、いい経験になりました。乗り継ぎのある海外渡航の際は一泊分の衣類をリュックに詰めておきましょう。

### 【インターンシップのその後】

私は帰国後すぐに進路について真剣に考えることになり、悩んだ末に気になっていた東京大学の大学院を受験することにしました。私の成績からは少し背伸びした受験でしたが、無事に合格を頂きました。東大と聞くとかかなり難関に感じますが大学院はまた別の話です。私の受験した専攻は先輩の進学実績もあり、面接と口述試験では研究意欲などが重視されるため、これまでの研究活動や海外経験について積極的に話しました。個人的な感想ですが、海外経験についての話には興味を持って頂けたので、インターンシップや国際学会に参加したことは大きな助けになったと感じています。

以上、多少なりとも在学生の参考になればと思いつつ私のトゥールーズ滞在についてご紹介しました。

### 【おわりに】

現在本校ではグローバル高専事業としての様々なプログラムが行われています。そのため、学生には国際交流や海外経験のチャンスがたくさんあります (詳しくは学生課の国際交流室へ)。実際の経験を通して学んだ文化の違いに対する理解は、外国の人とコミュニケーションを取る上で大きな手助けになると思うので、興味がある人は自分に合ったプログラムを見つけて、積極的に参加してみることをお勧めします。



モンセギュール城に Griseri 先生と行きました

## 海外企業インターンシップの報告

研修先：Jurong Engineering Limited & ISHI POWER SDN BHD

### 機械・電子システム工学専攻1年 和田 一宏

私はシンガポールでは Jurong Engineering Limited、マレーシアでは ISHI POWER SDN BHD にて研修を受けました。どちらも株式会社 IHI の関係会社で、プラント事業に携わっています。

この海外研修に参加した動機は、自分の英語の能力を向上させること、そして、自分の知らない分野の知識を得ることでした。これからの社会では英語は必要不可欠なので、私も英語で話せるようにならなければならないと思いました。また、少しでも多くの知識と経験を得ることが、今後役に立つだろうと思いました。

シンガポールは、様々な人種の人々が住んでいるため、英語の発音が人によって違い、英語を聞き取ることが困難な場合もあります。しかし、発音の違いに寛容なので、日本人の英語でも理解してくれるため、コミュニケーションにはあまり困りませんでした。

シンガポールでの研修では英語でプラントに関する講義を受け、プラントを建設する上で必要な事項を学びました。また、学んだことを英語で発表しました。マレーシアでは、プラント建設の現場を見学し、ボイラーや補助機器を実際に見てその構造やプラントの流れを確認しました。マレーシアは滞在期間が短かったのですが、クアラルンプールへも行き、その地方との格差を実感することが出来ました。

このインターンに参加する前は、外国の方と話すことがとても難しく、外国人は怖いと思っていました。しかし、このインターンに参加して、現地の方と話すことで、そのためらいは無くなり、優しい人が非常に多いと感じました。今では海外の人と怖がらずに話せるようになったと思います。また、プラント建築についてとても多くの知識を学ぶことが出来ました。その知識は、どの分野でも参考になるようなものばかりで、今後の仕事等でとても役に立つと思います。

シンガポールとマレーシアで、とても有意義な経験が出来ました。今回、インターンシップに行き、本当に良かったと思っています。

### 電気情報システム工学専攻1年 重森 和弥

私は9月1日～9月20日の20日間 IPC でのインターンシップでシンガポールとマレーシアを訪問しました。私が本インターンシップに参加した理由は、2つあります。1つ目は、私は英語が嫌いで、得意でもありません。しかし、英語はこれからの社会では必要不可欠だと思い、英語しか話せない環境に身を投じ、英語に慣れようと

思ったからです。2つ目はプラント建設に興味があり海外での建設現場を見学したいと思ったからです。そこで、私は2つの目標を設けました、1つ目は、自分自身の英会話能力の向上です。2つ目は海外でのプラント建設の業務内容について学ぶことです。

私は目標を達成するために、積極的に現地の人に話しかけました。その中で、私はスピーキングよりもリスニングのほうがネイティブとの会話では重要だと感じました。と言うのも、私の拙い発音や文法の英語でもネイティブの方は理解してくれるので、自分の考えを伝えることは可能ですが、相手の考えを理解するためには、ネイティブの話す英語を聞き取らなければなりません。しかし、耳が英語に慣れていないと、ほとんど聞き取る事ができないため、コミュニケーションが円滑に進めることが出来ませんでした。私は、改めてリスニングの重要性を再認識しました。

更に、シンガポールでの生活を2週間経験することで英語を使ってコミュニケーションを取る積極性を得ることが出来ました。更に自分の拙い英語でも現地の方々に意思を伝えることができ、コミュニケーションをとることが出来たときの充実感は、英語が公用語である海外でなければ得られないものだと思います。

また本インターンシップでは、英語でプラント建設に関する講義を受けるという日本では、得られない経験をさせていただき、私はとても貴重な経験をする事ができたという思いで胸がいっぱいです。今回の経験で、英語嫌いの自分が英語を勉強してもっとコミュニケーションをとってみたいと思うことが出来ました。これを機に積極的に英語の学習や国際交流に参加していきたいと思っています。



# 海外企業インターンシップの報告

電気情報システム工学専攻1年 重森 和弥

私は9月1日～9月20日の20日間IPCでのインターンシップでシンガポールとマレーシアを訪問しました。私が本インターンシップに参加した理由は、2つあります。1つ目は、英語への苦手意識を克服するためです。私は英語が嫌いで、得意でもありません。しかし、英語はこれからの社会では必要不可欠だと思い、英語しか話せない環境に身を投じ、英語への苦手意識を克服しようと思ったからです。2つ目は、プラント建設に興味があり海外での建設現場を見学したいと思ったからです。そこで、私は2つの目標を設けました、1つ目は、自分自身の英会話能力の向上です。2つ目は海外でのプラント建設の業務内容について学ぶことです。

私は目標を達成するために、積極的に現地の人に話しかけました。その中で、私はスピーキングよりもリスニングのほうがネイティブとの会話では重要だと感じました。と言うのも、私の拙い発音や文法の英語でもネイティブの方はこちらの伝えたいことを察して理解してくれるので、自分の考えを伝えることは可能ですが、相手の考えを理解するためには、ネイティブの話す英語を聞き取らなければなりません。しかし、耳が英語に慣れていないと、ほとんど聞き取る事ができないため何度も聞き返す事になり、コミュニケーションが円滑に進めることが出来ませんでした。私は、改めてリスニングの重要性を学ぶことができました。

更に、シンガポールでの生活を2週間経験することで、英語で外国人に話しかける積極性を得ることができました。自分の拙い英語でも現地の方々に意思を伝え、コミュニケーションをとることが出来たときの充実感、英語が公用語である海外でなければ得られないものだと思います。

また本インターンシップでは、英語でプラント建設に関する講義を受けました。日本では、なかなか得られない体験で、私はとても貴重な経験をすることができたという思いで胸がいっぱいです。

今回のインターンシップを通して、英語嫌いの私が英語を勉強してもっとコミュニケーションをとってみたいと思うことができ、英語への苦手意識を克服できたと思います。これを機に積極的に英語の学習や国際交流に参加していきたいです。



## 夏期海外研修の報告

研修名：香港テクニカルチャレンジ

機械・電子システム工学専攻1年 萬膳 一成

私は、香港でのテクニカルチャレンジに参加しました。これまで海外渡航の経験はなく、日本でも外国の方と話をするというような機会はほとんどありませんでした。専攻科に入ってから授業でグローバルな人材育成が進んでいると知り、いずれは私も海外に出るのだということとを考慮し、学生のうちに海外経験を積みたいという気持ちで参加しました。香港での活動では、英語での指導がほとんどで日本語による説明などはありませんでした。まさに、生きるためには英語が必要という状況だったと思います。

印象的だった活動は、アンドロイド端末を利用したラジコンカーの製作でした。基板から素子やモジュールを組み合わせてラジコンカーを製作し、現地の学校(IVE)が構築したプログラム補助ソフトにて android アプリを作成しました。その際にダイオードの接続方法を忘れていて、＋を逆に繋げてしまったのが記憶によく残っています。しかし、現地の学生、および先生が素子の取り付け方やテストのやり方など教えてくださり、完成まで到達できました。作業の途中で説明を何回も聞き返す場面があり、英語が1回で聞き取れる能力が足りないと実感しました。作業を効率良く進めるうえでも重要な部分だと感じました。

本プログラムを通して、コミュニケーション能力がかなり鍛えられました。文化、容姿の違いがあるにも関わらず、英語1つで輪を繋げてしまうところに英語の利便さがあるのだと思います。「あればよいもの」から「欠かせないもの」となった英語を今後も深く知り、勉強していきたいと思える海外渡航でした。



研修名：Ara 工科大学ティマル校 語学研修

情報工学科3年 小野 杏奈

私は研修でニュージーランドへ行きました。そこでの約2週間の生活は本当に素晴らしいものでした。以前か

ら日本を出て外の世界を見てみたいと思っていたことや、将来外国で働いてみたいという思いから自身の英語力の向上と、異国の地に行くという体験を目的にこの海外研修に参加しました。

Ara 工科大学での英語の授業とたくさんのアクティビティでは、ニュージーランドの豊かな自然や歴史を学びながら、英語力をぐんと上げることができました。この学校では様々な国の人が学んでいて、たくさんの国の人と英語で通じ合えたことは本当に楽しかったし、私にとって大きな達成感を得ることができました。

そして、私のニュージーランド研修での一番の思い出はホームステイです。この研修ではすべての生活をホームステイで過ごしました。ホストファミリーは私を本当に暖かく迎え入れてくれて、いろんな所へ連れて行ってくれました。夕食の時間では、その日あったことやお互いの国のことなどたくさんのお話をしながら食事をとりました。この家での食事は肉や魚が一品とたくさんの野菜を大きな皿一枚に自分でとって食べるというものでした。日本ではご飯とみそ汁と様々なおかずを皿や小鉢に入れて食べるのが多く、ワンプレートでの食事は新鮮なものでした。さらに、味付けもかなりシンプルで、日本のようにだしをとって醤油にみりん、と沢山の調味料を入れるのではなく、食材を焼くか茹でて、塩コショウやバターだけというものがほとんどでした。日本とは違う食文化に驚きましたが、私はニュージーランドの食事も気に入っています。

このホームステイで素敵な出会いがありました。この家では韓国人の16歳の女の子も一緒にホームステイしていました。彼女や彼女の学校の友達とも親しくなり、ニュージーランドでの休日や放課後の時間はほとんど彼女たちと過ごしました。彼女たちとは今でも連絡を取り合っていて、頻繁に電話やメールをしています。そして私は春休みに韓国に行つて彼女たちと会う予定です。ニュージーランドでの約2週間の生活は本当に素晴らしいものでした。私の英語力は確実に上がったように思えます。とはいえ、まだまだ未熟なため、これからも勉学に励みたいと思います。そして、この研修に参加するにあたって、渡航費補助して下さった後援会の方にお礼申し上げます。ありがとうございました。





## 次世代を担う在学生へ

平成6年3月 機械工学科2組卒業  
㈱日立プラントサービス 郡山 基

在校生、保護者の皆様。平成6年卒業生の郡山と申します。卒業して25年目となりますが、9年ぶりにリクレーターとして学校を訪問した際、かつての恩師三角先生に依頼され、寄稿させて頂くこととなりました。このような機会はめったに経験できないので、自分の振り返りがてら、つらつらと筆を走らせていただきます。

私の経歴としては、㈱日立プラント建設→㈱日立プラントテクノロジー→㈱日立製作所インフラシステム社→㈱日立プラントサービスとなります。会社を転々としたのではなく日立グループ内の統廃合によるものなので、入社当時から従事している仕事は変わりません。弊社は所謂サブコン(Subcontractor)であり、簡単に言うと建設業です。様々な現場を渡り歩き、現場の安全、品質、工程、コストの管理をする仕事となります。入社して5年から10年は下積み経験としてひたすら安全・工程を重視した現場管理を。10年から20年はそれに品質・コストを含めた現場管理を。それ以降今に至っては会社の経営を見据えた現場監督員の管理をしまいいりました。建設業と一言に申しましても実際の業務は多岐にわたり、何一つ同じ物を取めた記憶がありません。基本とする考え方や指針はあるものの、それらをどうあてはめて納めていくのが建設業の楽しいところであり難しいところだと思います。特に現場の長(工事長)となつてからは、コスト管理をさせてもらえるようになります。今まで経験してきた様々なこと。安全に作業をする為にどれくらいのコストが必要なのか。質の高い仕事をする為にいくら必要なのか。工程を守る為にどうお金を使うのか。そういった下積みで鍛えた感覚をフルに生かしながら、会社に貢献する為に損益を考慮し、安全に高品質な物を納期限内に収める。それには、これまで培った感覚と経験が大きく影響します。出来上がった物を機能まで確認し、使用した結果まで知ることができる。これは携わった人にしか理解出来ない達成感です。

在校生の皆様は、今後様々な道を選択することが出来ます。どの会社で仕事をするにしても、トータルバランスは非常に重要です。学校行事を含め様々なことにチャレンジし、是非どんどん視野を広げて欲しいと思います。勉強するのは当たり前です。それは当たり前前に勉強してもらい、それ以外の事、例えば部活、バイト、行事にも積極的に参加し、色々な局面を経験して事が社会に出てから非常に役立ちます。是非とも今しかできない事にどんどん積極的に挑戦してください。皆様が社会に出て、一緒に仕事して活躍するのを心待ちにしています。

## 在校生のみなさんへ

電気工学科20期生 市坪 信一

私は電気工学科を20期生として1983年に卒業しました。卒業してからだいぶ経ちますが、在校生にメッセージできるこのような機会を与えて頂き感謝しています。我々の頃は1,2年生全員が寮生活でした。毎朝7時に歌謡曲を3曲放送で流して、その間にグラウンドに集合してラジオ体操をしていました。寮生活の最初の朝に流れた曲がピンクレディのサウスポーで、今でもこの曲を聴くと新生活への緊張と期待が入り混じった複雑な気分を思い起こします。私は高専を卒業後に大学に進学してNTTに入社してその後にNTTドコモに移り、現在は九州工業大学で教員をしています。

ここでは、旅に出ること、好きな事を見つけることの勧めを書きたいと思います。私は3年生の夏休みに友達2人で山陰・山陽を巡る1週間の旅行をしました。鹿児島高専と大きく書かれているテントを借りて半分くらいはテント泊をしました。社会人になってから、これまで行ったことのない都道府県を仕事に調べてみたところ、秋田県と高知県であることがわかり、すぐに秋田に旅行に行つて2年後には高知にも行きました。若い時に知らない土地に行くことは刺激的で見聞も広がります。最近では格安航空会社が増えて、国内に限らず海外へも安く行ける時代になりました。夏休みの間に稼いだアルバイト代を握りしめて東南アジアなどに友達と出掛けると、世界に対する興味が増すと思います。

最近の就職の採用活動では会社で担当して欲しい業務と本人の希望とがマッチングするかが重視されています。このため自分はどうゆうことが好きでどんなことをやりたいのかを明確にする自己分析が大切です。同じ分野の専門科目でもそれぞれの特徴が異なるので相性があると思います。中には自分の専門分野をそこまで好きではないという人もいますが、会社の中では事業の立ち上げや経営に関わるいろいろな業務があるので、専門分野に限らず自分の好きなことを明確にすることが大切です。好きなことでないと続かないものです。奨学金の支給を誰でも受けられる時代になったので、経済的な理由で進学を諦める必要はないと思います。興味のあることをさらに習得したいと思えば進学も考えてみてください。

最後に、工学は本来、泥臭いものだと思います。この泥臭いことを地べたに這いつくばって一生懸命にやるのがエンジニアだと思っています。有意義な学生生活を送ることを期待しています。

## 高専生として

2018年電子制御工学科卒 田村 光

「学校で学んだことなんて社会では役に立たない。」そんな言葉を耳にしたことはありませんか？

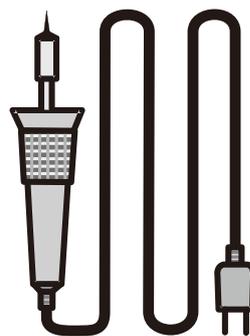
初めまして。私はこの春、電子制御工学科を卒業し、ファナック株式会社に就職して、月中旬で雪が降る奇跡を目の当たりにし、震えながらワイヤカット放電加工機の開発を行っている田村光と申します。



さて、冒頭にいきなり書いた文ですが、高専ではそんなことはありません。実習の時間に学んだ、座学で学んだ電気回路、体育で学んだサボりかいろいろと書きましたが一つとして無駄なものは無かったと言えます。今でも仕事に生きています。定番なセリフですが、学生の時にもっと深く学んでいれば良かったと今になって後悔するものばかりです。皆さんぜひとも深く学んでください。高専での学びは本当に即戦力となります。そして、中学校卒業後、すぐに工学の道へ進んだことによる幅広い学び、本当にこの道を選んで良かったと思います。幅広く学んでいることにより、仕事に何らかが関係してきます。過去に似通ったものの経験があるのはとても強いアドバンテージになります。高専生の就職だと、周りに大学卒がいる環境も多いかと思いますが、私はそんな方々に劣っていると感じたことはありません。寧ろ、大学卒の方に質問されることだってあります。私は高専卒だからそんな風に自分を卑下する必要は全くもってありません。また、学生の時間を有意義に存分に使ってください。学びを深めるのもよし、アルバイトで社会性を高めるのもよし、旅行をして心を豊かにするのだって意義があります。学生の時間は、なんだって価値のある時間になります。

最後に、若くして就職する高専生は苦勞があったりもします。しかし、それは若いというアドバンテージでもあります。そしてまた苦しい時は仲間を探してみてください。鹿児島高専時代の友達でもいいですし、高専生が就職する場所ということはきっと先輩の高専卒の方がいます。高専卒の団結力は凄まじいものです。私も高専卒の上司の方に目をかけて頂いています。もし普通の大学生だったらこうならなかったでしょう。同じ鹿児島高専卒というわけでなく、高専という括りでいろいろと良くして頂いています。あなたの就職、進学する先でもきっと高専からきた仲間がいます。高専生には高専生の良さ

があります。何かに長けていたり、行動力があったり、はたまた変わり者だったり、そこには高専生のおもしろさがあります。ぜひとも就職、進学先でも胸を張って名乗ってください。「私は高専卒です！」



## 社会を支える技術者に

平成 27 年情報工学科卒業 千竈 淳  
(平成 29 年電気情報システム工学専攻修了)

はじめまして。私は中学を卒業後、鹿児島高専情報工学科へと入学、その後電気情報システム工学専攻へと進学しました。現在は、メルコ・パワー・システムズ株式会社にて、電力システム開発の業務に従事しております。

中学生の頃、高専への進学を考えているときは「将来はゲームを作りたい!」というくらいの気持ちでいました。しかし、高専で情報工学についての知識や技術力を身に付けていく中で、社会を支える情報工学の力に気づくことが増えていきました。皆さんの周りにあるスマートフォンを始めとして、もはや私達の生活はプログラムや計算機の力に支えられていると言っても過言ではないと思います。就職について考えるときには、自分の力で社会を支えたいと思う気持ちが強くなっていました。

電力システム開発に従事していると前述しましたが、電力システムと一言で言っても、発電所のシステム、各地域の電気所システム、各契約者への配電システムなど多岐にわたります。システムによって、電力会社のニーズも異なれば、開発に携わる人の数も異なり、全く違うものが出来上がります。しかし、一貫して求められるものが可用性や信頼性です。先日の北海道胆振東部地震で、大規模停電が発生したことをニュースで見た人も多いと思います。電気が契約者に届かなくなることは、生活の不便を招くだけでなく、場合によっては人命にまで関わる重大な問題となります。一刻も止まることを許されないシステムにおいては、異常ケースを想定して設計することが重要となり、その設計力・製作力が技術者の腕の見せ所となります。私も高専で学んだことを活かしながら、日々精進、腕を磨いています。

話が戻りますが、高専の体験入学で、当時の先輩に言われた言葉が未だに胸に残っています。「高専は夢を見つけるための場所」。高専に入学して7年間を過ごす中で、たくさんの人々と出会いました。私はもともと技術に興味があり、高専での勉学も楽しみながら、苦しみながら修了することができました。しかし、別のことに自分の夢を見出し、学校を去る人もいました。高専で見つける夢は、技術者になることだけでなくてもいいと私は思っています。高専での日々の中で、皆さんが夢を見つげられることを願っています。頑張ってください。

## 思えば遠くへ来たもんだ(海援隊)

土木工学科 1 期生 (昭和 47 年卒)  
日高 純三

### 1. はじめに

在校生の皆様、初めまして。私は、土木工学科の1期生で日高純三と申します。1963年(昭和38年)に設立された鹿児島高専では機械工学科2クラス、電気工学科1クラスが5年生まで揃った1967年(昭和42年)に土木工学科1クラスが新設されました。その記念すべき年に高校入試を迎えた私は鹿児島市の甲東中学校から鹿児島高専土木工学科に入学しました。

私は、鹿児島高専で充実した5年間を過ごした後、1972年(昭和47年)に道路舗装会社最大手の日本舗道(株)(現(株)NIPPO)に就職しました。全国各地の事業所で40年間勤務した後、2012年(平成24年)に60歳で定年退職となり、同年に個人事業主として起業し、現在67歳ですが、生涯現役を目指しております。

### 2. 日本舗道(株)時代

40年間の日本舗道(株)時代は本社工事部所属で「中国縦貫道」の測量業務に始まり「普天間飛行場」「嘉手納空軍基地」「筑波学園都市」などでの施工管理や現場代理人業務を経て5年後の1977年(昭和52年)に福岡支店(現九州支店)へ転勤しました。九州支店では福岡県前原出張所、沖縄出張所、佐賀出張所での出張所長として16年間勤務した後、1993年(平成5年)に冬季オリンピック前の長野出張所へ転勤することになりました。九州支店時代に労働組合の九州支部長を務めた事もあり、長野出張所で3年間勤務した後、労働組合本部専従で中央執行委員長を務める事になりました。同時に道路建設産業労働組合協議会(略称:道建労協)の議長も務めました。

労働組合本部専従を下りた後、本社の新分野開拓課長、徳島営業所長を経て本社営業部専門部長となりました。

### 3. 個人事業主として

個人事業主として私が関係している資材に米国で発明製造されている土壌固化剤「パーマザイム」があります。

日本ではまだ実績は有りませんでした。たまたま霧島市牧園町で計画されていた太陽光発電所の土壌固化に採用したいとの意向が、ある企業から示された事もあり、母校である鹿児島高専に提案し2017年(平成29年)11月から共同研究(固化メカニズムの解析)を進めております。

### 4. 在校生の皆様に見るべきこと

私は高専卒の模範的な企業人生を歩いて来たとは思いませんが、道路舗装業界に従事する人々の労働環境や賃

金の向上に貢献したと自負しております。他人のために役に立つという思想は高専時代に培われたと思います。我々1期生はよく議論しました。休日前夜に下宿先に集まり朝まで議論することも度々でした。論題は生き方に関する事、文学に関する事など多々ありましたが、本で読んだだけのいわゆる借りて来た理論はすぐ看破されてしまいました。自分で納得し咀嚼した理論や思想だけが相手に伝わると実感したものです。

私の趣味は読書、音楽鑑賞、映画鑑賞です。幅広い知識は、社会に出てからも役に立ちます。会話に幅が広がり、友人も増えます。それがひいては自分の生き方にも大きく影響すると思います。例えば、映画「ひまわり」に出演した女優「リュドミラ・サペーリエワ」が、その数年前に上映されたソ連版「戦争と平和」のナターシャ役を演じていた事は多くの人が興味を示しました。

教科書での学習は当然大事ですが、人生を豊かにする趣味の領域にも力を注いで下さい。皆様の前途には洋々たる未来が広がっています。ご自愛専一にてご活躍下さい。

## 挑戦は大事！

### 平成 28 年度機械・電子システム工学専攻修了 茶園 拓陽

初めまして。私は本校専攻科を修了し、現在は九州大学大学院総合理工学府大気海洋環境システム学専攻にて、日々研究に励んでおります。先日、高専だよりの執筆依頼を受けましたので、私が在校生の皆さんに一番してほしいことを伝えたいと思います。それは「挑戦」です。たとえ自分が嫌いなことでもとりあえずやってほしいです。それを私の例を交えながら話したいと思います。

私は下級生の頃、英語がとても嫌いでした。何かしら英語が関わる度にストレスであり、TOEIC等の試験は本当に嫌で仕方がなかったです。しかし、このままではいけないと思い、英語への苦手意識を克服するため、英語キャンプへ参加し、シンガポールに行きました。その結果、現地の人達との交流を通して、英語を話せるようになりたいと思うようになり、嫌いだった英語を好きになることができました。

そんな私が来年度から入社する会社は JX 金属という会社で、非常に英語を重要視している会社です。なんと、今現在就職していないにも関わらず、会社から指定された英語の通信教育の受講をしています。更に、入社2年目には2ヵ月間の海外語学研修もあります。このことから、どれだけ英語を重要視しているかが分かります。これからわかることは、あれほど嫌いだった英語を仕事で使うことになったということです。しかし、私は挑戦することで嫌いだった英語を好きになることができました。したがって、全く後悔はなく、むしろ英語スキルを向上できる会社ということが、就職先を決める後押しとなりました。

私の現在、そして未来は、あのときに英語から逃げ出さなかったことで成り立っています。挑戦することで自分の幅を広げることができたのです。何かしらから逃げ出すということは、自分自身の幅を狭めることと同意です。だから皆さんには、どんなことでも挑戦し、多くのことを経験してほしいです。また、その経験が勉強や仕事に生かせなかったとしても、話のネタにはなります。話のネタを多く持つということは、コミュニケーション能力に直結します。だから、挑戦して多くのことを経験するという事は、絶対に無駄にはなりません。

最後になりますが、5年間、あるいは7年間というのは長いようで本当にあつという間です。この間にどんなことでもいいので挑戦してみてください。また、余談ですが遊ぶことも重要です。高専時代にできた友達は一生の友達になります。だから、勉強も遊びも両立した残りの学生生活を楽しんでください！

## 在校生のみなさまへ

平成 23 年度 電気情報システム工学専攻修了  
丸山 幸輝

皆様、こんにちは。2012年に専攻科を修了致しました、丸山と申します。専攻科を修了したその年の4月に、株式会社ダイセルという化学メーカーに就職し、現在に至ります。電気情報出身なのに何故化学メーカーなのか、と疑問に持たれる方も多いと思います。私も学生時代はその一人でした。ただ、当時リクルーターとして来られた本校の先輩から、電気情報系のエンジニアが化学メーカーで働く事について話を伺ったときに、「このメーカーなら仕事に対するモチベーションを維持しつつ、エンジニアとしての成長が期待出来そうだ!」と感じ、就職する決意をしました。就職してからすぐは、当然分からないことだらけで苦勞する事が多くありましたが、今となっては大変充実した社会人ライフを過ごしております。

私が充実していると言っている理由の一つに、入社2年目でボイラー設備の建設担当者に任命されたという経験があります。会社としても大きなプロジェクトにまさか任命されるとは思ってもいみませんでした。上司や先輩に丁寧かつ厳しい指導を受けながら、各関係者の方々(社内は勿論、社外メーカーとの関わりがとて多い)と一緒に楽しく仕事をさせていただきました。今振り返ると、当時は仕事内容のハードルが高く不安もありましたが、レベルの高い仕事に対する意欲がそれを上回っており、モチベーションを維持しつつも、エンジニアとして大きく成長できた、まさに学生時代に思い描いていた通りになりました。鹿児島高専からダイセルへは6名就職しております。2019年には創業100年を迎えますので、この機会に是非興味を持って頂ければ幸いです。

さて、前置きが長くなりましたが、これから社会人となる皆様へメッセージをお送り致します。参考になるかわかりませんが、是非ご一読下さい。

### ・様々な事に興味を持つ

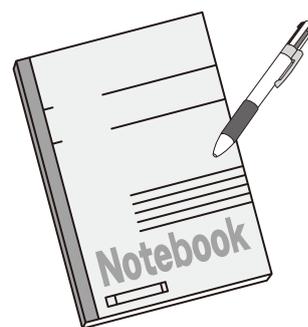
エンジニアは、多くの専門的知識や技術を駆使して仕事を進めていきます。これらの知識や技術は、例えばインターネット、図書文献または先生から教わることで、学生でも十分に養うことができます。これから就職する上で、仕事で必要となりそうな知識や、自分が興味を持っている事、社会でトレンドとなっている事など、広いジャンルで好奇心を持って自分から接していくと良いと思います。広く浅い知識でも今後の自分の糧となります。

### ・自分が本当にしたい事を仕事にするために

就職した後、定年まで少なくとも40年近くあります。

大半の人は、人生のほぼ半分を新卒入社した会社で過ごす事になります。より充実した社会人ライフを過ごすためには、自分の好きな事を仕事にするのが一番の理想です。時間がたつぷりとある学生時代の今、自分が本当にしたいことをよく見極めることに取り組むことをお勧め致します。高専を悪く言う訳ではありませんが、中には高専でやりたい事を見いだせず、退学して全く新しい道を選ぶ人もいるかもしれません。でもそれは間違いではなく、自分が本当にしたい事を見極めた結果だと思えます。これから先の長い人生、就職というこの大きなターニングポイントを、自分にとってより良い判断にするために、家族、友人、社会人の先輩、知人または先生によく相談して、自分自身を見つめ直す事に大いに時間を掛けてはいかがでしょうか。(私自身も周りの人にいろいろ相談して、自分に納得した上で、今の会社に就職しました。)

未筆ながら、在校生ならびにその他鹿児島高専関係者の皆様の今後益々のご活躍を祈念致します。



## ご愛読の皆様へ

土木工学専攻 10 期生 大田 智也

皆様、ご無沙汰しております。平成 22 年度土木工学専攻を修了しました大田 智也と申します。私は専攻科修了後に鹿児島県内の民間企業を経験した後、地元である薩摩川内市役所に土木技師として入庁し、日々郷土の発展に努めております。



現在は、国土交通省九州地方整備局に出向（平成 29～30 年度）させていただいており、主に九州管内の地域河川行政に携わっております。

今回は、国土交通省で勤務することで感じたことを皆様にお伝えできればと思い執筆させていただきました。

現在の業務内容としては、九州 7 県・3 政令指定都市と国土交通本省間で仲介役のようなことをしており、県市が実施する河川改修（大雨が降っても河川が氾濫しないようにすること）や河川環境整備（周辺地域の住民に河川に親しみをもってもらうようにすること）や海岸事業（津波や台風強い海岸をつくること）等のお手伝いをしております。仕事の関係上、鹿児島県庁の河川課と毎日のようにやりとりをしておりますので、鹿児島高専の先輩方には大変お世話になっております。もちろん鹿児島高専の先生方にも学識者としての意見や知識をご教授いただいております。

しかし、九州管内で年間何百箇所という整備をしておりますが、どれだけ整備をしても災害は起こるものです。2 年間の出向中には「平成 29 年 7 月九州北部豪雨」「平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）」をはじめ、たくさんの地震や台風上陸がありました。その度に防災室に詰め、ずらりと並んだモニターのチェックと各県からの情報収集に奮闘した結果、何度徹夜をしたか覚えておりません。人生でこれほどまでに徹夜をしたのは、夜通しで頑張ったヤマブシタケの菌床作り（高専時代）ぶりだと思います（笑）。

災害の数だけ被災地をまわり、国所有の防災ヘリでも上空から被災時や直後の状況調査をしました。これまで鹿児島県（薩摩川内市）で雨が降らなければ…台風が上陸しなければ…と心の中で思っていた自分が恥ずかしくなります。近年では、気候変動等により既往最大級の降雨が頻発しております。いつ南海トラフが揺れるか、桜島が噴火するかもわかりません。現在、国では「水防災意識社会の再構築に向けた緊急行動計画」（施設では守りきれない災害は必ず発生するもの！社会全体で生きる

ための意識改革、逃げ遅れゼロ）を推進しております（H29.6 発表 H30.12 改定）。この機会に防災意識を高めてみてはいかがでしょうか？

高専から見える壮大な桜島の噴煙、国分隼人を優雅に流れる天降川をずっと見られることを願いながら、鹿児島高専の更なる発展とご愛読の皆様のご活躍を期待しております。

## 広報委員会の活動報告

副校長（国際交流・地域連携） 塚本 公秀

本年度の広報活動として、特にお知らせしたいことが二点あります。まず一点目は本校のホームページのトップページの更新を行いました。本校の情報発信の場として有効であると認識しつつも、緊縮予算の中なかなかできておりませんでした。外部の方々の御意見から部分的ではありますが、改善を本年度に実施しました。

トップページを右図に示すように大きく変更しました。写真を大きく、多く掲載しました。また学科の学生の写真を目立つように最上部に配置しました。なにより学外からスマートフォンでアクセスしてホームページを見られた際に、全体が表示されるようにレスポンシブ・デザインという機能を取り入れました。これは見る環境（PC・タブレット・スマホ等）によって画面幅を検知し、それぞれの環境に最適化された表示を行う機能で、これまでパソコンで見るとを前提に最適に表示してきたものを変更しました。

最近ではさまざまな機器がインターネットにアクセスできるようになり、中学生や保護者の方など自宅のパソコンよりも個人の持つスマートフォンや各種サイズのタブレットでの閲覧が主流になってきました。これで本校のホームページも多くの閲覧者へ快適な画面で情報を提供できるようになりました。来年度にはさらに改善を加えて、動画などを多く掲載し、本校の活動や学生の様子などの情報発信を計画しています。

二点目はリニューアルした広告媒体として、JR 単人駅の掲示板があります。これまでいわゆる布を貼った板に画鋏でポスターを留める木製掲示板を使用してきました。今年度アルミ製のパネルの掲示板に交換しました。この掲示板は JR 単人駅の跨線人道橋の階段を上がる正面に位置しています。本校の行事に関するポスターで一例としては、「ニューライフカレッジ霧島」の開催案内、学生の夏期研修の募集案内、小中学生への高専チャレンジの案内、入試案内など学内、一般に関わらず多くの行事のポスターを掲示しています。

本校の活動を広く知っていただくための重要な活動ですが、日本社会の生活スタイルの急激な変化への対応に追いついていけない状況に苦慮しています。年齢層によっても、各人の活動の場によっても情報を得る方法が大きく異なり、情報提供をする側から各種の広告媒体への対応ができないことに困っています。かつては新聞やテレビ等が効率のよい広報媒体でしたが、近年、若い世代の新聞やテレビ離れが進みインターネットによる情報収集にシフトしています。これからは、求められる情報を効率よく発信するよう努力してゆきます。



改善後の本校ホームページのトップページ



単人駅構内の本校のパネル

# ニューライフカレッジ『隼人学』

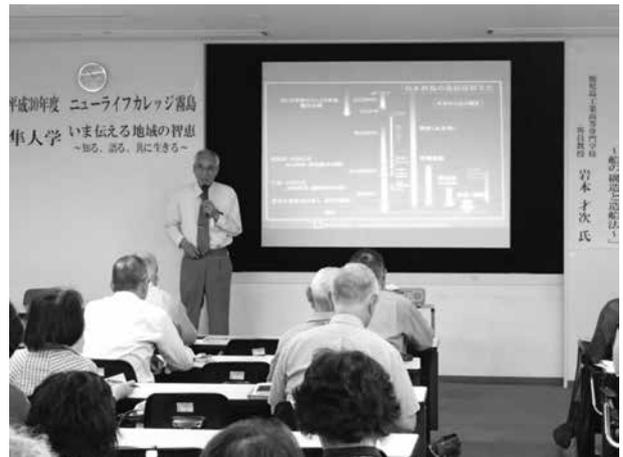
副校長補佐（広報） 保坂 直之

ニューライフカレッジ霧島・隼人学は志学館大学生涯学習センター・霧島市教育委員会と共催している連携講座です。どなたでも参加できる生涯学習のための講座で、地域の魅力を深く学ぶことを目指しています。

平成30年度は「いまを伝える地域の知恵～知る、語る、共に生きる～」というテーマで全部で10回の講座が計画されました。そのうちの後半、第6回以降は本校を会場として開講されました。

学校を開放して地域の人と共に学べる機会を持つということは本校にとっては大変喜ばしいことです。堅苦しい座学ではなく、たとえば「わらべうた」（第6回）などは歌ったり体を動かしたりのイベントでもあって、参加したみなさんが打ち解けられる楽しい集まりでした。

第1回の講座では本校の岩本才次客員教授が講師を担当しました。本校での研究をわかりやすい形で知っていただく機会にもなっています。



隼人学 H30 年度予定表（連携講座チラシより転載）

第1回	5月12日 <sup>土</sup> 9:30~12:00	<b>開講式</b> 日本のふねの歴史と西郷どんの時代の船について～船の構造と造船法～ 鹿児島工業高等専門学校 客員教授 岩本才次氏	国分公民館
第2回	6月9日 <sup>土</sup> 9:30~11:30	<b>大地と共に生きる～土地利用と減災の知恵～</b> 志学館大学人間関係学部 准教授 宗建郎氏	国分公民館
第3回	7月7日 <sup>土</sup> 10:00~15:00	<b>みんなに伝える☆お話しワールド</b> 志学館大学人間関係学部 特任講師 岩下雅子氏 / 志学館大学 学生 鹿児島国際大学 元教授 種村エイ子氏	志学館大学 (鹿児島市)
第4回	8月11日 <sup>土</sup> 9:30~11:30	<b>霧島と明治維新</b> 霧島市教育委員会 社会教育課	国分公民館
第5回	9月8日 <sup>土</sup> 9:30~11:30	<b>地域の宝～薩摩狂句を伝え・楽しむ～</b> 霧島市公民館講座講師 牧本一丁目氏	国分公民館
第6回	10月13日 <sup>土</sup> 9:30~11:30	<b>「昔なつかし、わらべうた」～一緒に、遊びもんそや！～</b> 新松田ピアノ友社ミュージックフレンド主宰 わらべうた講師 三島理恵氏	鹿児島高専
第7回	11月10日 <sup>土</sup> 9:30~11:30	<b>発掘調査からみるグローバルな世界</b> 霧島市教育委員会 社会教育課	鹿児島高専
第8回	12月8日 <sup>土</sup> 9:30~11:30	<b>地域が和む魔法の力～かごしま弁と共に～</b> 児童文学作家 志学館大学非常勤講師 種村紀子氏	鹿児島高専
第9回	1月12日 <sup>土</sup> 9:30~11:30	<b>西郷どんが愛した日当山温泉郷の魅力</b> 日当山温泉旅館組合 組合長 米田知弘氏	鹿児島高専
第10回	2月9日 <sup>土</sup> 9:30~12:00	<b>いま伝えよう！地域の知恵～共に生きるために～</b> コーディネーター 志学館大学法学部 教授 岩橋恵子氏	鹿児島高専
		<b>閉講式</b>	



## 5年間を終えて

後援会 会長 川路 昭典

会員の皆様、日頃より後援会活動に対しましてご支援とご協力を頂き心より感謝申し上げます。

後援会の理事として早いもので5年が終わろうとしています。微力ではありましたが今年度は会長という大役をさせていただきました。これまで会長職を経験したことのない私が学校まで2時間という距離、地域の実情もままならない中でここまでできたのも常務理事をはじめ理事の皆さん、三役の方々、先生方そして何よりも会員の皆様方のお力添えがあったからとっております。本当にありがとうございました。

後援会の役目は学生の勉強や課外活動などを支援することです。高専は自由すぎる、ゆるすぎると思われる保護者の方もいらっしゃるかもしれませんが、高専だからこそ事由な発想や色々なことにチャレンジでき、固定観念にとらわれない奇抜なアイデアはこの高専から生まれてくるものと思います。保護者の皆さん、ここ鹿児島高専で子供さんに様々なことに挑戦させてください。後援会は精いっぱい支援をさせていただきます。

皆様もご存知のとおり高専の就職率は非常に高く、これも一流企業が大部分を占めます。高専の魅力であり、高専を選んでいただく理由の一つになっていると思います。高専は工学系の大学と違って早くから専門知識を身に付け基礎がしっかりしていることや豊富な実技や実習は若くして即戦力となることから高校や大学とは違いエンジニアになる一番の近道である学校と考えます。

保護者の方からの質問等でよくあるのが子供の様子が分からない、学校の様子が分からないということです。担任の先生から届く通信も時々あります。ただ、それだけでは不十分です。学校や後援会では保護者の方々ができるだけ後援会や学校を知っていただくために様々な機会を設けています。中でも11月に開催する本校支部会では学校の状況を主事の先生方から細かく説明していただきます。そして一番好評であるのが卒業生による話です。3名の卒業生に在校生のエピソードから卒業後の活躍している貴重な体験を聞くことができます。そのほか文化祭、体育祭、総会そして部活動など見学や応援に学校に来ていただくことにより、子供の様子や学校の状況も分かるようになってきます。そうすることにより子供との話ができて、学校や後援会に意見や要望ができるようになると思います。お仕事の都合や学校から遠いなどなかなか行くことは困難かもしれませんが、大切な5年間となります。できる範囲内でいいですので足を学校に運んでみてください。

最後にこれまでの会員の皆様のご支援に心より感謝申し上げますとともに鹿児島高専と後援会の益々の発展を祈念いたします。

## 出合いに感謝

後援会 副会長 瀬戸口 浩一

7年前長女の入学式の日、後援会の理事として私にお声をかけて下さり、校長及び先生そして役員の方々の先輩たちの話を直接聞くことが出来たことは大変ありがたく思います。高専は、普通の高校と違う事、大学とも違う事に大変不安を持ちました。また、後援会は学校の教育の振興及び充実並びに課外活動等を支援し、協力することが目的であり、後援会事態が何か活動をする部分はほとんどないことです。しかし、支援の内容等を協議する上で今まで学校でできていたことが出来なくなり後援会への支援を求められることも多くなりました。高校授業料無償化や少子化問題等による国の財政負担が大きくなる中で学校への支援も変わりつつあるのかもしれない。

他に目を向けると少子化の中で公立高校は、廃校や統合する学校、また、私立の高校では新しい学科や進学に突出する学科の新設、サービスの向上（制服の変更や広範囲のスクールバス）など少子化の中で変化しつつあります。

高専も土木工学科から都市環境デザイン工学科へ、また、全寮制の廃止や進学者の増加や海外研修拡大など変わってきました。また、民法も変わり18歳からの選挙権や2022年からは、18歳から成人となることを考えると今の高専の学生も半分が成人者となることになりました。

高専は、15歳で「学生」として扱われます。学生は、自律的、自立的に『学ぶ』者であり、子供扱いされないことが成人への一歩だと思います。今後は、後援会も変わる必要があるのかもしれない。

後援会の副会長になりいろいろな人と高専について話をすることが多くなりました。保護者からは、学校・祭・部活・進路のことなど。また、地域企業、地域の方々からは、就職のことや学校で学んでいることなど聞かれることが多くなりました。学校・学生への期待や希望を持っている人がこんなに多いことに気づくことが出来ました。今考えると子供が高専に進学してくれたおかげで多くの人と出会うことができたことに感謝しております。

## 5年間ありがとう

電気電子工学科5年 理事 松元 政夫

身体が少し弱く生まれて心配した息子が大きくなるに連れて元気になり、そして、高専に無事に入学した。寮に入るという。親から見れば勉強は大丈夫だろうか、寮での生活がやっていけるのだろうか？と心配で、金曜日の夕方に家に帰って来た時に元気な顔を見て安心して、また、日曜日の夜に帰って行く時に、一週間元気でと心の中で思いつつ見送った事を思い出しています。そして、無事に卒業、就職も決まり一安心しています。

息子の学校生活はどうだったのだろうか？授業は？寮での生活は？体育祭の応援団は一生懸命頑張っていたのだが、雨で応援のみの体育祭になったのが残念だったのではないかとと思いつつ実際は授業参観、高専祭、体育祭等には行く事が無く、入学式と4年生の時の体育祭しか行かなかったです。

ですが、後援会の理事を引き受けた事で学校や生徒の学習進度、一年間、五年間の動き、寮での生活、問題等を知る事が出来たこと、また、理事の皆さん、先生方と意見交換や懇親会等で後援会の内容や学校、寮の運営、学校の伝統、素晴らしい理念の下の教育方針を知る事が出来て良かったです。

息子も卒業して就職して安心するやら、やって行けるのか？親としては心配の種が付きません。高専で5年間学んだ事、寮での生活習慣を付けて下さった事を信じて送り出したいと思います。

最後に先生方、後援会みなさん、5年間ありがとうございました。

## 5年間を通して

情報工学科5年 理事 梶原 明美

あつという間の5年間でありながら、またよく悩んだ5年間でした。入学前には地元の進学校と迷い。入学直後には専門教科のレベルの高さや、クラスの平均点の高さに驚き。周りに聞く他の学校との環境との違いに驚き。そして卒業前には第一希望を手術により受験できなくなることに。その後すぐ県外の大学編入試験に合格するものの、夏から、平行で受けていた就職の最終選考が12月中旬に合格発表になり、冬の終業式前まで、進学か就職かまた悩むことに。めずらしいパターンではあるかと思えます。本人がいろいろな悩み、決断せられる度に、自分で決められるのかと、親は不安でしたが、本人が悩み最終決断してきたことがなによりです。のちに後悔してもあの時は、自分なりに考え決断したことです。

子供自身は1年生の頃はわからないことばかりで、私から「他の子に聞いたら？」と言えば、「聞けないし！みんなも知らないし！」と、同じメンバーで同じ学科に同じ寮、最初は、楽しくても性格も丸わかりで気を使いすぎて疲れて一人になりたいときも、あつたかもしれません。その中で、寮生活やさまざまな授業や実験、文化祭、体育祭など経験していく中で、楽しさを覚えていったようで高専生活を無事に過ごして行きました。4年生になったころから家の中の会話で、学校の友達に対する感謝の言葉を聞くようになりました。友達に対して「楽しい友達」だけでなく「友達に対するリスペクト」が加わり始めたのだと思いました。子供達もみんななかには、5年間の間には、何かをやり遂げるまでに、意見がぶつかるなどぎくしゃくした関係になったこともあると思います。それでも壁を乗り越えて共通の目標を達成できたからこそ「友達から仲間」になれたのではないのでしょうか。

クラス理事をさせてもらった感謝の意味から親御さんや子供たちへこれから卒業して県内外に就職、進学すると思います。最初は戸惑いや楽しさ、そしてときには寂しさを感じる時があると思います。その時は連絡ください。子供も県内に残りますのでいつでも待ってます。後輩の親御さんみなさまへ今から進路にむけ悩むことも多いかとおもいますが、後援会支部会に参加されて是非さまざまな疑問をぶつけて情報を知ることをお勧めさせていただきます。本当に5年間ありがとうございました。

## 高専生の親 1 年生

機械工学科 1 年 理事 塩田 千鶴

大きな期待を胸に高専の門をくぐった入学式から一年が経とうとしています。小学校のころから夢はエンジニアと言っていた息子が高専で学ぶことは夢への第一歩を着実に踏み出したのだと感慨深い気持ちになったことを思い出します。

しかし、こんなに早く専門性の高い学校に進学することに不安がなかったわけではありません。分野は違いますが親である私自身が専門職であるため、進学した後に自分の適性に悩み辞めていった人たちを見てきました。ですから学校のことを多くは語らない息子から実習が楽しいという話を聞いた時は正直ホッとしました。これからは専門科目が増え、勉強に苦戦することが出てくるかと思いますが、学ぶ楽しさを忘れず、5年間頑張ってもらいたいと思います。ゲームをしている姿ばかり見ているので心配です。ちゃんと5年で卒業してほしいものです。また、部活動や学校行事を通して人間的にも大きく成長することを願ってやみません。

高専は私が知る高校とはまるで違い、驚きと戸惑いの連続です。私自身も高専生の親として一年生。一つ一つ勉強し、息子が楽しい高専生活を送られるようサポートできたらと思います。まあ当の息子は私のサポートなど全く期待していないことは承知していますので、私自身が楽しめたらいいなとも思います。

今回、思いがけず理事を引き受けることになり不安もありましたが、理事会の活動を通して高専の事を少しずつ知り、学校や後援会の学生に対する充実したサポート体制に感謝の気持ちと共に素晴らしい学校で学ばせることができているという安心感を持つことができました。この恵まれた環境でしっかりと学び、社会に貢献できる、技術の先に人の笑顔が見えるエンジニアになってほしいと思います。

## のびのびと、心豊かに

情報工学科 1 年 理事 引地 渉

コーヒーをブラックにするかどうかともそう。人は毎日、何かを決断しつつ過ごしている。私自身も半世紀以上を生き、大きな決断を迫られた場面も多々あった。結婚とか。

一人息子は15歳にして「高専への道」を決断した。両親揃って文系人間。高専で学ぶこと、というより高専そのものの認知度が高かったとはいえ、意外という言葉では足りない、驚きをもって息子の決断を迎えた。高校へ進学し、3年後にどこかの大学へ…という想定の中にいた私たち親は、高専の何たるかをそこから調べることとなった。

鹿児島市に住む15歳の男子中学生と私たち親が、高専を直接見聞きできる機会は少なく、学校説明会があった土曜日は、初めてのことでだらけの高専の何をも見逃すまいと緊張しながらキョロキョロしていたことを思い出す。暑い日で、お茶を飲んで休憩していたときだったか、校内でにこやかに、爽やかに挨拶をしてくれた好青年と出会った。見覚えのあるその顔は、息子の中学のバスケット部の1学年先輩だった。高専に入学して半年、「変わったあ〜！」そして「伸び伸び、楽しそう」。高専の印象も急上昇。

最終的に高専を受けるにあたって、息子が言った言葉は「最短距離を行きたいから」。すでに「なりたいもの」があって、そこを一直線で目指す、そのために高専に行きたい、と。そこには大きな決断があった。

入学が決まりあらためて高専を訪問して感じたことは、ここは高校ではないということ。高専生は学生である、という事実。渡されるのも生徒手帳ではなく学生証。言ってみれば「大人扱い」でもある。伸び伸びと過ごす中には、大人としての責任が伴う。とはいえ、体も心もまだまだ成長期。稼ぎもなく、そこらはまだまだ子どもだ。

入学と同時にスタートした寮生活も、きちんとやれているか、などと心配してもしようがないわけで。多感な時代に過ごす寮生活で学ぶものは少なくないだろう。教室のそれとは違う人間形成の場にもしてほしい。

昨秋は、プロコンにも出場するというので、徳島まで応援に駆けつけた。誇らしくもあり、全国の高専の充実した取り組みを直接見ることもできて貴重な体験となった。

志を同じくする仲間とともに過ごす時間は、あっという間だろう。高専での授業、実験、部活動、寮生活…。日々を大切に、のびのびと、心豊かに過ごしてほしい。

私の明日はコンビニのカフェラテLサイズで、朝をスタートさせよう。心豊かな一日になるように。



# 平成31年度 行事予定表

No.1

2019年4月			2019年5月			2019年6月			2019年7月			
日	曜日	本 科	回 数	本 科	回 数	本 科	回 数	本 科	回 数	本 科	回 数	
日	曜日	専攻科	本 科	専攻科	本 科	専攻科	本 科	専攻科	本 科	専攻科	本 科	
1	月	総合交付式	1	水	祝日(天皇陛下即位)		1	土	1	月		
2	火	新卒式	2	木	休日		2	日	2	火		
3	水	入学式(10時)／入学式(11時)／入学式(12時)／入学式(13時)／入学式(14時)／入学式(15時)／入学式(16時)／入学式(17時)／入学式(18時)／入学式(19時)／入学式(20時)／入学式(21時)／入学式(22時)／入学式(23時)／入学式(24時)／入学式(25時)／入学式(26時)／入学式(27時)／入学式(28時)／入学式(29時)／入学式(30時)／入学式(31時)	1	金	憲法記念日		3	月	7	3	水	
4	木	入学式(10時)／入学式(11時)／入学式(12時)／入学式(13時)／入学式(14時)／入学式(15時)／入学式(16時)／入学式(17時)／入学式(18時)／入学式(19時)／入学式(20時)／入学式(21時)／入学式(22時)／入学式(23時)／入学式(24時)／入学式(25時)／入学式(26時)／入学式(27時)／入学式(28時)／入学式(29時)／入学式(30時)／入学式(31時)	2	土	みどりの日		4	火	1	3	4	木
5	金	授業開始(特別)	1	日	こどもの日		5	水	2	4	金	
6	土	授業開始(特別)	1	月	祝日(天皇陛下即位)		6	木	3	5	土	
7	日	授業開始(特別)	1	火	祝日(天皇陛下即位)		7	金	4	日		
8	月	授業開始(特別)	1	水	祝日(天皇陛下即位)		8	土	5	月		
9	火	授業開始(特別)	1	木	祝日(天皇陛下即位)		9	日	6	火		
10	水	授業開始(特別)	1	金	祝日(天皇陛下即位)		10	月	8	水		
11	木	授業開始(特別)	1	火	祝日(天皇陛下即位)		11	火	8	木		
12	金	授業開始(特別)	2	日	祝日(天皇陛下即位)		12	水	8	金		
13	土	授業開始(特別)		月	祝日(天皇陛下即位)		13	木	8	土		
14	日	授業開始(特別)		火	祝日(天皇陛下即位)		14	金	9	日		
15	月	授業開始(特別)	2	水	祝日(天皇陛下即位)		15	土	9	月		
16	火	授業開始(特別)	2	木	祝日(天皇陛下即位)		16	日	9	火		
17	水	授業開始(特別)	2	金	祝日(天皇陛下即位)		17	月	9	水		
18	木	授業開始(特別)	2	土	祝日(天皇陛下即位)		18	火	9	木		
19	金	授業開始(特別)	3	日	祝日(天皇陛下即位)		19	水	9	金		
20	土	授業開始(特別)		月	祝日(天皇陛下即位)		20	木	9	土		
21	日	授業開始(特別)		火	祝日(天皇陛下即位)		21	金	10	日		
22	月	授業開始(特別)	3	水	祝日(天皇陛下即位)		22	土	10	月		
23	火	授業開始(特別)	3	木	祝日(天皇陛下即位)		23	日	10	火		
24	水	授業開始(特別)	3	金	祝日(天皇陛下即位)		24	月	10	水		
25	木	授業開始(特別)	3	土	祝日(天皇陛下即位)		25	火	10	木		
26	金	授業開始(特別)	4	日	祝日(天皇陛下即位)		26	水	10	金		
27	土	授業開始(特別)		月	祝日(天皇陛下即位)		27	木	10	土		
28	日	授業開始(特別)		火	祝日(天皇陛下即位)		28	金	11	日		
29	月	授業開始(特別)		水	祝日(天皇陛下即位)		29	土	11	月		
30	火	授業開始(特別)		木	祝日(天皇陛下即位)		30	日	11	火		
31	水	授業開始(特別)		金	祝日(天皇陛下即位)		31	月	11	水		

心電図検査／胸部レントゲン／血糖検査  
通学車両登録  
合同企業セミナー

後援会総会  
高校総体  
学業自励車登録  
交通安全講習会・自転車乗車防止講習会(1,2,3F)  
合同企業セミナー

特別研究 I プレーン→縮定  
特別研究 II

交通安全講習会・自転車乗車防止講習会(4,5,6,9,9,9,9,9)  
北スター-1以上の討議(特別研究 II)

二輪車実技講習会  
九洲沖繩地区高等専門学校  
西日本地区高等専門学校  
秋七ヶハービー  
公開講座





# 編 集 後 記

「鹿児島高専だより」第73号をお届け致します。

このたび、「鹿児島高専だより」の編集後記をお書きする機会を得ましたこと、大変うれしく思っております。

さて、2018年は、慶応から明治へ改元されて満150年にあたる記念すべき年でした。2018年のNHK大河ドラマも明治維新150年にあたることから企画されたものとお聞きします。

その大河ドラマにも登場しました、薩摩藩第11代藩主の島津斉彬公の言葉に、次の旨の言葉があります。

「西洋の人も、佐賀の人も、薩摩の人も同じ人間ですから、怠ることなく一生懸命努力しなさい。そうすれば、西洋の人にも、佐賀の人にもできたように、薩摩の人にも必ずできるはずです。」

言い得て妙で、とても励みになる言葉に思います。

2019年は、平成から次の元号への改元の年。本校が益々発展していきますこと、願ってやみません。

では、島津斉彬公の言葉をご紹介させて頂きましたこと、編集後記に代えさせて頂きます。

「鹿児島高専だより」第73号を発行するにあたりまして、ご多用のなか原稿をご執筆頂きました皆さま方、高専だより専門委員会の皆さま方をはじめ関係者の皆さま方、心より感謝申し上げます。

高専だより専門委員長 中村 格

## 「高専だより」専門委員会委員

委員長	中村 格 (電気電子工学科)
委員	保坂 直之 (一般教育科)
	徳永 仁夫 (機械工学科)
	室屋 光宏 (電子制御工学科)
	古川 翔大 (情報工学科)
	提 隆 (都市環境デザイン工学科)

担当事務 学生課図書情報係

## 「鹿児島高専だより」第73号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会

発 行 鹿児島工業高等専門学校

〒899-5193

鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1